

1 地域計画概論		LS-A-101	必修 2単位 1 年前期
Introduction for Community Planning			
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
単独(1人が全回担当)	○	教職科目 (工業)	
複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
○ オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目 (商業)	
クラス分け(クラス分けて担当する)	○	地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
1年全組 大沼 正寛 伊藤 美由紀 中井 周作 高木 理恵 畠山 雄豪 谷本 裕香子 岸本 誠司 栗原 広佑 大場 真			
授業の達成目標			
「地域(の空間および社会)」は、生活デザインの基盤である。本科目は、「地域計画」に関わる学術領域について、導入的知識を涵養し、その後の学習意欲を高めることを目標とする。東北・宮城・仙台といった身近な事例を扱い、「地域」および「地域計画」の基本的要件を学び、カリキュラムの系統、分野の構造について理解を深める。個々人の将来の進路開拓について考え、そのための具体的な学習指針をたてることも同等に重要な目標とする。			
授業の概要			
生活デザイン学科の教育目標・体系を学ぶ。カリキュラムの系統と専門科目群の位置づけを把握したあと、全体を3編に分節し、将来の統合的な学びとなる分野ユニットである「生活福祉学」「生活環境学」「生活文化学」に関わる学術領域を紹介し、基盤的な用語とその語意を理解する。各分野ユニットにおけるオムニバス講義では、それぞれの学術的関心や専門技術を紹介する。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
指定しない。オムニバス講義ごとに、当該年度に適した参考図書を推薦する。			
参考書等			
成績評価方法・基準			
毎回とも、講義+レポート記入時間で授業を構成し、提出されたレポートの内容理解度にもとづく得点を合計し、評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
総合的見地から成績評価を行う。最終回に全体に対しフィードバックを行う。			
備考			

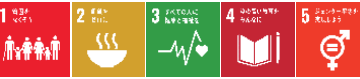



1 地域計画概論		LS-A-101	必修 2単位 1 年前期
Introduction for Community Planning			
授業計画 (各回の学習内容等)			
学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)	
第1回 (1) 生活デザイン学科のカリキュラムと分野構成 (カリキュラム・キーワード・講義予定を概説する) (2) 生活福祉学の世界 (生活福祉学領域の学習目標や科目体系、学びの要点を概説する)	(1) 学科のカリキュラム構成を予習する (2) 生活福祉学に関わる参考図書などを通読しておく (1) これからの学習行動計画をたてる (2) 生活福祉学領域に関わる科目群のシラバスを通読する	福祉や住宅に関する時事を予習する	2
第2回 生活福祉学・その1: ささえあう暮らしをデザインする (地域の安全安心にかかる基礎概念を概説し、多	福祉住環境の関連分野を考える		2
第3回 生活福祉学・その2: ユニバーサルデザイン論 (福祉空間と共助育成の各分野について概説し、バリアフリー	バリアとは何かを考える 生活空間のユニバーサルデザインについて復習する		2
第4回 生活福祉学・その3: 防災と地域・都市 (地域防災分野について概説し、防災について関心を深める)	日常生活の安全について考える 防災計画の改善を考える		2
第5回 生活福祉学・その4: 都市基盤と社会心理 (都市基盤と行動分析分野について概説し、公・共・私の行動を再	道路や公共施設など、都市基盤について考える 市民の行動と心理、分析法について考える		2
第6回 (1) 生活福祉学・その5: 小括ディスカッション (各回の内容を横断的に論じ、理解度をチェックする) (2) 生活環境学の世界 (生活環境学領域の学習目標や科目体系、学びの要点を概説する)	(1) 前4回のオムニバス講義を振り返っておく (2) 生活環境学に関わる参考図書などを通読しておく (1) 討論の要点と持論をレポートにまとめる (2) 生活環境学領域に関わる科目群のシラバスを通読する	自分の生活環境を考える	2
第7回 生活環境学・その1: 地域環境をとらえなおす (地域環境分野と現代的課題について概説する)	身近な環境問題を事例から再考する		2
第8回 生活環境学・その2: 住まいの環境設計 (環境設計分野と住環境デザイン論について概説し、真のエコハウ	自室の内観を予習する 住宅の周囲環境を事例から再考する		2
第9回 生活環境学・その3: 住宅の性能を科学する (環境問題における住宅の性能論の基礎を概説し、省エネルギ	省エネに関する記事等を調べる 今後の住宅性能を考察する		2
第10回 (1) 生活環境学・その4: 小括ディスカッション (上記3回の内容を横断的に論じ、理解度をチェックする) (2) 生活文化学の世界 (生活文化学領域の学習目標や科目体系、学びの要点を概説する)	(1) 前3回のオムニバス講義を振り返っておく (2) 生活文化学に関わる参考図書などを通読しておく (1) 討論の要点と持論をレポートにまとめる (2) 生活文化学領域に関わる科目群のシラバスを通読する	東北地方の地図と河川流域について予習しておく	2
第11回 生活文化学・その1: 東北・宮城・仙台の地理 (地理の基礎と民俗文化分野について概説し、地域の暮らし	各地域の生業や産業を考える		2
第12回 生活文化学・その2: 地域の食・文化・芸術 (地域に培われた食・文化・芸術について概説し、生活工芸分野の	地域の食・文化・芸術について、興味関心を有する事例を挙げておく 地域文化への関心事をどのように表現伝達するかを考える		2
第13回 生活文化学・その3: インテリアとランドスケープ (造家造景分野と建築関連資格について学び、歴史のなかの	各地の町並みや景観、インテリアやエクステリアへの興味関心を深める 地域らしい住まいとまちなみ景観について再考する		2
第14回 (1) 生活文化学・その4: 小括ディスカッション (上記3回の内容を横断的に論じ、理解度をチェックする) (2) まとめ: 福祉・環境・文化と生活デザイン	(1) 前3回のオムニバス講義を振り返っておく (2) これまでの講義ノートを振り返っておく (1) 討論の要点と持論をレポートにまとめる (2) これからの学修計画をより明確化する		2

2	生活学演習	LS-D-104	必修 2単位 1年後期
	Basic Practice of Life Science		
授業形態		該当科目	SDGsの取り組み
単独(1人が全回担当)		<input type="radio"/> 教職科目(工業)	
<input type="radio"/> 複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)		教職科目(情報)	
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目(商業)	
クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目	
		<input type="radio"/> 実務経験のある教員担当	
		<input type="radio"/> アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
1年全組 畠山 雄豪 伊藤 美由紀 谷本 裕香子 川名 美宏 庄子 奈々絵			
授業の達成目標			
身近な生活に関する道具や設備とその素材の背景や基礎的なデザインを学ぶとともに、実体験を通じてそれらを用いる方法を理解し、実際に作成する演習を通じて、道具づくりや環境づくりに関する基礎的な理解と技術を習得する。			
授業の概要			
豊かな生活の実現のためには、日常的生活環境を適切に形づくる必要がある。本演習では、様々な生活場面において登場する空間、各種の道具や設備を、それを形づくる素材と共に、豊かな生活環境づくりの基礎として捉える。地域社会のなかの生活のありようについてソフト/ハードの両面から理解を深め、場づくりの構想・表現にまとめることができる。演習は、2部構成となっている。前半においては、主にソフトとして個人・家族単位の社会空間のありようを場の図解、グループワーク、ディスカッション、ディベート、プレゼンテーションを通して実施し、空間、生活具の関連を学ぶ。後半においては、人の生活の日常的な行為の一つである「食」に着目し、食空間における動作寸法や基本の設備を学ぶ。また、生活の場にフォーカスを当て、空間の使われ方を把握する手法を学ぶ。			
実務経験を活かした教育について			
担当教員は、計画、プロダクトデザイン、設計の実務に従事した経験を活かし、自分で考えたものを形に表現し人に伝える力、企画・設計等の力を養成する。			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
プリント等参考資料を必要に応じて配付する。			
参考書等			
成績評価方法・基準			
レポートや作成した作品による評価を行う。詳細は初回に提示する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
レポートや作品について次回授業の中で共有し、学生間で課題を評価し合う機会を設ける。			
備考			

2	生活学演習	LS-D-104	必修 2単位 1年後期
	Basic Practice of Life Science		
授業計画(各回の学習内容等)			
	学習内容(授業方法)	学習課題(上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	全体ガイダンス/衣食住について/家と社会	自分の身の回りのものを観察する	1
第2回	団らんの生活行動(自身を知る)文字で自分を表現した落款をデザインする	自身の一日の行動について把握する	1
第3回	団らんの場の描画	自身の生活の場について自身の空間の状況を把握する	1
第4回	団らんの場と生活具の関係性の把握	西山卯三の調査手法、描画手法について理解する	1
第5回	生活と団らんの場の分析	生活の場について計測、描画のための情報を得る	1
第6回	団らん未来WS(生活具を中心に)	空間とその場にある生活具の関連を確認する	1
第7回	衣食住未来 WS(空間を中心に)	自身の生活の場を確認する	1
第8回	前半講評会(団らん編)	他者との共有した内容と自身の生活の場の関連性を知る	1
第9回	台所(キッチン)の計測と基礎知識・動作寸法	自身の24時間行動観察とバース+道具を確認する	1
第10回	台所(キッチン)の歴史・現代の台所(キッチン)について	生活具に関する改善策、議論およびアイデア出しを確認する	1
第11回	台所(キッチン)の給排水・電気・給湯など、基本の設備	家、家以外の「くらし」に関する改善策を調べておく	1
第12回	部屋の観察描画(空間をとらえる)空間の使われ方の把握および観察記録	「くらし」に関する改善策、議論を行う	1
第13回	部屋の観察描画(空間をえがく)空間の描画方法の取得および描画	前半で行った個人・グループのワークを確認しておく	1
第14回	後半講評会(空間・台所(キッチン)編)	伝えたいことが伝わっていたか全員で振り返る	1
		動作寸法とは何か予習しておく	1
		自宅のキッチンで動作寸法を確認する	1
		身の回りの台所(キッチン)について調べる	1
		さまざまなメーカーの台所(キッチン)を調べる	1
		給排水・電気・給湯など、基本の設備について調べる	1
		自宅のキッチンの設備を確認する	1
		自宅を中心とした生活の場の使われ方を調べておく	1
		空間の使われ方を確認する	1
		空間をとらえた描画手法について予習しておく	1
		スケールをともなった描画手法を確認する	1
		自分のアイデアを伝える練習をする	1
		他人のプレゼンを参考にしつつ自分のプレゼンを振り返る	1

3	地域調査演習	LS-D-106	必修 2単位 2 年前期
	Basic Practice of Field Survey		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
単独(1人が全回担当)		<input type="radio"/> 教職科目 (工業)	 
<input type="radio"/> 複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目 (商業)	
クラス分け(クラス分けて担当する)		<input type="radio"/> 地域志向科目	
		<input type="radio"/> 実務経験のある教員担当	
		<input type="radio"/> アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
2年全組 大場 真 伊藤 美由紀 中井 周作 高木 理恵 岸本 誠司			
授業の達成目標			
人々の生活や地域をより良くデザインするためには、モノや空間、行為や環境など様々な事象を客観的に捉えることが必要となる。基礎的な調査手法を習得するとともに、調査した結果などをわかりやすく効果的に他者に伝える基礎的な表現手法を習得する。この演習では、自宅周辺や大学周辺などの仙台市、宮城県、東北地方などを対象とする。			
授業の概要			
調べるための手法と伝えるための手法を中心に扱う。具体的には「正しく読み取り、測ることができる」、「数値等を用いて客観的に表現することができる」「他者に正しく効果的に伝えることができる」ことなどに重点をおく。実践的調査ではグループワークもとり入れ、学んだ表現方法を用いてプレゼンテーションを行う。授業では、実務経験のある教員がより実践的な授業構成とする。			
実務経験を活かした教育について			
担当教員は、これまで自治体において地域社会の課題活動の調査研究に従事していた経験があり、その実績と経験を授業に還元して対応力の養成を図る。			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
必要に応じて紹介する。			
参考書等			
成績評価方法・基準			
時間終了時等の試験、提出された課題について、総合的に評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
課題については、次回授業時に全体に対しフィードバックを行う。			
備考			

3	地域調査演習	LS-D-106	必修 2単位 2 年前期
	Basic Practice of Field Survey		
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	調べることの意味	調べることの意味について考える。 データ・グラフの読み取りについて調べる。 演習で受けた手法を使って調査を行う。 データ・グラフの読み取りについて、実例を探して復習する。	1
第2回	室内環境調査 実習室でグループごとに測定とデータの整理	室内環境について考える。 測定したデータを整理する。	1
第3回	室内環境調査結果の表現(1) グラフ作成	前回測定したデータの特徴を捉える。 再度グラフを作成する。	1
第4回	室内環境調査結果の表現(2) グラフ作成と考察	前回作成したグラフの特徴を捉える。 策定したデータや作成したグラフを見直し、再度考察を行う。	1
第5回	GISの基礎(1) 地図の閲覧と編集	身近な地理情報システムについて調べる。 閲覧した地図や作製した地図を見直す。	1
第6回	GISの基礎(2) 地理データ処理	前回取得したGISの操作方法を確認する。 地理データの取り扱い方について復習する	1
第7回	フィールドワーク&レポート作成(1)	調査予定地についてネット等で調べる。 調査地でのメモや写真を整理する。レポートを作成する。	1
第8回	フィールドワーク&レポート作成(2)	調査予定地についてネット等で調べる。 調査地でのメモや写真を整理する。レポートを作成する。	1
第9回	表現手法 (Adobe Illustrator; 基本操作)	Adobe Illustratorについて調べる。 取得した操作方法について復習する。	1
第10回	表現手法 (Adobe Illustrator; ロゴ)	書籍や雑誌などのロゴについて調べる。 取得した操作方法について復習する。	1
第11回	表現手法 (Adobe Illustrator; 地図)	他人に伝わる地図を実例に基づいて調べる。 取得した操作方法について復習する。	1
第12回	表現手法 (Adobe Illustrator; ポートフォリオ)	ポートフォリオとは何かを調べる。 取得した操作方法について復習する。	1
第13回	全体の振り返り (プレゼン資料作成)	これまで調べたことやデータなどを整理する。 プレゼン資料を作成する。	1
第14回	全体の振り返り (プレゼンテーション)	自分のプレゼンに活かせるよう効果的なプレゼンテーションについて、あらかじめ調べる。 プレゼンテーションに対して受けた質問やコメントについて再度答えを考える。	1

4 4 暮らしのデザイン実習 I		LS-D-401	選択 3単位 2年後期
Social Planning Practice I			
授業形態	該当科目	SDGs の取り組み	
単独(1人が全回担当)	教職科目 (工業)		
○ 複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)	教職科目 (情報)		
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	教職科目 (商業)		
クラス分け(クラス分けて担当する)	○ 地域志向科目		
	○ 実務経験のある教員担当		
	○ アクティブラーニング		
	メディア授業		
クラス・担当教員			
2年全組 岸本 誠司 伊藤 美由紀 中井 周作 畠山 雄豪 大場 真			
授業の達成目標			
生活者(使用者)の視点に立ったデザインを行うために、生活者の心身や生活環境に関する安全安心問題を正しく明らかに把握するための調査や分析の方法を学び、改善策を考え提案することができる。			
授業の概要			
調査対象を自分や自分たちが生活する地域とし、学内や学外に出向き、実際に体験をしながら課題を発見し調査や提案を行う。自分の生活域である、宮城や仙台の地域の特徴を捉えたくらしをグループディスカッションやグループワークを通して考え、プレゼンテーションを行う。授業では、実務経験のある教員がより実践的な授業構成とする。			
実務経験を活かした教育について			
担当教員は、地域社会の課題活動の調査研究に従事していた経験者が複数おり、その実績と経験を授業に還元して対応力の養成を図る。			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
教員が作成するオリジナル資料を配付する。			
参考書等			
成績評価方法・基準			
提出物(作品またはレポート)とその発表の内容をもとに評価を行う。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
レポートについては、次回授業時に全体に対しフィードバックを行う。			
備考			

4 4 暮らしのデザイン実習 I		LS-D-401	選択 3単位 2年後期
Social Planning Practice I			
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	ガイダンス：生活者のための調査とデザイン展開 大学生生活や地域社会に関する質問紙調査の作成	グループディスカッションを通して質問紙が作成できる(予習：大学生生活に関する調査の目的について考えてのぞむ) 復習：体験実習の結果分析についてグループワークで出た意見や教員のアドバイスを基に不十分な部分を補う	1.5
第2回	大学生生活や地域社会に関する質問紙調査の作成と実施	調査結果を予測して調査を開始できる(予習：大学生生活や地域社会に関する課題について考えてのぞむ) 復習：質問紙調査の作成と実施についてグループワークで出た意見や教員のアドバイスを基に不十分な部分を補う	1.5
第3回	大学生生活に向けての質問紙調査のデータ整理と結果の発表	調査結果を他者に伝えることができる(予習：調査を振り返り発表の準備を行う) 復習：データ整理と結果の発表について学生とのディスカッションや教員のアドバイスを基に不十分な部分を補う	1.5
第4回	自分が生活する地域に関する調査：ガイダンスと計画立案	地域に関心を持つ(予習：生活する地域について情報収集をしておく) 復習：ガイダンスと計画立案について配付された資料や教員のアドバイスを基に不十分な部分を補う	1.5
第5回	自分が生活する地域に関する調査：計画の実施と可視化	地域の抱える課題を考える(予習：生活する地域の現状と調査内容を振り返る) 復習：計画の実施と可視化について配付された資料や教員のアドバイスを基に不十分な部分を補う	1.5
第6回	自分の生活する地域に関する調査結果の発表	地域の抱える課題の解決策を考える(予習：発表の準備を行う) 復習：発表に対する教員のアドバイスを基に不十分な部分を補う	1.5
第7回	室内空間とインテリアや生活用品の大学内調査	生活空間と生活具の関係を考える(予習：生活具や空間とその課題について考えてのぞむ) 復習：収集した文献や教員のアドバイスを基に不十分な部分を補う	1.5
第8回	室内空間とインテリアや生活用品の調査と表現	生活空間と生活具の関係を描ける(予習：自分の生活空間と生活具を計測する) 復習：調査結果の描画について教員のアドバイスを基にまとめる	1.5
第9回	室内空間とインテリアや生活用品の表現方法を評価	他者の生活空間と生活具の表現を評価する(予習：自分の生活空間と生活具の描写を他者に説明する準備をする) 復習：他者や教員のアドバイスを基に描画をまとめる	1.5
第10回	インテリアや生活用品の市場調査	生活具を客観的に評価する(予習：自分の生活具の使用評価をする) 復習：客観的な評価を基に改善点を考える	1.5
第11回	インテリアや生活用品の調査と企画案	改善策を考え提案を表現できる(予習：調査結果を関連付けてのぞむ) 復習：企画案について教員のアドバイスを基に不十分な部分を補う	1.5
第12回	インテリアや生活用品の提案と図面	提案するものを図面で表現できる(予習：図面の書き方を復習してのぞむ) 復習：具体的な提案について教員のアドバイスを基に不十分な部分を補う	1.5
第13回	インテリアや生活用品の模型	提案するものを形で表現できる(予習：制作する模型の素材や工程を考える) 復習：課題と提案について教員のアドバイスを基に不十分な部分を補う	1.5
第14回	インテリアや生活用品：プレゼンテーション	画像や作図を活用し他者にわかりやすく伝える(予習：発表の準備を行う) 復習：プレゼンテーションについて学生とのディスカッションや教員のアドバイスを基に不十分な部分を補う	1.5

5	くらしのデザイン実習 II Social Planning Practice II	LS-D-403	選択 3単位 3年前期
授業形態		該当科目	
単独(1人が全回担当)		教職科目 (工業)	
○ 複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目 (商業)	
クラス分け(クラス分けて担当する)		○ 地域志向科目	
		○ 実務経験のある教員担当	
		○ アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
2年全組 伊藤 美由紀 中井 周作 畠山 雄豪 大場 真 田中 望			
授業の達成目標			
仙台・宮城・東北地方を対象に地域の暮らしに焦点を当て、ヒト、モノ、コト、場をキーワードに様々な視点から問題・課題を明らかにする知識、それに加え課題を解決するための知識を身につける。授業では、実務経験のある教員がより実践的な授業構成とする。			
①地域・生活・福祉・防災等に関する客観分析法を学び、課題発見・解決提案できる。 ②福祉まちづくり系の研究・制作法の基礎を学び、自己研鑽に活かす構想ができる。			
授業の概要			
目標に達するため、フィールドに実際に足を運び実践的に調査を行い、その結果を分析し、ポスターセッション等により結果を客観的に人に伝えるプレゼンテーションを行う。授業では、実務経験のある教員がより実践的な授業構成とする。			
実務経験を活かした教育について			
担当教員は、自治体や企業において地域社会の課題活動の調査研究に従事していた経験者があり、その実績と経験を授業に還元して対応力の養成を図る。			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
教科書なし。			
参考書等			
参考書は自作のものとする。			
成績評価方法・基準			
ポスターセッション等によるプレゼンテーションとレポートなどの提出物により総合的に評価を行う。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
プレゼンテーションやレポートについて、授業内や次回授業時に全体に対しフィードバックを行う。			
備考			

5	くらしのデザイン実習 II Social Planning Practice II	LS-D-403	選択 3単位 3年前期
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	ガイダンス 社会調査の手法 (定性定量分析)	くらし系の研修テーマを事前に調べ学習し、ガイダンスをとおり概要を知る。 文献調査について復習する。	1.5
第2回	社会調査の手法 (定性定量分析) くらしを聴く：障がい者とその支援者の講話・調査計画	障がい者の生活に関して予習をする。 習得した知識、調査計画について復習する。	1.5
第3回	社会調査の手法 (定性定量分析) くらしを聴く：調査・データ整理	調査方法とデータ整理について予習する。 分析結果をもとに復習する。	1.5
第4回	社会調査の手法 (定性定量分析) くらしを聴く：データ分析と発表準備	データ分析について予習を行う。発表準備をもとに復習を行う。 発表準備について復習を行う。	1.5
第5回	社会調査の手法 (定性定量分析) くらしを聴く：プレゼンテーション・まとめ	プレゼンテーションについて予習を行う。 実施した内容をまとめ復習を行う。	1.5
第6回	社会調査の手法 (定性定量分析) くらしを観る：調査計画・グループワーク	ユニバーサルデザインやバリアフリーについて予習を行う。 作成した調査計画をもとに復習を行う。	1.5
第7回	社会調査の手法 (定性定量分析) くらしを観る：調査・データ整理	調査内容の予習を行う。 調査結果をもとに復習を行う。	1.5
第8回	社会調査の手法 (定性定量分析) くらしを観る：データ分析と発表準備	データ分析について予習を行う。 発表準備について復習を行う。	1.5
第9回	社会調査の手法 (定性定量分析) くらしを観る：プレゼンテーション・まとめ	プレゼンテーションとディスカッションについて予習を行う。 実施した内容をまとめ復習を行う。	1.5
第10回	研究制作の手法 ユニット体験：グループワーク	グループワークの進め方について予習を行う グループワークで作成した資料を復習する	1.5
第11回	研究制作の手法 ユニット体験：調査	調査計画について予習を行う。 調査内容をもとに復習する	1.5
第12回	研究制作の手法 ユニット体験：調査の分析	データの分析方法について予習をする 分析したデータとまとめた資料をもとに復習する	1.5
第13回	研究制作の手法 ユニット体験：発表準備	伝達手法やプレゼンテーションについて予習をする 発表資料をもとに復習する	1.5
第14回	研究制作の手法 ユニット体験：プレゼンテーション・まとめ	「くらしのデザイン実習」での学びが統合できるよう、これまでの実習内容をもとに予習する。 「くらしのデザイン実習」での学び、実施した内容をまとめ復習を行う。	1.5

6	住まいのデザイン実習Ⅰ	LS-D-402	選択 3単位 2年後期
	Housing Design Practice Ⅰ		
授業形態		該当科目	SDGsの取り組み
単独(1人が全回担当)		教職科目(工業)	
○複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)		教職科目(情報)	
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目(商業)	
クラス分け(クラス分けて担当する)		○地域志向科目	
		○実務経験のある教員担当	
		○アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
2年全組 栗原 広佑 阿部 正 大沼 正寛 高木 理恵 由利 収			
授業の達成目標			
出題内容をもとに、職住のあり方、家族構成、地域性などに配慮した住まいを設計し、魅力的・論理的に表現伝達することができる。また、木造住宅の構法・部位・部材を理解し、設計製図をまとめることができる。各種図面に加えて模型製作などを通して表現技法を高め、魅力的なプレゼンテーション・ボードを仕上げることができる。			
授業の概要			
我が国において木造住宅は建築物の主たる要素であり、昨今再び注目されている。本実習では、職・住、家族構成や、仙台・宮城・東北の地域性に立脚した特徴ある住宅設計課題を通して、住まいのデザインの魅力と本質的課題に触れ、これを一つの作品に統合し、プレゼンテーションを行う。			
実務経験を活かした教育について			
授業では、建築士・デザイナーら、資格や実務経験のある常勤教員・非常勤講師により、実践的な授業構成とする。			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
松本正富、政木哲也、半海宏一、鯉坂誠之「建築デザイン製図」学芸出版社、2018増田奏「住まいの解剖図鑑」エクスナレッジ、2009日本建築学会編「第2版コンパクト建築設計資料集成 <住居>」丸善、2006			
参考書等			
成績評価方法・基準			
住宅設計作品の完成度に関する評価を中心とし、これに各回の学習・創作態度に関する評価を加える。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
講評会で全体に対し評価・フィードバックを行う。			
備考			

6	住まいのデザイン実習Ⅰ	LS-D-402	選択 3単位 2年後期
	Housing Design Practice Ⅰ		
授業計画(各回の学習内容等)			
	学習内容(授業方法)	学習課題(上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	第1部 併用住宅の設計(1) 住空間の事例研究と構想 住空間の事例を学ぶ	参考図書を用い、好きな作品を探求する 以降の設計構想を練る	1.5 1.5
第2回	第1部 併用住宅の設計(2) フィールドサーベイと配置計画 対象敷地のフィールドサーベイに基づき、住宅の配置計画を検討する。	対象敷地の調査を行う。 住宅のコンセプトに応じた配置計画を検討する。	1.5 1.5
第3回	第1部 併用住宅の設計(3) 平面計画 住宅の平面計画を行い、寸法と面積の整合性を検討する。	諸室や動線部分の寸法を確認しておく。 エスキスの内容に基づき、案の修正を行う。	1.5 1.5
第4回	第1部 併用住宅の設計(4) 断面計画 住宅の断面計画を行い、各階と壁穴部分の整合性を検討す	戸建住宅内の高さ寸法について確認しておく。 エスキスの内容に基づき、案の修正を行う。	1.5 1.5
第5回	第1部 併用住宅の設計(5) 立面・開口部の計画 開口部の検討を中心とした住宅の立面計画を行う。	開口部・建具の種類や寸法を確認しておく。 エスキスの内容に基づき、案の修正を行う。	1.5 1.5
第6回	第1部 併用住宅の設計(6) 手書き製図のまとめ 配置・平・断・立面計画を統合し、手書き製図図面として	建築製図での線種の使い分けや記号表記について確認しておく。 図面をプレゼンテーション用にまとめる。	1.5 1.5
第7回	第1部 併用住宅の設計(7) 中間講評会 手書き製図図面をもとに、設計案を発表する。	発表シナリオをまとめておく。 指摘された内容をもとに設計内容を改善する。	1.5 1.5
第8回	第2部 設計と表現技法(1) 環境性能設計 設計案を題材として、CASBEEによる環境性能評価を	CASBEEについて調べておく。 環境性能評価の結果をもとに設計内容を改善する。	1.5 1.5
第9回	第2部 設計と表現技法(2) 外構設計 エクステリア・造園・植栽といった外構計画を検討する。	外構計画の事例を調べておく。 エスキスの内容に基づき、案の修正を行う。	1.5 1.5
第10回	第2部 設計と表現技法(3) 模型制作1 模型製作法を身につけ実践する。	製作を自習で進めておく。 エスキスの内容に基づき、次の工程に移る。	1.5 1.5
第11回	第2部 設計と表現技法(4) 模型制作2 模型製作法を身につけ実践する。	製作を自習で進めておく。 エスキスの内容に基づき、次の工程に移る。	1.5 1.5
第12回	第2部 設計と表現技法(5) パネル制作1 パネル表現技法を身につけ実践する。	表現構想を進めておく。 エスキスの内容に基づき、次の工程に移る。	1.5 1.5
第13回	第2部 設計と表現技法(6) パネル制作2 パネル表現技法を身につけ実践する。	表現構想を進めておく。 エスキスの内容に基づき、次の工程に移る。	1.5 1.5
第14回	第2部 設計と表現技法(7) 最終講評会 模型とパネルをもとに、設計案を発表する。	発表シナリオをまとめておく。 指摘された内容をもとに設計内容を改善する。	1.5 1.5

7 住まいのデザイン実習 II		LS-D-404	選択 3単位 3年前期
Housing Design Practice II			
授業形態	該当科目	SDGsの取り組み	
単独(1人が全回担当)	教職科目(工業)		
○ 複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)	教職科目(情報)		
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	教職科目(商業)		
クラス分け(クラス分けて担当する)	地域志向科目		
	○ 実務経験のある教員担当		
	○ アクティブラーニング		
	メディア授業		
クラス・担当教員			
3年全組 大沼 正寛 高木 理恵 栗原 広佑 渡邊 武海			
授業の達成目標			
生活をとりまく地域空間に広く関心をもち、その特徴、課題や可能性を分析することができる。それをもとに、コミュニティや価値向上を考慮した場所の設計を行い、論理的に説明することができる。工学的な内容と意匠的な内容を統合し、魅力的な提案図書を作成して、説得力ある口頭プレゼンテーションを行うことができる。			
授業の概要			
課題は大きく2編ある。一つは「エリア・サーベイ」であり、主に仙台・宮城を題材として、地域空間に広く関心をもち、グループでその特徴、課題や可能性を抽出、分析する。もう一つは「プレイス・デザイン」で、エリアの価値向上や課題解決に向けてどのような場所に着目し、どのような改善を行えば良いのかをデザイン提案する。なお後者は、建築デザイン演習とも連携しており、そこに施される建築的行為の提案は、同科目に譲ることとし、本科目ではそうした具現化を含む大きなプレイス&エリアデザインとしてまとめあげることがポイントである。なお、それらをまとめあげたプレゼンテーションを行ったのち、研究・制作実習に向けて、各自が生活デザインのなかのどのような領域を専攻するのかを問い直し、以降の専門性深化につなげていくこととしたい。			
実務経験を活かした教育について			
当科目は、一級建築士としての建築設計実務に携わった教員が担当する。とくに現地調査については、実習を現場で行い、実際の知見・技術を含めながら、実務で通用する調査シートの作成を指導する。			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
増田奏「住まいの解剖図鑑」エクスナレッジ、2009松下希和「住宅・インテリアの解剖図鑑」エクスナレッジ、2011日本建築学会編「第2版コンパクト建築設計資料集 <住居>」丸善、2006			
参考書等			
成績評価方法・基準			
各回の提出図面と取組み姿勢を総合的に評価する。 なお、このうち設計課題2の内容をもっとも重く評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
グループディスカッションや講評会の機会を通して、繰り返しフィードバックを行う。			
備考			

7 住まいのデザイン実習 II		LS-D-404	選択 3単位 3年前期
Housing Design Practice II			
授業計画(各回の学習内容等)			
	学習内容(授業方法)	学習課題(上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	設計課題1 エリア・サーベイ(1) 作品研究等の成果報告会とグループ形成/課題主旨説明/調査対象地・場所の選定/	空間実測やリノベーションの方法について予習しておく	1.5
第2回	設計課題1 エリア・サーベイ(2) 現地調査の目的と方法/記録と図化/分担と協力	目的・方法その他を固め、グループによるサーベイを実施する	1.5
第3回	設計課題1 エリア・サーベイ(3) 現地調査記録のとりまとめとグループディスカッション	調査記録(写真、実測野帳、ヒアリングデータなど)を整理しておく	1.5
第4回	設計課題1 エリア・サーベイ(4) 調査対象地・場所の空間的特徴の図解	分担する記録内容をとりまとめて発表に備える	1.5
第5回	設計課題1 エリア・サーベイ(5) 現地調査記録のとりまとめとグループディスカッション	調査対象地・場所の空間的特徴をどう図解するか構想しておく	1.5
第6回	設計課題1 エリア・サーベイ(6) 調査対象地・場所の空間的特徴の図解	調査対象地・場所の空間的特徴の作図をすすめる	1.5
第7回	設計課題1 エリア・サーベイ(7) 調査対象地・場所の空間的特徴の図解	現図図解講評会のプレゼンテーションシートをまとめておく	1.5
第8回	設計課題1 エリア・サーベイ(8) 調査対象地・場所の空間的特徴の図解	現場の改善アイデア・ディスカッションをもとに、プレイスデザインの構想を行う	1.5
第9回	設計課題1 エリア・サーベイ(9) 調査対象地・場所の空間的特徴の図解	プレイスデザインの構想を伝達できるように記録しておく	1.5
第10回	設計課題2 プレイス・デザイン(1) 課題主旨説明/プレイスデザインの目標策定(建築デザイン企画を含む)	講義の紹介事例・都市を検索し、関心を広げる	1.5
第11回	設計課題2 プレイス・デザイン(2) 周辺環境の作図・モデリング	プレイスデザインの構想を伝達できるように記録しておく	1.5
第12回	設計課題2 プレイス・デザイン(3) プレイスデザインのイメージスケッチ/中間講評会	エスキースをもとに、プレイスデザインの構想を行う	1.5
第13回	設計課題2 プレイス・デザイン(4) 改善アイデアの具現化に向けたプレイスデザイン	敷地周辺模型の作成法などを予習しておく	1.5
第14回	設計課題2 プレイス・デザイン(5) プレイス&エリアデザインのプレゼンテーションボード作成(前編)	モデリングした周辺環境のなかで、着目した場所にどう焦点をあてるかを検討する	1.5
第15回	設計課題2 プレイス・デザイン(6) プレイス&エリアデザインのプレゼンテーションボード作成(後編)	プレイスデザインの構想を進め、多様な事例を調べておく	1.5
第16回	設計課題2 プレイス・デザイン(7) プレイス&エリアデザイン講評会/フィードバック	中間講評会で指摘された事項を各自の提案に活かす	1.5
第17回	まとめ ポートフォリオ&デザインビジョン(1) 作品表現の修正/建築デザインの修正/デザインビジョンの作成	プレイスデザインの方針と表現法を構想しておく	1.5
第18回	まとめ ポートフォリオ&デザインビジョン(2) デザインビジョンのグループディスカッション	プレイスデザインの表現についてワークを重ねる	1.5
第19回	まとめ ポートフォリオ&デザインビジョン(3) デザインビジョンのグループディスカッション	プレゼンテーションボードのレイアウトイメージを構想しておく	1.5
第20回	まとめ ポートフォリオ&デザインビジョン(4) デザインビジョンのグループディスカッション	メインビジュアルを丹念に仕上げる	1.5
第21回	まとめ ポートフォリオ&デザインビジョン(5) デザインビジョンのグループディスカッション	コンセプトとその表現について構想しておく	1.5
第22回	まとめ ポートフォリオ&デザインビジョン(6) デザインビジョンのグループディスカッション	プレゼンテーションボードを仕上げる	1.5
第23回	まとめ ポートフォリオ&デザインビジョン(7) デザインビジョンのグループディスカッション	発表シナリオなど講評会の準備をしておく	1.5
第24回	まとめ ポートフォリオ&デザインビジョン(8) デザインビジョンのグループディスカッション	講評会のフィードバック内容を反すうしボードの修正計画を行う	1.5
第25回	まとめ ポートフォリオ&デザインビジョン(9) デザインビジョンのグループディスカッション	ポートフォリオのファイルを整理し最新作品の編集方針をたてる	1.5
第26回	まとめ ポートフォリオ&デザインビジョン(10) デザインビジョンのグループディスカッション	今後の各自のデザインビジョンを検討しておく	1.5
第27回	まとめ ポートフォリオ&デザインビジョン(11) デザインビジョンのグループディスカッション	作品成果、建築図面、ポートフォリオなどを整理しておく	1.5
第28回	まとめ ポートフォリオ&デザインビジョン(12) デザインビジョンのグループディスカッション	今後の各自のデザインビジョンを検討し、研究・制作実習に備える	1.5

8 研究・制作実習		LS-D-405	必修 3単位 3年後期
Practice of Works and Thesis			
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
単独(1人が全回担当)		教職科目 (工業)	
○ 複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目 (商業)	
クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
3年全組 大沼 正寛 伊藤 美由紀 中井 周作 高木 理恵 畠山 雄豪 谷本 裕香子 栗原 広佑 大場 真 田中 望			
授業の達成目標			
指導教員のゼミに分かれ、教員が提示するテーマに取り組み、その専門的な手法を習得することを目的とする。			
授業の概要			
卒業研修に向けて必要な知識と技術を、研修を通して習得する。各教員の研究室に所属して、教員指導のもと、個人または共同で、特定のテーマに関する実習を行う。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
各研究室の教員が、実習のテーマに応じて提示する。			
参考書等			
成績評価方法・基準			
提出物(作品またはレポート)を総合的に勘案して評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
レポートについては、次回授業時に研究室全体、または個々に対しフィードバックを行う。			
備考			

8 研究・制作実習		LS-D-405	必修 3単位 3年後期
Practice of Works and Thesis			
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	4年生の卒業研究中間発表会(前半)の聴講及びレポート提出	事前周知される発表テーマ(前半)の下調べを行う。 聴講後発表内容をまとめる。	1.5 1.5
第2回	4年生の卒業研究中間発表会(後半)の聴講及びレポート提出	事前周知される発表テーマ(後半)の下調べを行う。 聴講後発表内容をまとめる	1.5 1.5
第3回	ゼミの既往研究理解1:内容把握	ゼミ毎のガイダンス資料を基に重要事項について下調べを行う。 ゼミの既往研究理解1:内容把握についてゼミ内の討論と教育のアドバイスをとめる。	1.5 1.5
第4回	ゼミの既往研究理解2:質疑応答	質問事項を準備する。質疑応答などの討論内容をまとめる。 ゼミの既往研究理解2:質疑応答についてゼミ内の討論と教員のアドバイスをとめる。	1.5 1.5
第5回	ゼミの既往研究理解3:課題の抽出と今後の展開	各自の課題について下調べを行う。 ゼミの既往研究理解3:課題の抽出と今後の展開についてゼミ内の討論と教員のアドバイスをとめる。	1.5 1.5
第6回	ゼミの研究関連知識習得1:知識の紹介	各自の課題について文献調査を行う。 ゼミの研究関連知識習得1:知識の紹介についてゼミ内の討論と教員のアドバイスをとめる。	1.5 1.5
第7回	ゼミの研究関連知識習得2:質疑応答	各自の課題設定を試行的に行う。 ゼミの研究関連知識習得2:質疑応答についてゼミ内の討論と教員のアドバイスをとめる。	1.5 1.5
第8回	ゼミの研究技術習得1:技術の紹介	各自の課題について研究手法の調査を行う。 技術の紹介で学んだ調査技術などについて教員のアドバイスをまとめる。	1.5 1.5
第9回	ゼミの研究技術習得2:技術の練習	各自の課題について研究手法の試行実践を行う。 技術の練習で学んだ調査技術などについて教員のアドバイスをまとめる。	1.5 1.5
第10回	知識と技術の総合化のための基礎的課題1:課題理解と準備作業	各自の課題設定を統合的に行う基礎的準備をする。 課題理解と準備作業についてゼミ内の討論と教員のアドバイスをまとめる。	1.5 1.5
第11回	知識と技術の総合化のための基礎的課題2:調査または制作	各自の課題設定を統合的に行うための予備調査や予備制作の準備をする。 調査または制作についてゼミ内の討論と教員のアドバイスをまとめる。	1.5 1.5
第12回	知識と技術の総合化のための基礎的課題3:成果の報告	各自の予備調査や予備制作のまとめを準備をする。 成果の報告についてゼミ内の討論と教員のアドバイスをまとめる。	1.5 1.5
第13回	知識と技術の総合化のための応用的課題:課題理解と準備作業	各自の課題設定を統合的に行う準備をする。 課題理解と準備作業についてゼミ内の討論と教員のアドバイスをまとめる。	1.5 1.5
第14回	知識と技術の総合化のための応用的課題:成果の報告	各自の調査や制作のまとめを準備をする。 成果の報告についてゼミ内の討論と教員のアドバイスをまとめる。	1.5 1.5

9	卒業研修Ⅰ	LS-D-406	必修 3単位 4 年前期
	Graduation Works and Thesis Ⅰ		
授業形態		該当科目	SDGsの取り組み
	単独(1人が全回担当)	教職科目(工業)	
○	複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)	教職科目(情報)	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	教職科目(商業)	
	クラス分け(クラス分けて担当する)	地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
	○	アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
4年全組 大沼 正寛 伊藤 美由紀 中井 周作 高木 理恵 畠山 雄豪 谷本 裕香子 栗原 広佑 大場 真 田中 望			
授業の達成目標			
特定のテーマに基づいた「論文」または「作品」を主体的にまとめる作業を通じて、「目的設定→方法の検討とその実行→結果と考察」という論理的な研究方法を修得し、活用できるようになること。			
授業の概要			
本科目は卒業研修の実践であり、4年間の学習の総仕上げである。具体的には、各教員の研究室に所属して、教員指導のもと、個人もしくは共同で、特定のテーマに基づいた研究または制作を行う。ここでは、研究テーマに関するガイダンスに始まり、テーマに関連する資料の収集、基礎理論の学習を通して研究テーマを決定し、研究方法または制作手段の検討、実験、調査、制作の計画立案、それらの準備とディスカッション、予備実験や予備調査の実施、中間報告書の作成とその口頭発表までを行う。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
各研究室の教員が、研究課題の進捗状況に応じて提示する。			
参考書等			
成績評価方法・基準			
テーマの設定、方法や手段の妥当性。テーマの分野、性格、位置づけの認識度。進捗状況と後期への準備状況。口頭発表の明快度。以上を総合して評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
双方向型の授業ゆえ、日常的にフィードバックを行う。			
備考			

9	卒業研修Ⅰ	LS-D-406	必修 3単位 4 年前期
	Graduation Works and Thesis Ⅰ		
授業計画(各回の学習内容等)			
	学習内容(授業方法)	学習課題(上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	テーマに関するガイダンス	予習:事前周知されるテーマの下調べを行う。 復習:テーマについてゼミ内の討論と教員のアドバイスをまとめる。	1.5 1.5
第2回	テーマの背景・目的について	予習:各自のテーマ設定の意義や背景・目的をまとめる。 復習:テーマの背景・目的についてゼミ内の討論と教員のアドバイスをまとめる。	1.5 1.5
第3回	テーマに関する資料の収集	予習:各自のテーマに関する既往の研究や利用する資料の収集先などを調べる。 復習:テーマに関する資料の収集についてゼミ内の討論と教員のアドバイスをまとめる。	1.5 1.5
第4回	テーマに関する基礎理論の学習	予習:各自のテーマに関する分析・制作などの方法論の基礎を下調べする。 復習:テーマに関する基礎理論の学習についてゼミ内の討論と教員のアドバイスをまとめる。	1.5 1.5
第5回	研究方法または制作手段の検討	予習:各自のテーマに関する分析・制作などの方法論をまとめる。 復習:研究方法または制作手段の検討についてゼミ内の討論と教員のアドバイスをまとめる。	1.5 1.5
第6回	実験、調査、制作等の計画立案	予習:実験、調査、制作等の計画を立てる。 復習:実験、調査、制作等の計画立案についてゼミ内の討論と教員のアドバイスをまとめる。	1.5 1.5
第7回	基礎理論のまとめ	予習:計画に沿って必要な基礎理論をまとめる。 復習:基礎理論のまとめについてゼミ内の討論と教員のアドバイスをまとめる。	1.5 1.5
第8回	研究または制作のための諸準備	予習:計画に沿った準備内容を書き出す。 復習:研究または制作のための準備についてゼミ内の討論と教員のアドバイスをまとめる。	1.5 1.5
第9回	予備実験、予備調査、制作など	予習:予備調査や予備制作の準備をする。 復習:予備実験、予備調査、制作などについてゼミ内の討論と教員のアドバイスをまとめる。	1.5 1.5
第10回	予備実験、予備調査、制作などのまとめ	予習:予備調査や予備制作のまとめを準備する。 復習:予備実験、予備調査、制作などのまとめについてゼミ内の討論と教員のアドバイスをまとめる。	1.5 1.5
第11回	中間報告書の準備	予習:中間報告書の準備を行う。 復習:中間報告書の準備についてゼミ内の討論と教員のアドバイスをまとめる。	1.5 1.5
第12回	中間報告書の作成・提出	予習:中間報告書をまとめる。 復習:中間報告書の作成・提出についてゼミ内の討論と教員のアドバイスをまとめる。	1.5 1.5
第13回	中間発表の準備	予習:発表の準備をする。 復習:中間発表の準備についてゼミ内の討論と教員のアドバイスをまとめる。	1.5 1.5
第14回	中間発表(口頭発表)と講評	予習:発表の準備をする。 復習:講評を参考にリファインをする。	1.5 1.5

10	卒業研修 II	LS-D-407	必修 3単位 4 年後期
	Graduation Works and Thesis II		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
	単独(1人が全回担当)	教職科目 (工業)	
○	複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)	教職科目 (情報)	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	教職科目 (商業)	
	クラス分け(クラス分けて担当する)	地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
	○	アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
4 年全組 大沼 正寛 伊藤 美由紀 中井 周作 高木 理恵 畠山 雄豪 谷本 裕香子 栗原 広佑 大場 真 田中 望			
授業の達成目標			
特定のテーマに基づいた「論文」または「作品」を主体的にまとめる作業を通じて、「目的設定→方法の検討とその実行→結果と考察」という論理的な研究方法を修得し、活用できるようになること。			
授業の概要			
本科目は卒業研修の実践であり、4年間の学習の総仕上げである。具体的には、各教員の研究室に所属して、教員指導のもと、個人もしくは共同で、特定のテーマに基づいた研究または制作を行う。ここでは、研修Ⅰで行った予備実験や予備調査または制作の中間報告結果に基づき、本実験や本調査または作品制作の計画立案からその実行、内容に関するディスカッションまでを行い、結果の分析を深めるとともに、追加実験、追加調査を経て、論文の構成や制作内容を検討し、卒業論文または卒業制作としてまとめる。さらに、内容梗概を作成して口頭発表やパネル展示発表などを行う。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
各研究室の教員が、研究課題の進捗状況に応じて提示する。			
参考書等			
成績評価方法・基準			
実験、調査の内容およびその分析または制作の学習度。内容構成の妥当性。目的とゴールの関連度。論文または作品の完成度。内容梗概の完成度。口頭発表の明快度と完成度。以上を総合して評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
双方向型の授業ゆえ、日常的にフィードバックを行う。			
備考			

10	卒業研修 II	LS-D-407	必修 3単位 4 年後期
	Graduation Works and Thesis II		
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第 1 回	中間報告結果の吟味とテーマの内容および方法の再検討	予習：リファインされた研修成果を準備する。	1.5
第 2 回	実験、本調査または作品制作の計画準備	復習：テーマの内容および方法の再検討についてゼミ内の討論と教員のアドバイスをまとめる。 予習：調査や制作の計画準備をする。	1.5
第 3 回	実験、本調査または作品制作の計画立案	復習：実験、本調査ゼミ内の討論と教員のアドバイスをまとめる。	1.5
第 4 回	本実験、本調査または作品制作の実施準備	予習：調査や制作の計画をする。 復習：ゼミ内の討論と教員のアドバイスをまとめる。	1.5
第 5 回	本実験、本調査または作品制作の実施	予習：調査や制作の実施をする。 復習：ゼミ内の討論と教員のアドバイスをまとめる。	1.5
第 6 回	本実験、本調査または作品制作の実施と検証	予習：調査や制作の実施結果をまとめる。 復習：ゼミ内の討論と教員のアドバイスをまとめる。	1.5
第 7 回	分析と追加実験、追加調査または再制作の計画準備	予習：調査や制作の結果を踏まえ追加調査や追加制作の準備計画を行う。 復習：ゼミ内の討論と教員のアドバイスをまとめる。	1.5
第 8 回	分析と追加実験、追加調査または再制作の実施	予習：追加調査や追加制作を行う。 復習：ゼミ内の討論と教員のアドバイスをまとめる。	1.5
第 9 回	論文構成または制作ノート構成の検討	予習：論文や制作ノートの章立てを計画する。 復習：ゼミ内の討論と教員のアドバイスをまとめる。	1.5
第 10 回	論文の総括または制作の仕上げ	予習：論文や制作のフィニッシュワークを行う。 復習：ゼミ内の討論と教員のアドバイスをまとめる。	1.5
第 11 回	内容梗概の作成	予習：論文や作品制作を梗概原稿にまとめる。 復習：ゼミ内の討論と教員のアドバイスをまとめる。	1.5
第 12 回	予備審査会口頭発表と講評	予習：予備審査会発表の準備を行う。 復習：講評を基に、リファインや修正を行う。	1.5
第 13 回	本審査会での研究発表または制作発表の準備	予習：本審査会発表（研究発表または制作発表）の準備を行う。 復習：ゼミ内の討論と教員のアドバイスをまとめる。	1.5
第 14 回	本審査会の口頭発表と講評	予習：本審査会発表（口頭発表）の準備を行う。 復習：講評を基に、リファインや修正を行う。	1.5

11 心の理解とケア		LS-B-102	必修 2単位 1 年前期
Psychological Human Care			
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
○ 単独(1人が全回担当)		教職科目 (工業)	
複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目 (商業)	
クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
1 年全組 中井 周作			
授業の達成目標			
生活デザイン学科での教育目標と内容を具体的に理解し、学習の動機付けを高める。			
授業の概要			
意識と無意識の世界について学び、神経症や心身症の原因や予防法を理解する。さらに様々な心理検査の実習を通して自己理解を深めていく。具体的には、ロールシャッハテストなどの性格診断テストを行いながら潜在意識についての理解を深め、心の病の原因と予防・治療法を学ぶ。いじめやニートなど、現代社会における心の病は、その原因を理解することによってはじめて解決可能となる。さまざまな心理検査の実習を通して自己理解を図り、心の安定と健康の基礎作りを学んでいく。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
自作資料。			
参考書等			
成績評価方法・基準			
期末テスト 60%、中間テスト 20%、授業レポート 20%、評価合計 60 点以上で合格とする。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
レポートについては、次回授業時に全体に対しフィードバックを行う。			
備考			

11 心の理解とケア		LS-B-102	必修 2単位 1 年前期
Psychological Human Care			
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第 1 回	序章 (講義内容紹介)	心理学について予習を行う。	2
第 2 回	心理学の諸領域	心理学の分野に関心を持ち、講義ノートを作成し復習を行う。	2
第 3 回	性格の理解 (ビッグファイブ理論)	臨床心理学について予習を行う。	2
第 4 回	性格の理解 (ロールシャッハテスト)	臨床心理学の概要を学び、講義ノートを作成し復習を行う。	2
第 5 回	性格の理解 (ロールシャッハテスト)	心理テストについて予習を行う。	2
第 6 回	性格の理解 (ロールシャッハテスト)	心理テストを通し自分の性格を知り、講義ノートを作成し復習を行う。	2
第 7 回	性格の理解 (ロールシャッハテスト)	ロールシャッハテストについて予習を行う。	2
第 8 回	性格の理解 (ロールシャッハテスト)	心身症の検査を学び、自分の健康に当てはめる。講義ノートを作成し復習を行う。	2
第 9 回	性格の理解 (ロールシャッハテスト)	ゲスフーテストについて予習を行う。	2
第 10 回	アイデンティティ	心理テストを通し自分の性格を知り、講義ノートを作成し復習を行う。	2
第 11 回	アイデンティティ	アイデンティティについて予習を行う。	2
第 12 回	エゴグラム実習	青年期の自我について学び、講義ノートを作成し復習を行う。	2
第 13 回	エゴグラム実習	エゴグラムについて予習を行う。	2
第 14 回	エゴグラム実習	性格判断テストを通し、自分の性格を深く理解する。講義ノートを作成し復習を行う。	2
第 15 回	人間関係とストローク欲求と葛藤	欲求や葛藤について予習を行う。	2
第 16 回	人間関係とストローク欲求と葛藤	人間関係を心理学的アプローチより学ぶ。講義ノートを作成し復習を行う。	2
第 17 回	欲求不満	欲求不満について予習を行う。	2
第 18 回	欲求不満	欲求不満の状態を学び、その解決策を学ぶ。講義ノートを作成し復習を行う。	2
第 19 回	防衛機制	防衛機制について予習を行う。	2
第 20 回	防衛機制	防衛機制について学び、その重要性和危険性を学ぶ。講義ノートを作成し復習を行う。	2
第 21 回	ストレスコーピング	ストレスコーピングについて予習を行う。	2
第 22 回	ストレスコーピング	ストレスについて学び、その解決策を学ぶ。講義ノートを作成し復習を行う。	2
第 23 回	心身症とは何か	心身症について予習を行う。	2
第 24 回	心身症とは何か	心身症について実態を学ぶ。講義ノートを作成し復習を行う。	2
第 25 回	心身症の原因・予防	心身症について予習を行う。	2
第 26 回	心身症の原因・予防	心身症の原因を学ぶ。講義ノートを作成し復習を行う。	2
第 27 回	理解のまとめ	これまで学んだ知識を講義ノートを通して予習した上で、総復習し理解を深める。	2
第 28 回	理解のまとめ	これまで学んだ知識を講義ノートを通して総復習する。	2

12 福祉まちづくり論 Welfare Community Design		LS-B-108	必修 2単位 1 年前期
授業形態		該当科目	SDGsの取り組み
単独(1人が全回担当)	教職科目 (工業)		
○ 複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)	教職科目 (情報)		
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	教職科目 (商業)		
クラス分け(クラス分けて担当する)	地域志向科目		
	○ 実務経験のある教員担当 アクティブラーニング メディア授業		
クラス・担当教員			
1 年全組 岸本 誠司			
授業の達成目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・地域社会の調査研究やまちづくりの実践に必要な空間認識と時間認識について理解する ・日本における都市計画からまちづくりへの動きを理解する ・現代日本社会におけるコミュニティの福祉的な課題を理解する 			
授業の概要			
本講義は、2部構成となっている。前半では、歴史地理学や民俗学の視点から、自然・環境と人間生活の関わりや文化について考える。後半では、福祉学や建築学の視点からまちづくりに関わる基礎的な理論や方法を知るとともに成熟社会、人口減少時代のまちのあり方、そこでの人々の暮らしへの取り組み方法を考える。			
実務経験を活かした教育について			
まちづくり、設計、地域研究など担当者の実務経験を活かした実践例の紹介を行い、まちづくりに必要な教養と感性等の力を養成する。			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
講義の時間に毎回プリントを配付する。			
参考書等			
成績評価方法・基準			
授業内での小レポートおよび、中間・最終回のテスト等により総合的に判断し、評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
レポートについては、次回授業時に全体に対しフィードバックを行う。			
備考			

12 福祉まちづくり論 Welfare Community Design		LS-B-108	必修 2単位 1 年前期
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	ガイダンス時間・空間の認識とまちづくりの視点	ふるさとの自然と街を観察する 時間・空間の認識とまちづくりの視点について復習する	2 2
第2回	環境と人類 [1] 人類の進化と拡散	人類史の概要について調べる 人類の進化と拡散について復習する	2 2
第3回	環境と人類 [2] 「人新世 (アントロポセン)」とは何か	人新世 (アントロポセン) 概要について調べてくる 人新世 (アントロポセン) と現代社会の課題について復習する	2 2
第4回	自然景観と文化景観 [1] 都市と街	自然景観と文化景観の概要について調べてくる 都市と街のなりたちと景観について復習する	2 2
第5回	自然景観と文化景観 [2] 農村と山村	自然景観と文化景観の概要について調べてくる 農村と山村のなりたちと景観について復習する	2 2
第6回	自然景観と文化景観 [3] 漁村と港町	自然景観と文化景観の概要について調べてくる 漁村と港町なりたちと景観について復習する	2 2
第7回	日本の伝統文化と現代社会 [1] 宮崎駿作品にみるヒト・モノ・社会	宮崎駿作品を鑑賞する 作品に登場するヒト・モノ・社会の特徴について復習する	2 2
第8回	日本の伝統文化と現代社会 [2] 細田守作品にみるヒト・モノ・社会	細田守作品を鑑賞する 作品に登場するヒト・モノ・社会の特徴について復習する	2 2
第9回	日本の伝統文化と現代社会 [3] 新海誠作品にみるヒト・モノ・社会	新海誠作品を鑑賞する 作品に登場するヒト・モノ・社会の特徴について復習する	2 2
第10回	まちづくり論 [1] 超高齢社会、人口減少社会のまちづくり	地域包括ケアについて調べてくる 空き家問題や限界集落について復習する	2 2
第11回	まちづくり論 [2] 防災・復興まちづくり、防犯まちづくり	防災都市について調べてくる ハザードマップや犯罪発生マップについて復習する	2 2
第12回	福祉論 [1] 高齢者と地域福祉	高齢者の地域生活のなかでのニーズを調べる 高齢者のニーズと課題解決に向けた取り組みを復習する	2 2
第13回	福祉論 [2] 障害者と地域福祉	障害者の地域生活のなかでのニーズを調べる 障害者の生活を地域で支える仕組みを復習する	2 2
第14回	まとめ	全体の講義内容についてまとめる 全体の講義内容について復習する	2 2

13 住まいの計画 Housing Theory		LS-C-103	必修 2単位 1 年前期
授業形態		該当科目	
○ 単独(1人が全回担当)	○ 教職科目 (工業)		
複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)	教職科目 (情報)		
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	教職科目 (商業)		
クラス分け(クラス分けて担当する)	○ 地域志向科目		
	実務経験のある教員担当		
	アクティブラーニング		
	メディア授業		
クラス・担当教員			
1年全組 栗原 広佑			
授業の達成目標			
住まいづくりに関する基本的な知識やプロセスを理解するとともに、戸建住宅を中心とした基礎的なプランニング手法を身につける。また、現代日本および東北地方における住まいづくりの要点とこれからの課題について理解できる。			
授業の概要			
1) 住まいづくりに関する基本的な知識とプロセスについての講義 2) 戸建て住宅のグリッドプランニング手法の解説と演習 3) 現代日本および東北地方における住まいづくりの問題点とこれからの課題についての講義			
当科目は、建築設計実務に携わった教員が担当する。すなわち、プランニングから基本的性能まで、現実の住まいを計画するうえで必要な知見・技術を数多く含めながら、実践的・事例的に解説する。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
教員が作成したプリントを配布			
参考書等			
増田奏：住まいの解剖図鑑，株式会社エクスナレッジ，2009			
成績評価方法・基準			
期末試験および講義中に出題するレポート等の得点をもとに、総合的に評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
講義内で適宜小テストを実施し、この結果をフィードバックする。			
備考			

13 住まいの計画 Housing Theory		LS-C-103	必修 2単位 1 年前期
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	ガイダンス： 住まいの計画を学習する意義と講義内容の全体像について	住まいの自己体験をメモしておく 講義のなかで関心をもった事項を参考図書等で深く考察する	2 2
第2回	住まいの寸法と平面計画： 建築・住宅における寸法体系を解説し、寸法単位の変換	自宅を中心とした住まいの寸法を計測する。 尺貫法に基づき自宅の平面計画を作成する。	2 2
第3回	住まいの諸室とその繋がり： 住まいはLDKを中心とした諸室により構成される。それ	自宅の諸室について調べておく。 自宅の諸室の繋がりについて考察する。	2 2
第4回	住まいの家具と人体寸法： 住まいの中でも人体に触れる機会が多い家具を取り上げ、家具本体とその配置に関する計画概念を身につける。	自宅の家具本体の寸法を計測する。 自宅の家具の配置計画について考察する。	2 2
第5回	住まいの動線計画： 廊下や階段といった人の移動に関連が深い箇所を取り上	自宅の廊下の寸法を計測する。 自宅及び身近な環境の階段の寸法を計測する。	2 2
第6回	住まいの開口部と建具： 住まいの開口部と建具に着目し、その種類や寸法体系、	自宅の開口部・建具の寸法を計測する。 身近な環境における開口部・建具を観察し、これを記録する。	2 2
第7回	住まいの屋根： 古今東西の屋根を俯瞰し、その意匠の成立背景について	身近な環境の屋根を観察する。 身近な環境の屋根について、その形態や材料を深く考察する。	2 2
第8回	住まいの配置と庭： 住まいの外部環境に着目し、造園や外構、配置計画に関	自宅及び自宅周辺の庭を観察する。 自宅及び自宅周辺の用途地域を調べる。	2 2
第9回	住まいの断熱・遮熱： 暑さ・寒さといった快適性に大きな影響を与える熱環境について解説し、そのコントロール手法の基礎を身につける。	自宅の暑さ・寒さについて考察する。 自宅の空気調和設備を確認し、それを記録する。	2 2
第10回	住まいとエネルギー： 住まいの中で使用されるエネルギーについて学習し、今	自宅で使用するエネルギーの種類を調べる。 一次エネルギー換算について復習する。	2 2
第11回	住まいの水回り： 住まいの水回りの基礎的な計画手法を学び、給排水衛生	自宅の水回りを観察する。 自宅で使用している給排水衛生設備を確認し、それを記録する。	2 2
第12回	住まいの電気設備： 住まいにおける電気設備について、利便性と安全性の観	自宅の電気設備を観察する。 自宅の電気設備の安全環境を確認する。	2 2
第13回	まとめ： これまでの学習内容を総括し、これからの時代にふさわ	これまでの講義内容を復習する。 講義全体を通して学んだ事や今後の課題についてまとめる。	2 2
第14回	住まいのデザイン： 実際の建築作品の解説を通し、住まいのデザインに関す	興味がある住宅作品を調べる。 興味がある住宅作品の設計図を記録する。	2 2

14 住まいの構造と材料 Structure and Material for Residence		LS-C-111	必修 2単位 1 年前期
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
単独(1人が全回担当)	○ 教職科目 (工業)	  	
複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)	教職科目 (情報)		
○ オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	教職科目 (商業)		
クラス分け(クラス分けて担当する)	地域志向科目		
	○ 実務経験のある教員担当		
	アクティブラーニング		
	メディア授業		
クラス・担当教員			
1 年全組 大沼 正寛			
授業の達成目標			
<p>建築物の様々な構造・工法(柱・梁構造や組積構造、剛接合構造など)とその建築材料を理解すること。さらに、木造建物の各部構法(基礎、床組、軸組、小屋組)及び外部仕上げや内部仕上げ構法を学び、建築物が構築されるしくみを理解すること。建築について考えるための基礎として、様々な建築材料と建築構法を学ぶことを通して、素材と空間を構成するための構造の仕組みの関係を把握することを第一の目標とする。その上で日本では不可避地震や風水害、火災など災害に対して人命を守ることが普遍的に建築物に求められる耐震性や安全性であることを理解し、その背景にある環境・文化・社会と人の関わりについて先人の知恵の集積として各種の構造が存在していることを学ぶことで、これからの新しいデザインや工法に対応できる基礎的な知識と専門家の姿勢を身につけることを第二の目標とする。</p>			
授業の概要			
<p>先ず伝統的な石の建築物と木の建築物などを構成する構造・工法、近代以降の鉄とコンクリートによる剛接合構造・工法について学ぶ。次に、現代の木造住宅における各部構法(地業・床組・軸組・小屋組、内装、外装)の基礎を学ぶ。そして、建築物を構成する建築構造と造作材(インテリア・エクステリア)を理解し、建築デザインの基本を学ぶ。日本という風土で長い時間を掛けて育まれた「木質構造」を学習の中心として授業を構成する。身近な自然素材である木材の性質への理解を踏まえて、伝統から在来、そして現代的な構造・工法、各部の構造(地業・床組・軸組・小屋組、内装、外装)の基礎知識を学ぶ。その上で近代以降の都市空間には不可欠な鉄とコンクリートによる構造について基礎的な知識に重点をおいて学習する。</p>			
実務経験を活かした教育について			
<p>担当教員は、建築士として、また建築設計事務所における設計実務に従事した実績と経験を活かして、授業において企画・設計・デザイン等の建築設計にかかわる実務への対応力を養成する。</p>			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
<p>その他適時、教員自作資料を配布する。 図説 やさしい建築一般構造 今村仁実・田中美都 学芸出版社 2012</p>			
参考書等			
「構造用教材」日本建築学会／「建築材料用教材」日本建築学会			
成績評価方法・基準			
前半 6 回分は中間試験、後半 7 回分はレポート試験を実施し、両者の成績により評価を行う。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
レポート等において授業中にフィードバックを行う。			
備考			

14 住まいの構造と材料 Structure and Material for Residence		LS-C-111	必修 2単位 1 年前期
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第 1 回	建築構造概論 風土(自然)・素材(もの)・構造(かたち) エンジニアリングとプリコラージュ	世界の古今東西の暮らしと建築について調べておくこと。 配付した講義資料と教科書を利用して復習すること。	2 2
第 2 回	建築にはたらく力 災害と建築 地震への備えと対策	近年発生した災害の名称と概要について3つ以上調べておくこと。 配付した講義資料と教科書を利用して復習すること。	2 2
第 3 回	樹と木材 基本的な性質と特性 木質構造の基礎知識	教科書をもとに身の回りにある樹木や木材を観察(色・かたち・匂い・手触りなど)しておくこと。 配付した講義資料と教科書を利用して復習すること。	2 2
第 4 回	木構造(1) 在来工法における各部の名称 基礎・地業	教科書をもとに各部の名称の読みと書きを予習しておくこと。 配付した講義資料と教科書を利用して復習すること。	2 2
第 5 回	木構造(2) 軸組(土台・柱・横架材・筋かい・壁)	講義資料や教科書をもとに、軸組に関連する各部の名称と位置について調べておくこと。 配付した講義資料と教科書を利用して復習すること。	2 2
第 6 回	木構造(3) 接合部と耐力壁 壁量と配置バランス	講義資料や教科書を基に、接合部の形と耐力壁の役割について調べておくこと。 配付した講義資料と教科書を利用して復習すること。	2 2
第 7 回	木構造(4) 小屋組・床組 階段	教科書をもとに身の回りにある建築物の屋根の形状と屋根材を観察しておくこと。 配付した講義資料と教科書を利用して復習すること。	2 2
第 8 回	木構造(5) 金物と省力化 枠組壁工法	講義要録や参考書を基に、接合部の形と建築金物の役割について調べておくこと。 配付した講義資料と教科書を利用して復習すること。	2 2
第 9 回	中間のまとめと振り返り	前半復習をし、中間試験に臨むこと。 試験後の解説を参考に前半のまとめをおこなうこと。	2 2
第 10 回	基礎と地盤 支持力と基礎の形式 土の性質	各々の暮らしに身近な地形について観察(スケッチ、地図)しておくこと。 配付した講義資料と教科書を利用して復習すること。	2 2
第 11 回	鉄筋コンクリート構造(1) 概論 コンクリートと鉄の性質と組み合わせ 構造形式	講義資料や教科書を基に、鉄筋コンクリート造について調べておくこと。 配付した講義資料と教科書を利用して復習すること。	2 2
第 12 回	鉄筋コンクリート構造(2) 剛接合 各部配筋の名称と仕組み	講義資料や教科書を基に、配筋の位置と名称について調べておくこと。 配付した講義資料と教科書を利用して復習すること。	2 2
第 13 回	鋼構造 概論 鋼材の力学的基礎知識 接合方法(高力ボルト接合と溶接接合)	講義資料や教科書を基に、鋼構造について調べておくこと。 配付した講義資料と教科書を利用して復習すること。	2 2
第 14 回	伝統あるいは現代建築におけるデザインと構造 仕上げと納まりの関係	講義資料や教科書を基に、関心ある建築物のデザインと構造について3つ程度調べておくこと。 配付した講義資料と教科書を利用して復習すること。	2 2

15 デザイン基礎演習		LS-E-105	必修 2単位 1 年前期
Basic Practice of Shape and Modelling			
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
単独(1人が全回担当)		<input type="radio"/> 教職科目 (工業)	
<input type="radio"/> 複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目 (商業)	
クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目	
		<input type="radio"/> 実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
1 年全組 川名 美宏 栗原 広佑			
授業の達成目標			
実線・鎖線／太・中・細線と文字を描き分け、立体造形と図面の関係を図面化できる。また生活環境要素の形態的特徴(寸法・質量・形状・素材・色彩)と物理的特徴を捉え、定性的・定量的に記録し、スケッチ画に表わすことができる。上記の基礎的技術を修得したうえで、課題・テーマに沿った造形的創作表現とものづくりの基本を学ぶことができる。			
授業の概要			
ものや空間を理解し、図面(三角法)やイラスト(アイソメトリックやパースベクティブ)を正しく測定し表現することが出来ること、また自分で創造し作成したイラストや図面に基づき、立体的に形を表現することが出来るようになる。授業では、実務経験のある外部講師を招き、より実践的な授業構成とする。			
実務経験を活かした教育について			
担当教員は、建築設計や民間デザイン事務所において実務に従事した実績と経験を活かして、授業において実務への対応力を養成する。			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
松本正富ほか：建築デザイン製図，学芸出版社，2021.			
参考書等			
成績評価方法・基準			
提出作品の完成度での評価とする。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
講評会等を通して提出作品の評価や改善点に関するフィードバックを行う。			
備考			

15 デザイン基礎演習		LS-E-105	必修 2単位 1 年前期
Basic Practice of Shape and Modelling			
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	ガイダンス・デザイン初めの「意」：各自が興味関心を抱くデザイン対象を見極め、それを他	興味関心を抱くデザイン対象を考える。	1
第2回	生活文化と意匠・感性・表現：優れたデザイン作品を取り上げ、他者に伝達する。	自身が興味関心を抱くデザインの分野において、優れた作品を調査する。 スケッチを中心として、デザイン作品の要約をまとめる。 講評された内容を振り返り、更に作品研究を進める。	1 1 1
第3回	人体尺とユニバーサルデザイン：手の計測とデッサンを行い、人体尺から事物とユニバー	デッサンの技法を学習しておく。 身の回りの製品の寸法を計測する。	1 1
第4回	くらしのアイデアスケッチ：街中や自宅といった身近な生活環境を題材に、観察とデ	身近な生活環境を計測し、問題点を考察する。 講評された内容を振り返り、案に修正を加える。	1 1
第5回	図法1 線の練習・レタリング：製図における線種及びレタリングについて学習し、実践	線種について学習しておく。 正しい製図線の表現について復習する。	1 1
第6回	図法2 三面図：三角法の概念を解説し、三面図と立体図の製図を実践する	三角法について学習しておく。 授業内課題を復習する。	1 1
第7回	図法3 食器の三面図化：食器を題材とし、これの計測から三面図の製図を行う。	正しい線種の使い分けについて学習する。 製品の計測法を復習する。	1 1
第8回	建築製図1 平面図1：木造戸建住宅を題材とし、平面図のトレースを行う。	平面図の概念について学習しておく。 講義内での指摘項目を振り返り、作業を進める。	1 1
第9回	建築製図2 平面図2：木造戸建住宅を題材とし、平面図のトレースを行う。	寸法・記号表記について学習しておく。 講義内での指摘項目を振り返り、平面図を完成させる。	1 1
第10回	建築製図3 立・断面図1：木造戸建住宅を題材とし、立・断面図のトレースを行う。	立・断面図の概念について学習しておく。 講義内での指摘項目を振り返り、作業を進める。	1 1
第11回	建築製図4 立・断面図2：木造戸建住宅を題材とし、立・断面図のトレースを行う。	寸法・記号表記について学習しておく。 講義内での指摘項目を振り返り、立・断面図を完成させる。	1 1
第12回	建築製図5 アイソメトリック図：木造戸建住宅を題材とし、アイソメトリック図の作成を	アイソメトリック図の概念について学習しておく。 外部環境の作図と着色を行う。	1 1
第13回	くらしのアイデアポスター エスキス：第12回までに身につけた表現技法を活用し、身近な生活	身近な生活環境の観察を通し、これを改善するデザイン提案を検討する。 エスキスの内容に基づき、案を修正する。	1 1
第14回	くらしのアイデアポスター 発表：ポスターをもとにデザイン提案を発表する。	ポスターを作成し、発表シナリオをまとめておく。 指摘された内容をもとに設計内容を改善する。	1 1

16 身体生理と医科学		LS-B-301	選択 2単位 1年後期
Outline of Physiology and Medical Science			
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
○ 単独(1人が全回担当)		教職科目 (工業)	  
複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目 (商業)	
クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目	
		○ 実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
1年全組 古林 俊晃 伊藤 美由紀			
授業の達成目標			
我々、人間が健康であるために、我々がどのような構造と機能を有しているのかを学びます。その上で、運動やスポーツとの健康の関係、またよりよく生きるための健康観を理解し、我々が人間らしく健康で明るく生きるための実践力に繋がる知識を習得します。			
授業の概要			
本講義では、健康をテーマに、健康の価値観、健康に生きるための人体の構造と機能、健康であるための運動やスポーツの効果について概説します。この中には、昨今取り上げられる、身体的、精神的な健康問題をあげ、それをどのように考え、予防し、あるいは改善するのかという概念も含まれます。講義では、最初に前回の講義内容の確認テストを行います。また受け身の講義とならぬよう予習も重視します。			
実務経験を活かした教育について			
精神障がい者のためのデイケアでスポーツを担当していましたので、精神障がい者と運動の効果についても概説します。			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
講義に必要な応じて紹介する			
参考書等			
成績評価方法・基準			
授業時の理解度チェック課題、中間試験と定期試験で総合的に評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
毎回授業で理解度チェックの課題を実施し、次回授業で全体に解説しフィードバックを行う			
備考			

16 身体生理と医科学		LS-B-301	選択 2単位 1年後期
Outline of Physiology and Medical Science			
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	ガイダンスと講義の進め方	高校基礎の生物と化学について事前学修しておくこと 配布資料で知識の整理に努める	2 2
第2回	運動に必要な人体の構造と機能 骨と筋肉	配布資料を確認し、「骨と筋肉」に関して分からない用語を調べる 学習内容の再確認。知識の整理に努める	2 2
第3回	運動に必要な人体の構造と機能 神経	配布資料を確認し、「神経」に関して分からない用語を調べる 学習内容の再確認。知識の整理に努める	2 2
第4回	運動に必要な人体の構造と機能 感覚	配布資料を確認し、「感覚」に関して分からない用語を調べる 学習内容の再確認。知識の整理に努める	2 2
第5回	運動に必要な人体の構造と機能 呼吸・循環器系	配布資料を確認し、「呼吸・循環器」に関して分からない用語を調べる 学習内容の再確認。知識の整理に努める	2 2
第6回	健康であるための人体の構造と機能 栄養素と代謝	配布資料を確認し、「栄養素と代謝」に関して分からない用語を調べる 学習内容の再確認。知識の整理に努める	2 2
第7回	健康であるための人体の構造と機能 恒常性	配布資料を確認し、「自律神経系」に関して分からない用語を調べる 学習内容の再確認。知識の整理に努める	2 2
第8回	健康であるための人体の構造と機能 生体防御システム	配布資料を確認し、「生体防御システム」に関して分からない用語を調べる 学習内容の再確認。知識の整理に努める	2 2
第9回	まとめと中間試験	配布資料を確認し、分からない用語を調べる 学習内容の再確認。知識の整理に努める	2 2
第10回	健康の概説 健康観・体力について	配布資料を確認し、「健康観と体力」に関して分からない用語を調べる 学習内容の再確認。知識の整理に努める	2 2
第11回	健康問題 よりよく生きるために	配布資料を確認し、「健康問題」に関して分からない用語を調べる 学習内容の再確認。知識の整理に努める	2 2
第12回	健康と運動 安全な運動と効用	配布資料を確認し、「安全な運動と効用」に関して分からない用語を調べる 学習内容の再確認。知識の整理に努める	2 2
第13回	スポーツを取り巻く環境	配布資料を確認し、「運動とスポーツ」に関して分からない用語を調べる 学習内容の再確認。知識の整理に努める	2 2
第14回	まとめと中間試験	配布資料を確認し、分からない用語を調べる 学習内容の再確認。知識の整理に努める	2 2

17 生活と素材		LS-B-109	選択 2単位 1年後期
Products and Materials of Living Environment			
授業形態	該当科目	SDGs の取り組み	
単独(1人が全回担当)	教職科目(工業)		
○ 複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)	教職科目(情報)		
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	教職科目(商業)		
クラス分け(クラス分けて担当する)	○ 地域志向科目		
	実務経験のある教員担当		
	アクティブラーニング		
	メディア授業		
クラス・担当教員			
1年全組 大場 真			
授業の達成目標			
生活の中で使われる様々な素材特性を知り「つかい方」と「つくり方」の両面からの知識を習得し、且つ、ものの出来上がるまでのプロセスを知りものづくりの基本に触れ、デザインの理解度を高める。			
授業の概要			
仙台・宮城・東北地方を対象とした素材ごとに、物理的特性や感覚的特性をサンプル及び観察を通して知ってもらう。またどのような生産プロセスで作られるかを知識と事例より習得し、デザイン知識の幅を広げる。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
参考書等			
成績評価方法・基準			
課題レポート、プレゼンテーションを総合的に評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
レポートについては、次回授業時に全体に対しフィードバックを行う。 プレゼンテーションはコメントし、改善点を指摘する。			
備考			

17 生活と素材		LS-B-109	選択 2単位 1年後期
Products and Materials of Living Environment			
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容(授業方法)	学習課題(上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	素材の取り扱い、生活の上での役立て方 データ素材を、生活にどのように役立てるかを示す。	様々なものづくりの中で、どのようなデータが使われているのかを考える。 講義で説明されたDigital Twin化による、生活と産業の変化がどのようなものかを考える。今後の講義の概要から、自分なりの注力するポイントなどを考える。	2 2
第2回	素材の入手、品質管理	公開されているデータを実際に見て、ダウンロードしてみる。 データがどのように調査されているか、ランダム性や代表性にどのような工夫があるかを調べる。	2 2
第3回	素材の特徴	代表値と呼ばれる統計量の種類を調べる。 様々な事象の確率分布と、代表値の関係について整理する。	2 2
第4回	生活に潤いを与える素材	全くランダムなプロセスであっても、形が形成されてゆく自然物の例(例、河川、波紋)やデザインを調べる。 確率過程にはどのような種類があるのか、それを使うとどのようなデザインが可能かを整理する。	2 2
第5回	普通の素材、特異な素材	素材ごとに代表値が違う場合、それをどのように見分ければ良いかを考察する。 講義で受けた素材の平均値の違いの検定について、実際に試す。	2 2
第6回	素材の加工1	製造プロセスにおいて、環境や素材の代表値に関連性があるか、例を考察する。 様々な関係を、相関と因果に整理して、再度関係性を考える。	2 2
第7回	素材の加工2	ものづくりにおいて欠陥品をなるべくなくすには、各製造プロセスでどのような検査が必要かを考える。 品質を向上させたり、欠陥品を減少させるため、仮の因果関係を作り、どの変数を調査すれば良いかを考える。	2 2
第8回	素材の加工3	因果パス図について復習する。 因果パス図の応用について考察する。	2 2
第9回	素材の加工4	画像の自動認識などが実用化されている例について調べる。 自動認識、機械学習の技術について整理する。	2 2
第10回	生活への適用	デザインにどのようにデータを活かすべきかを考える。 データを使ったデザインについて考察する。	2 2
第11回	応用1	身近な素材や生活に関連したデータを収集し、分析する。 スライドを作成する。	2 2
第12回	応用2	身近な素材や生活に関連したデータを収集し、分析する。 スライドを作成する。	2 2
第13回	レポートプレゼンテーション1	プレゼンテーションの準備をする。 他のプレゼンテーションの良い点などを整理する。	2 2
第14回	レポートプレゼンテーション2	プレゼンテーションの準備をする。 他のプレゼンテーションの良い点などを整理する。	2 2

18 住まいの造形意匠 Residential Architectural Design		LS-C-109	選択 2単位 1年後期
授業形態		該当科目	
○ 単独(1人が全回担当)	○ 教職科目 (工業)		
○ 複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)	○ 教職科目 (情報)		
○ オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	○ 教職科目 (商業)		
○ クラス分け(クラス分けて担当する)	○ 地域志向科目		
	○ 実務経験のある教員担当		
	○ アクティブラーニング		
	○ メディア授業		
クラス・担当教員			
1年全組 大沼 正寛			
授業の達成目標			
国内外における住まいの造形意匠の多様な事例を知り、関心を深め、説明することができる。住まいの空間・場と構成部位における造形的特徴、全体と部分の関係について、その意味・目的を理解し、説明することができる。			
授業の概要			
生活を包み込むハードウェアとしての住宅建築の空間および造形意匠に関する基礎知識を概説する。住まいを観察し、その断面を理解し、部位・部材やデザインの特徴を多角的に論じる。さらに、住まいの概念を地域へと拡張し、戸外の環境、仙台・宮城・東北の特徴にも考察を広げる。このため、世界の名作住宅、住宅デザイン通史、作品研究、住まいの断面および造形意匠論などで構成し、住まいを観察する広がりや深みを涵養したい。			
実務経験を活かした教育について			
当科目は、一級建築士として建築設計実務や文化遺産の保存再生業務に携わった教員が担当する。文化・デザイン史から構成材料まで、住まいの造形意匠に関わる実際的な知見・技術を含めながら、事例的に解説する。			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
図解 世界の名作住宅 中山繁信・松下希和・伊藤茉莉子・齋藤玲香 エクスナレッジ 2018			
参考書等			
当参考書は、「住まいの文化史」の教科書でもあることから、早期の入手を勧める。 コンパクト版 建築史 日本・西洋 「建築史」編集委員会 彰国社 2009			
成績評価方法・基準			
授業中に行う理解度チェックテストにおいて、主に基礎知識(ミニマム・リクワイアメント)の修得度を問ひ、ゲストスピーカー講義に対するレポート、最終レポート等において、主に考察の深さ(アドバンスト・スキル&ナレッジ)を問う。これらをもとに、総合的に評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
理解度チェックテストは授業中に行い、その後の授業において、正答例を含め解説を行う。 レポートについても、その後の授業においてフィードバックを行う。			
備考			

18 住まいの造形意匠 Residential Architectural Design		LS-C-109	選択 2単位 1年後期
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	古今東西の住宅と都市(第1部 住まいのデザイン原論 前編) 空間造形の基礎と古今東西の住まいに関心をよ	教科書「図解 世界の名作住宅」から関心ある事例と選択理由を文章化しておく 講義で挙げた紹介事例を復習し、参考図書を試読する	2 2
第2回	西洋建築史の概要(第1部 住まいのデザイン原論 後編) 住まいの普遍性と歴史的な見方を獲得し、西洋建築	西洋建築史に関わる参考図書等を試読して関心を深めておく 講義の紹介事例・都市を検索し、関心を広げる	2 2
第3回	近代建築と和洋の相克(第2部 近代都市住宅史 前編) 西洋で起こった近代建築運動、日本近代前期における	教科書「図解 世界の名作住宅」から関連事例を選び通読しておく 講義の紹介事例・都市を検索し、関心を広げる	2 2
第4回	日本・西洋の名作比較(第2部 近代都市住宅史 後編) 日本と西洋の近現代における名作住宅について、事例	教科書「図解 世界の名作住宅」から関連事例を選び通読しておく 講義の紹介事例・都市を検索し、関心を広げる	2 2
第5回	屋根・壁・基礎と矩計(第3部 住まいの生産・技術 前編) 断面図で住まいを理解し、各部位・部材等の成り	教科書「図解 世界の名作住宅」から関連事例を選び通読しておく 講義の紹介事例・都市を検索し、関心を広げる	2 2
第6回	工業化と都市の集住(第3部 住まいの生産・技術 後編) 近現代における住宅生産の工業化や都市の集合住宅	教科書「図解 世界の名作住宅」から関連事例を選び通読しておく 講義の紹介事例・都市を検索し、関心を広げる	2 2
第7回	風土が生む住まいのかたち(第4部 住まいの地域性 前編) 茅やスレート、雪国の住まいなど、風土が生む住	身の回りの住宅事例についての関心事をメモしておき、質疑に備える 講義に対するレポートを書き、関心や疑問を深める	2 2
第8回	仙台・宮城・東北の住形式(第4部 住まいの地域性 後編) 東北地方に培われてきた持続的な住まいのかたち	身の回りの住宅事例についての関心事をメモしておき、質疑に備える 講義の紹介事例・都市を検索し、関心を広げる	2 2
第9回	風景のなかのたたずまい(第5部 住まいの現在地 前編) 現在も評価され続ける名作住宅とその背景を知り、	教科書「図解 世界の名作住宅」から関連事例を選び通読しておく 講義の紹介事例・都市を検索し、関心を広げる	2 2
第10回	住まいをめぐる現代的課題(第5部 住まいの現在地 後編) 生活福祉とUD、生活環境と省エネルギー、生活	これまでの学習内容、ノートを復習しておく 講義の紹介事例・都市を検索し、関心を広げる	2 2
第11回	住まいの歴史地理(第6部 総論・これからの住まい その1) 前10回までの理解度をチェックし、とくに住ま	これまでの学習内容、ノートを復習しておく 各自の理解度をチェックし、関心を深めた事項や不足点を復習しておく	2 2
第12回	住まいの可能性(第6部 総論・これからの住まい その2) 建築・住宅など空間デザインの最新事例を事例的に学び、これからのデザインの可能性を考える(ゲストスピーカー講義)	これまでの学習内容、ノートを復習しておく 講義に対するレポートを書き、関心や疑問を深める	2 2
第13回	造形意匠総論(第6部 総論・これからの住まい その3) 理解度チェックの結果をフィードバックし、とくに造形	これまでの学習内容、ノートを復習しておく フィードバックの内容から各自の理解度を確認し、不足点を復習する	2 2
第14回	地域の住まいの造形意匠(第6部 総論・これからの住まい その4) 地域にねざし、地域を形成する住まいとは何か、これからのデザインの可能性や課題について考	教科書「図解 世界の名作住宅」から関連事例を選び再読しておく 講義に対するレポートを書き、関心や疑問を深める	2 2

19 住まいの力学基礎		LS-C-112	選択 1単位 1年後期 (集中講義)
Basic Mechanics of Building Structure			
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
○ 単独(1人が全回担当)		教職科目 (工業)	
複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目 (商業)	
クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
1年全組 益野 英昌			
授業の達成目標			
住まいの安全を保つために必要な工学的知識技術の素養として、建築物に働く様々な外力・荷重と、これに対する反力・応力およびひずみ・変位といった力学的挙動を理解するために必要な力学の基礎的内容を修得する。その上で、住まいを含む建築の主要な構造モデルおよび構成部材に加わる外力・荷重と反力、内部に生じる応力の原則を理解し、梁の反力や応力に代表される構造力学問題の基礎を解くことができる。			
授業の概要			
まず、基礎物理における力学の内容をふまえながら、力の合成・分解やつり合い、示力図、連力図、偶力、力のモーメントなどを理解する。次いで、建物の主要部材に働く外力・荷重と、力の釣合い、支点と支点反力、片持ち梁や単純梁の応力といった基本問題を解きながら理解する。授業においては、内容についての講義とともに、演習を積み重ね、理解度をチェックしながら進める。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
教科書：和田章ほか「First Stage シリーズ 建築構造設計概論」実教出版 このほか適時、教員自作資料を配付する。また、関数電卓を用意すること。			
参考書等			
成績評価方法・基準			
期末試験もしくはこれに相当する総合演習と、随時実施する演習により、総合的に評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
演習については、次回授業時に全体に対しフィードバックを行う。			
備考			

19 住まいの力学基礎		LS-C-112	選択 1単位 1年後期 (集中講義)
Basic Mechanics of Building Structure			
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	建築物に働く力： 建築物にさまざまな影響を与える荷重と外力に関する基	建築物に働く力について調べておく 授業で行った演習内容を反復的に復習する	0.5 0.5
第2回	力学的に見た建築物： 実際の構造物を構造設計するうえで必要な力学上の仮定	身近にある建築物の力の流れが力学的にどのような特徴があるか直感的に判断・表現してみる 授業で行った演習内容を反復的に復習する	0.5 0.5
第3回	力の基本 ・力の合成と分解 ・力の釣合い 力に関する基本的な内容を理解させる。	力の流れが力学的にどのような状態にあるか直感的に判断・表現してみる 授業で行った演習内容を反復的に復習する	0.5 0.5
第4回	力の基本・力のモーメント： 建築物に働く力と力のモーメントについて、その基本を	『試してみよう』の演習や演示実験を通して力のモーメントについて事前に考察しておく 授業で行った演習内容を反復的に復習する	0.5 0.5
第5回	構造物と荷重および外力・支点と節点： 実際の構造物の支点および節点を観察させ、力学上の特	実際の構造物と仮定の違いを考察しておく 授業で行った演習内容を反復的に復習する	0.5 0.5
第6回	構造物と荷重および外力・荷重および外力： 建築物に働く外力・荷重や、これに対応して生じる力につ	建築物に働く力について、教科書を予習しておく 授業で行った演習内容を反復的に復習する	0.5 0.5
第7回	反力： 反力は、外力と支点の生じる力の釣合条件から求められ	単純梁と片持ち梁の簡単な模型を利用するなど、演示実験により支点と反力の関係を感覚的に理解しておく 授業で行った演習内容を反復的に復習する	0.5 0.5
第8回	反力の求め方： 同上	授業で行った演習内容を反復的に予習しておく 授業で行った演習内容を反復的に復習する	0.5 0.5
第9回	安定・静定・構造物の安定・不安定： 構造物に外力が作用しても構造物が形を崩したり移動してはならないことを理解し、構造物が安定であるための条件を考察する。	構造物の安定・不安定について、教科書を予習しておく 授業で行った演習内容を反復的に復習する	0.5 0.5
第10回	安定・静定・構造物の静定・不静定： 安定構造物には、静定・不静定があることを理解し、そ	構造物の静定・不静定について、教科書を予習しておく 授業で行った演習内容を反復的に復習する	0.5 0.5
第11回	静定梁・単純梁（集中荷重）： 静定梁の解き方を理解させ、軸方向力図・せん断力図お	静定梁を解くことについて、教科書を予習しておく 授業で行った演習内容を反復的に復習する	0.5 0.5
第12回	静定梁・単純梁（等分布荷重）： 同上	授業で行った演習内容を反復的に予習しておく 授業で行った演習内容を反復的に復習する	0.5 0.5
第13回	静定梁・片持ち梁（集中荷重）： 同上	授業で行った演習内容を反復的に予習しておく 授業で行った演習内容を反復的に復習する	0.5 0.5
第14回	静定梁・片持ち梁（等分布荷重）： 第13回までの講義内容を総括しつつ、後期「住まいの構	第13回までの講義内容を復習しておく 演習問題を中心に、講義の全容をふりかえる	0.5 0.5

20 設計基礎演習		LS-E-213	選択 2単位 1年後期
Basic Practice of Architectural Design			
授業形態		該当科目	SDGsの取り組み
単独(1人が全回担当)		教職科目(工業)	
複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)		教職科目(情報)	
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目(商業)	
○ クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目	
		○ 実務経験のある教員担当	
		○ アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
1年1組、1年2組 大沼 正寛 栗原 広佑 渡邊 武海			
授業の達成目標			
国内外の住宅設計作品に関心を持ち、住空間の成立ち、構成要素を理解することができる。住宅の製図表記法を理解・習得し、正確に図解することができる。魅力的な住空間を構想し、その特徴を捉えた立体模型を作成し、表現・伝達することができる。			
授業の概要			
第1課題では、住宅建築の設計製図の基礎技法を前提に、小規模な生活空間の設計を行い、製図ならびに模型制作を経てまとめる。第2課題では、より詳細な住空間の自由設計に挑戦しながら、自身の提案内容をいかに図面上に盛り込むかを重要視しながら、正確な線や情報を踏まえた製図技術習得をより確固たるものとする。			
実務経験を活かした教育について			
授業では、建築士・デザイナーら、実務経験のある非常勤講師により、実践的な授業構成とする。			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
松本正富, 政木哲也, 半海宏一, 鯉坂誠之「建築デザイン製図」学芸出版社			
参考書等			
成績評価方法・基準			
複数の課題に対する提出作品の出来映えから総合的に評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
課題については、次回授業時に全体に対しフィードバックを行う。			
備考			

20 設計基礎演習		LS-E-213	選択 2単位 1年後期
Basic Practice of Architectural Design			
授業計画(各回の学習内容等)			
	学習内容(授業方法)	学習課題(上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	第1設計課題(1) 課題説明・条件整理・ゾーニング	図面の表記方法、線の表現等について確認しておく。 課題要項を読み返し、課題内容のより深い理解に努める。	1 1
第2回	第1設計課題(2) ゾーニング・プランニング	提案内容を整理し、ゾーニング図として整備する。 エスキース内容を振り返り、提案のブラッシュアップや別の案を探る。	1 1
第3回	第1設計課題(3) プランニング・製図下書き	提案内容を整理し、図面上の表現内容を確認する。 製図に際し不足している作業を補う。	1 1
第4回	第1設計課題(4) 製図(平面図・断面図・立面図)	図面の表記方法、線の表現等について確認しておく。 製図に際し不足している作業を補う。	1 1
第5回	第1設計課題(5) 製図(平面図・断面図・立面図)	図面の表記方法、線の表現等について確認しておく。 製図に際し不足している作業を補い、完成に至る様チェックする。	1 1
第6回	第1設計課題(6) 模型制作	模型制作手順を確認し、豊かで美しい表現手法を意識しながら道具や材料等の準備をする。 不足している作業を補い、残りの作業の手順を確認する。	1 1
第7回	第1設計課題(7) 模型制作	作業の手順を確認し、より美しい表現手法を探る。 不足している作業を補い、完成に至る様チェックする。	1 1
第8回	第1設計課題(8) プレゼンテーション・講評	提案内容を整理し、プレゼンテーションの準備をする。 教員の助言や講評等を振り返り、自身の作品をポートフォリオに整備できるようまとめておく。	1 1
第9回	第2設計課題(1) 課題説明・条件整理・ゾーニング	国内外の住宅設計作品の事例研究を行い、課題の提案検討に備える。 課題要項を読み返し、課題内容のより深い理解に努める。	1 1
第10回	第2設計課題(2) プランニング	提案内容を整理し、プランニング図として整備する。 エスキース内容を振り返り、提案のブラッシュアップや別の案を探る。	1 1
第11回	第2設計課題(3) プランニング・製図下書き	提案内容を整理し、図面上の表現内容を確認する。 製図に際し不足している作業を補う。	1 1
第12回	第2設計課題(4) 製図(平面図・断面図・立面図)	図面の表記方法、線の表現、作業スケジュール等について確認しておく。 製図に際し不足している作業を補う。	1 1
第13回	第2設計課題(5) 製図(平面図・断面図・立面図)	図面の表記方法、線の表現等について確認しておく。 製図に際し不足している作業を補い、完成に至る様チェックする。	1 1
第14回	第1設計課題(6) プレゼンテーション・講評	提案内容を整理し、プレゼンテーションの準備をする。 教員の助言や講評等を振り返り、自身の作品をポートフォリオに整備できるようまとめておく。	1 1

21	健康と生活支援	LS-A-107	必修 2単位 2 年前期
	Human Health Care and Life Support		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
○ 単独 (1 人が全回担当)		教職科目 (工業)	
複数 (1 回の授業を 2 人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
オムニバス (各回の担当教員が異なる場合)		教職科目 (商業)	
クラス分け (クラス分けて担当する)		地域志向科目	
		○ 実務経験のある教員担当	
		○ アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
2 年全組 伊藤 美由紀 中井 周作			
授業の達成目標			
健康な方、疾患や障害をかかえる方、子どもから高齢者に対して、心と身体の健康を維持するため、健康を取り戻すための安全で安心な生活を提供できるように、看護や介護、福祉について理解を深め、考えることができる。			
授業の概要			
現代は、子どもや高齢者、病気や障害を抱えた人の支援 (ケア) に携わる人間や施設、システム、住環境などが著しく変化している。これからは、専門の医療や福祉施設に任せるだけでなく、職場や家庭、地域でも、看護や介護についての基礎的な知識を持った人が、それぞれの立場で適切に対応することが求められる。この講義では、それらの考え方や技術を疑似体験やグループワークなどを通してわかりやすく実践的に学ぶ。			
実務経験を活かした教育について			
総合病院で看護師の実務経験のある教員が、様々な疾病や障害のある個人や家族を支援した経験を活かし、健康寿命を延ばすための支援方法を建築や生活具のデザインにつなげられるよう教授する。			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
自作資料。			
参考書等			
参考書はその都度紹介する。			
成績評価方法・基準			
授業レポートや体験実習実施前中後レポートを用いて総合的に評価する。レポートについては、次回授業時に全体に対しフィードバックを行う。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
次回授業時に提出課題に対しての見解や、よくある誤り等について、全体に対して解説しフィードバックを行う。			
備考			

21	健康と生活支援	LS-A-107	必修 2単位 2 年前期
	Human Health Care and Life Support		
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第 1 回	看護とデザインとは!?	看護とは、個人や家族・地域社会が健康で、できる限り質の高い生活ができるための支援的活動であることを学び、デザインと関連付ける。少子高齢社会について予習する。 復習として、配付資料「生活支援」について再読すること。	2 2
第 2 回	健康と看護；病気や障害とは!?	高齢化社会の現状と課題を知り、健康と病気や障害について関心を持ち社会問題に関連付ける。健康問題について予習する。 復習として、配付資料「健康と病気や障害」について再読すること。	2 2
第 3 回	食への援助	消化器の機能と障害について学び、食に関する健康問題に関心を持ち社会問題に関連付ける。食生活や消化器について予習する。 復習として、配付資料「食に関する健康問題」について再読すること。	2 2
第 4 回	動作や移動への援助	運動器の機能と障害について学び、身体の動きや運動に関心を持ち社会問題に関連付ける。運動器について予習する。 復習として、配付資料「運動器」について再読すること。	2 2
第 5 回	高齢者の健康と支援 (1) : 加齢に伴う変化とは!?	高齢化社会と個々の心身の変化について関心を持ち、加齢による心身の変化を知る。高齢者問題について予習する。 復習として、配付資料「加齢に伴う心身の変化」について再読すること。	2 2
第 6 回	高齢者の健康と支援 (2) : 加齢に伴う変化と看護	加齢による心身の変化と日常生活の変化、それに対する支援方法を考える。高齢者問題について予習する。 復習として、配付資料「加齢による変化と支援」について再読すること。	2 2
第 7 回	高齢者の健康と支援 (3) : 高齢者体験	実習計画内容と加齢による心身の変化を対応させて考え、実際に行った実習内容での理解をまとめる。高齢者問題について予習する。 復習として、配付資料「高齢者体験実習内容」を再読すること。	2 2
第 8 回	成人の健康と支援 (1) : 生活習慣病とケア	生活習慣病について関心を持ち、生活習慣病を抱える患者や社会について学び、支援方法を考える。生活習慣病について予習する。 復習として、配付資料「生活習慣病」を再読すること。	2 2
第 9 回	成人の健康と支援 (2) : がんとは!?	がんについて関心を持ち、がんを抱える患者や社会について学ぶ。悪性新生物 (がん) について予習する。 復習として、配付資料「がん」を再読すること。	2 2
第 10 回	成人の健康と支援 (3) : がん患者へのケア	がんを抱える患者やその家族への支援方法について考える悪性新生物 (がん) について予習する。 復習として、配付資料「がんとそのケア」を再読すること。	2 2
第 11 回	ヒューマンエラーとリスクマネジメント	日常生活の中での事故を具体的に考え、事故を分析することを学ぶ。事故事例について予習する。 復習として、配付資料「事故分析」について再読すること。	2 2
第 12 回	こどもの健康と支援 (1) : こどもの発達	こどもの発達や生活や行為に関心を持ち、実際の行動と発達課題を当てはめて考える。少子化について予習する。 復習として、配付資料「こどもの発達」を再読すること。	2 2
第 13 回	こどもの健康と支援 (2) : 発達課題と支援	こどもの発達や生活、実際の行動と発達課題から支援方法を考える。子どもの発達について予習する。 復習として、配付資料「こどもの発達とケア」を再読すること。	2 2
第 14 回	まとめ：健康な生活を支えるとは!?	これまでの講義内容を予習する。QOL (quality of life) の維持向上のための医療福祉の現状と課題をまとめ、今後の生活デザインについて考え、復習する。	2 2

22	地域防災論	LS-A-110	必修 2単位 2 年前期
	Studies of Local Disaster Mitigation		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
○ 単独(1人が全回担当)	○ 教職科目 (工業)		
複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)	教職科目 (情報)		
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	教職科目 (商業)		
クラス分け(クラス分けて担当する)	○ 地域志向科目		
	○ 実務経験のある教員担当		
	アクティブラーニング		
	メディア授業		
クラス・担当教員			
2年全組 畠山 雄豪			
授業の達成目標			
都市や農山漁村など地域の防災について学び、その知識をわが身の安全・安心や地域社会に活かせるようにすること をめざす。			
授業の概要			
災害発生の原因、拡大の背景、応急対応のしくみなど災害発生から対応までについて東日本大震災における仙台など 東北の事例、阪神・淡路大震災、新潟県中越地震など主に過去の地震災害事例から解説する。またディスカッション などを通して災害について自ら考えられるようにする。これらを通して災害の地域構造について理解を深めていく。			
実務経験を活かした教育について			
担当教員は、これまで自治体において防災面を含めた地域社会の課題活動の調査研究に従事していた経験があり、その実績と経験を授業に還元して対応力の養成を図る。			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
『被災地デイズ』 (弘文堂)			
参考書等			
成績評価方法・基準			
学期末の筆記試験、レポート、各回の予復習(ノートの整理等)を総合的に評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
レポートについては、次回授業時に全体に対しフィードバックを行う。			
備考			

22	地域防災論	LS-A-110	必修 2単位 2 年前期
	Studies of Local Disaster Mitigation		
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	災害とは(ガイダンス) : 災害とはどのような条件、要素で発生するかについて考	各自で考えて くること 授業の内容をふまえて東日本大震災などでも当てはまるか確認する	2 2
第2回	災害の種類 : 地震、水害、土砂災害、雪害などの特徴について	ハザードの違いについて 調べておく 宮城県など東北地方で過去に発生した災害について確認しておく	2 2
第3回	災害発生と対応の流れ : 災害発生に関する一連の対応について学ぶ	自分の身の回りでどんな対応が必要か考えておくこと 講義で作成したノートを見直し、災害発生から次の災害への備えまでの流れを確認しておくこと	2 2
第4回	災害対応力 : 自助、共助、公助などの備え、助け合い・支え合いにつ	過去の災害における自助、共助、公助の事例を調べておく 自分自身で行える自助の事例を考え、講義ノートに書き加える	2 2
第5回	大規模災害の特徴 : 東日本大震災などでどのような被害や問題が生じたか	東日本大震災で受講学生自身が体験した被災状況等を整理、簡条書きしておく 板書等を筆写した講義ノートを読み返し、自身の体験以外の被災形態や問題について理解する	2 2
第6回	都市災害の特徴 : 都市災害について阪神・淡路大震災や東日本大震災にお	「帰宅困難者」とはどういう意味か調べておく 大学から自宅まで徒歩による経路や距離、休憩場所等を地図で確認する	2 2
第7回	農山漁村における災害の特徴 : 中山間地域など非都市部における災害の特徴について	新潟県中越地震、岩手・宮城内陸地 震の被害特徴について調べる 都市災害と比較したときの共通点と相違点を整理しておくこと	2 2
第8回	災害対応(災害対策本部の役割) : 地域における初動対応の拠点となる災害対策本部につい	災害対策本部とは何を行う場所、機能なのか調べておく 住んでいる地域の地域防災計画から災害対策本部がどのように記述、位置づけられているか確認する	2 2
第9回	災害対応(医療など) : 情報収集や発信、救急・救命医療など災害発生直後に重	トリアージの意味について調べておく 消防や救急の広域ネットワーク、相互応援などについて自分の住んでいる地域ではどのようになっているか調べる	2 2
第10回	災害対応(避難所について) : 避難所の開設と運営について	自宅の周辺ではどこが指定避難所になっているか調べる 避難所の開設から運営についての流れを復習しておくこと	2 2
第11回	災害弱者について : 災害弱者への配慮、対応について	災害弱者とはどのような人を対象としているのか調べておく 作成したノートなどから福祉避難所とはいつ頃から登場し、どのような特徴や課題があるか説明できるようにしておく	2 2
第12回	災害ボランティアについて : 災害ボランティアの活動内容や環境整備、留意点など	各自が経験した災害ボランティアの内容をまとめてくる ボランティアコーディネーターの役割について説明できるようになる	2 2
第13回	仮住まい(応急仮設住宅)について : 住宅を失った被災者が住宅再建が行われるまでの生活に	みなし仮設 住宅とはどのようなものか調べておく 仮住まいで留意すべき点についてまとめる	2 2
第14回	災害への備え : これまでの講義を振り返る	自分自身で行う災害への備えなどについてまとめておくこと 地域全体を通して備えておく必要性について作成したノートなどから理解の定着に努めること	2 2

23 デザイン史 History of Design		LS-B-204	選択 2単位 2年前期
授業形態		該当科目	
○ 単独(1人が全回担当)	教職科目 (工業)		
複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)	教職科目 (情報)		
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	教職科目 (商業)		
クラス分け(クラス分けて担当する)	地域志向科目		
	○ 実務経験のある教員担当		
	アクティブラーニング		
	メディア授業		
クラス・担当教員			
2年全組 梅田 弘樹			
授業の達成目標			
19世紀から現在に至るデザイン史の流れと主要な人物・ムーブメントを学び、デザインの歴史の基礎を身につける。日本における地域デザインの歴史から、人々の暮らしとその変化にデザインがどのように向き合ってきたのか理解を深める。			
授業の概要			
前半では、19世紀から現在に至るデザイン史における主要な人物とムーブメントについて学ぶ。デザインの発生を社会背景のなかで捉えることで、暮らしとデザインの関わりについて理解する。後半では、日本の地域デザインの歴史について学ぶ。この半世紀、デザイナーと地域住民が一体となったデザイン活動が日本の各地で生まれ発展してきた。こうした地域デザインの活動について、具体的な事例を挙げながら紹介する。			
実務経験を活かした教育について			
担当教員は、地域を対象としたアート活動やデザインに関する業務に従事した経験に基づき、デザインの歴史や意義について学ぶことの重要性を説く。			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
参考書等			
参考書 ・『世界デザイン史カラー版』、阿部公正ほか著、2012 ・『デザイン史を学ぶクリティカル・ワーズ』、橋本優子ほか編、2006 ・『近代から現代までのデザイン史入門』、トーマス・ハウフェ著、2007 ・『日本・地域・デザイン史1』、芸術工学会地域デザイン史特設委員会編、2013 ・『日本・地域・デザイン史2』、芸術工学会地域デザイン史特設委員会編、2016 ・『DOMA 秋岡芳夫 モノへの思想と関係のデザイン』、目黒区美術館編、2012			
成績評価方法・基準			
講義後に課される小レポートの内容と、まとめのレポートから総合的に評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
レポートの内容は、講義内でフィードバックを行う。			
備考			

23 デザイン史 History of Design		LS-B-204	選択 2単位 2年前期
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	ガイダンス、デザイン史を学ぶ意義、ウィリアム・モリス (デザインの先駆者)	予習：身の回りのものとデザインとの関連について考える。ウィリアム・モリスについて調べてくる。 復習：配付資料などを確認してレポートを書く。	2 2
第2回	アーツ・アンド・クラフツ運動 (1850年～)	予習：アーツ・アンド・クラフツ運動に関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認してレポートを書く。	2 2
第3回	アール・ヌーヴォー(～1914年)	予習：アール・ヌーヴォーに関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認してレポートを書く。	2 2
第4回	バウハウス (1919～33年)	予習：バウハウスに関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認してレポートを書く。	2 2
第5回	アール・デコ、ロシア構成主義 (1925～45年)	予習：アール・デコ、ロシア構成主義に関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認してレポートを書く。	2 2
第6回	モダニズム・合理主義(1920代初め～)	予習：モダニズム・合理主義に関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認してレポートを書く。	2 2
第7回	インダストリアルデザイン、商業デザイン、消費社会 (1920年代～)	予習：アメリカのデザインに関連するキーワードや、レイモンド・ローウィ (1893～1986) について調べる。 復習：配付資料などを確認してレポートを書く。	2 2
第8回	20世紀後半のデザイン、ポストモダンとそれ以降、デザインとエコロジー (1968～現代)	予習：20世紀後半のデザインに関連するキーワードと、ポストモダンについて調べる。 復習：配付資料などを確認してレポートを書く。	2 2
第9回	工業デザインと秋岡芳夫	予習：秋岡芳夫について調べてくる。 復習：配付資料などを確認してレポートを書く。	2 2
第10回	地域とデザイン1：山形デザイン史、山形のデザインを担う企業/団体/大学、山形の伝統的工芸品のデザイン	予習：山形の場所、人口、主要産業、特産品、伝統工芸品などについて調べてくる。 復習：配布資料などを確認してレポートを書く。	2 2
第11回	地域とデザイン2：宮城デザイン史、宮城のデザイン行政、産学官の連携とデザイン——宮城県産業デザイン交流協議会 (MIDEC) の歩み、宮城の企業と地域のデザイン、東日本大震災を越えて	予習：宮城の場所、人口、主要産業、特産品、伝統工芸品などについて調べてくる。 復習：配布資料などを確認してレポートを書く。	2 2
第12回	地域とデザイン3：仙台デザイン史、仙台のデザイン行政、仙台のデザインプロモーション、仙台の企業と地	予習：仙台の場所、人口、主要産業、特産品、伝統工芸品などについて調べてくる。 復習：配布資料などを確認してレポートを書く。	2 2
第13回	地域とデザイン4：秋田デザイン史、伝統的工芸品とデザイン、風土が育む秋田県の発酵食品文化と産業、秋田のデザイン教育と人材風土—秋田市のデザイン教育	予習：秋田の場所、人口、主要産業、特産品、伝統工芸品などについて調べてくる。 復習：配布資料などを確認してレポートを書く。	2 2
第14回	まとめとレポート	予習：これまでの授業内容を確認してくる。 復習：関心のあるデザインを見つけ、より理解を深める。	2 2

24	インテリアデザイン	LS-C-206	選択 2単位 2年前期
	Interior Design		
授業形態		該当科目	SDGsの取り組み
○ 単独(1人が全回担当)		○ 教職科目(工業)	
複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)		教職科目(情報)	
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目(商業)	
クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目	
		○ 実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
2年全組 菅原 麻衣子			
授業の達成目標			
インテリアデザインは、空間を室内側からとらえ、利用する人間の側に立って思考し造形する行為である。このため、人間の心理や行動といったソフト面から、人間的スケールでとらえた規模・形態・素材などのハード面まで、広範な知識を総動員する必要がある。当科目では、これを体系的に学び、基礎知識を身につけるとともに、室内空間計画の基礎的な技術を習得することを目指す。			
授業の概要			
以下の項目をもとに参考事例等を紹介しながら講義を行う。 1) 歴史：インテリアデザインの発生から近現代の日本/西洋の住まい・インテリアまで、その変遷課程を概説する。 2) 空間デザイン：空間の用途や目的に応じて変化するインテリアデザインの形・色・素材等や、各構法によって生まれるデザイン効果を解説する。 3) 人間工学：様々な寸法やモジュールを通して、心理的距離感の違いや各要素の規模・形態について解説する。 4) エレメント：家具や照明など、インテリアデザインに欠かせないエレメントの設計/選定手法などを解説する。 5) 職能：インテリアデザイナーやインテリアプランナーなどの実務を紹介し、インテリアにおける様々な職能とその価値を解説する。			
実務経験を活かした教育について			
当科目は、建築士、インテリアデザイナーとして、実務に携わった教員が担当する。すなわち、文化・デザイン史から構成材料まで、インテリアデザインに関わる実際的な知見・技術を含めながら、事例的に解説する。			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
「インテリアデザイン教科書」彰国社 ISBN978-4-395-00890-2			
参考書等			
成績評価方法・基準			
毎回のミニ演習および期末試験等をもとに総合的に評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
演習については、次回授業時に全体に対しフィードバックを行う。			
備考			

24	インテリアデザイン	LS-C-206	選択 2単位 2年前期
	Interior Design		
授業計画(各回の学習内容等)			
	学習内容(授業方法)	学習課題(上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	インテリアデザインとは何か：歴史編(1) インテリアデザインの基本事項と講義予定について概説する。	指定教科書を見ておく 講義をもとに自宅のインテリアを確認する	2 2
第2回	日本の住まいとインテリア・家具の変遷：歴史編(2) 日本の住まいとインテリア・家具の変遷について概説する。	指定教科書を見ておく 講義をもとに自宅の和室空間を確認する	2 2
第3回	西洋の住まいとインテリア・家具の変遷：歴史編(3) 西洋の住まいとインテリア・家具の変遷について概説する。	指定教科書を見ておく 講義をもとに自宅の洋室空間を確認する	2 2
第4回	デザインの流れと日本の現代家具 スカンジナビア・アメリカ・イタリア・西ドイツ・ポス	指定教科書を見ておく 講義をもとに参考図書に掲載された作品群を鑑賞・評価する	2 2
第5回	人間工学と人体寸法 設計に必要な人間工学と人体寸法について学ぶ。	指定教科書を見ておく 講義をもとに参考図書に掲載された作品群を鑑賞・評価する	2 2
第6回	家具・設備への人間工学の応用 椅子・ベッド・室内の高さ寸法について学ぶ。	指定教科書を見ておく 講義をもとに参考図書に掲載された作品群を鑑賞・評価する	2 2
第7回	インテリアの安全性 人間工学と人体および生理について概説する。	指定教科書を見ておく 講義をもとに自宅の家具や設備と人体寸法を確認する	2 2
第8回	形・色・テクスチャーの心理 デザインの三要素を知り、見え方の心理と色彩の効果に	指定教科書を見ておく 講義をもとに自宅の人間の尺度と空間の心理について再考する	2 2
第9回	人間的尺度と空間の心理 モデュロールと木割りを学び行動動作特性と退陣距離な	指定教科書を見ておく 講義をもとに自宅の形・色・テクスチャーと心理について再考する	2 2
第10回	家具デザイン：インテリアエレメント(1) 家具デザインについて名作といわれる作品を知る。	指定教科書を見ておく 講義をもとに汎用されている家具や設備について再考する	2 2
第11回	家具とテキスタイル：インテリアエレメント(2) インテリアデザインの要素(エレメント)として、家具とテキス	指定教科書を見ておく 講義をもとに自宅の家具やテキスタイルのデザインを観察・考察する	2 2
第12回	照明とサイン：インテリアエレメント(3) インテリアデザインの要素(エレメント)として、照明とサインのデザ	指定教科書を見ておく 講義をもとに自宅の照明や市街地のサインのデザインを観察・考察する	2 2
第13回	グリーン・アート：インテリアエレメント(4) インテリアデザインにおける材料と仕上の基礎を学ぶ。	指定教科書を見ておく 講義をもとに自宅のインテリアエレメントの材料・仕上を観察・考察する	2 2
第14回	インテリアデザイン・まとめ これまでの講義内容を総括し、インテリアデザインへの	講義ノートを再読しておく 講義内容を総括し試験等に備える	2 2

25 住環境の基礎科学		LS-C-207	必修 2単位 2 年前期
Basic Science of Building Environment			
授業形態		該当科目	SDGsの取り組み
○ 単独(1人が全回担当)	○ 教職科目 (工業)		
複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)	教職科目 (情報)		
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	教職科目 (商業)		
クラス分け(クラス分けて担当する)	地域志向科目		
	実務経験のある教員担当		
	アクティブラーニング		
	メディア授業		
クラス・担当教員			
2年全組 高木 理恵			
授業の達成目標			
建築環境工学の基礎として、住まいの環境に影響を及ぼす自然環境の特性、住まいの環境に関わる物理現象とその基本法則、快適な環境条件について理解する。また、身の周りの暖かくて涼しい住まい、湿気のない住まいを実現するための手法、暖冷房と換気の計画の重要性、省エネルギー計画の必要性などを考察する。			
授業の概要			
住まいは過酷な自然環境の中につくられる一種のシェルターと捉えることができ、生活空間に適切な物理的環境をデザインするための学問が「建築環境工学」である。本講では、住まいを取り巻く自然環境に対する理解を深めるとともに、自然環境の物理的環境要素である熱や空気をどのように利用または制御して快適で健康的な住まいの環境を作り出すのかを取り上げながら、建築環境工学の基礎となる事項を学ぶ。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
教員が作成したプリントを配布する。			
参考書等			
田中俊六ほか：最新建築環境工学 井上書院			
成績評価方法・基準			
課題レポートの提出と試験で総合的に判断する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
レポートについては、授業時に全体に対しフィードバックを行う。			
備考			

25 住環境の基礎科学		LS-C-207	必修 2単位 2 年前期
Basic Science of Building Environment			
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	自然環境の利用と制御 (1) 気候要素と生活	自分の身の周りの自然環境の要素について調べる。 授業で配付された資料を再読し、自然環境の利用と制御の意義についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	2 2
第2回	自然環境の利用と制御 (2) 太陽エネルギーと太陽位置	太陽位置を学ぶことの意義について調べる。 授業で配付された資料を再読し、太陽位置の求め方についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	2 2
第3回	自然環境の利用と制御 (3) 日照と日影	日照と日影について調べる。 授業で配付された資料を再読し、住まいの計画で日照と日影を考える意義についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	2 2
第4回	自然環境の利用と制御 (4) 日照調整計画とフリーズソレイユ	冬の日差し確保と夏の日射遮へいの意義について調べる。 授業で配付された資料を再読し、フリーズソレイユの種類と効果についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	2 2
第5回	暖かくて涼しい住まい (1) 熱環境と生活	自分の身の周りの熱環境問題について調べる。 授業で配付された資料を再読し、住まいの熱環境を学習する意義についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	2 2
第6回	暖かくて涼しい住まい (2) 伝熱の3つのプロセス	伝熱の基本法則について調べる。 授業で配付された資料を再読し、伝熱の3つのプロセスについておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	2 2
第7回	暖かくて涼しい住まい (3) 熱伝達と熱貫流	住まいで生じている伝熱について調べる。 授業で配付された資料を再読し、壁体を貫流する熱量と室内側の壁表面温度の計算方法についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	2 2
第8回	暖かくて涼しい住まい (4) 熱負荷	室内の熱損失と熱取得について調べる。 授業で配付された資料を再読し、熱負荷および暖房と室温の関係についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	2 2
第9回	暖かくて涼しい住まい (5) 暖冷房計画とパッシブデザイン	パッシブデザインを含む暖冷房の方法について調べる。 授業で配付された資料を再読し、省エネルギーを実現する暖冷房計画についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	2 2
第10回	暖かくて涼しい住まい (6) 暖かくて涼しい住まいに関する考察	暖かくて涼しい住まいを実現する手法について考える。 授業で配付された資料を再読し、暖かくて涼しい住まいを実現する手法についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	2 2
第11回	湿気のない住まい (1) 相対湿度と絶対湿度	自分の身の周りの湿度環境問題について調べる。 授業で配付された資料を再読し、湿り空気の定義と湿度の表し方についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	2 2
第12回	湿気のない住まい (2) 結露防止	水の状態変化と結露のメカニズムについて調べる。 授業で配付された資料を再読し、空気線図の読み方と結露を防止するための方法についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	2 2
第13回	湿気のない住まい (3) 湿気のない住まいに関する考察	湿気のない住まいを実現する手法について考える。 授業で配付された資料を再読し、湿気のない住まいを実現する手法についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	2 2
第14回	まとめと試験	全ての授業内容を整理する。 試験問題をおさらいする。	2 2

26	住まいの構造力学	LS-C-208	選択 2単位 2年前期
	Mechanics of Building Structure		
授業形態		該当科目	SDGsの取り組み
○	単独(1人が全回担当)	教職科目(工業)	
	複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)	教職科目(情報)	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	教職科目(商業)	
	クラス分け(クラス分けて担当する)	地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
2年全組 益野 英昌			
授業の達成目標			
前期「住まいの力学基礎」に続いて、住まいの安全を保つために必要な工学的知識技術を身につける。その上で、多様な構造設計に対応でき、問題解決能力を持つ建築技術者の育成をめざし、安全で合理的な建築物をつくるのに必要な基礎的な知識と技術を習得する。さらに、許容応力度等計算に関する知識と技術を習得させ、資格試験にも対応できる知識と能力を身につける。			
授業の概要			
まず、梁材やトラス、ラーメンといった構造力学モデルとその応力について、演習問題を解きながら学ぶ。次いで、応力が生じている部材の断面に着目し、設計に必要な各種係数・数値等を学ぶ。さらに、外力に対する力学的挙動としてのたわみや座屈に触れ、構造設計の学びに必要な基礎知識・技術を修得していく。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
教科書：和田章ほか「First Stage シリーズ 建築構造設計概論」実教出版 このほか適時、教員自作資料を配付する。また、関数電卓を用意すること。			
参考書等			
成績評価方法・基準			
期末試験もしくはこれに相当する総合演習と、随時実施する演習により、総合的に評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
演習については、次回授業時に全体に対しフィードバックを行う。			
備考			

26	住まいの構造力学	LS-C-208	選択 2単位 2年前期
	Mechanics of Building Structure		
授業計画(各回の学習内容等)			
	学習内容(授業方法)	学習課題(上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	静定ラーメン・片持梁系ラーメン 「住まいの力学基礎」に続き、構造力学モデルとその応	住まいの力学基礎の学習内容を復習しておく 教科書・参考書を一読し学習計画をたてる	2 2
第2回	静定ラーメン・単純梁系ラーメン 静定ラーメンの解き方を理解し、軸方向力図・せん断力図および曲げモーメント図の求め方および表し方を習得する。	教科書・参考書を一読しておく 演習内容とその解法を反復的に復習する	2 2
第3回	静定ラーメン・3ピン式のラーメン 同上	教科書・参考書を一読しておく 演習内容とその解法を反復的に復習する	2 2
第4回	静定トラス・トラス部材に生じる力 トラス構造の考え方と特性を理解し、力の釣合条件から	教科書・参考書を一読しておく 演習内容とその解法を反復的に復習する	2 2
第5回	静定トラス・節点法・切断法 節点法と切断法について理解し、各部材の応力が解ける	教科書・参考書を一読しておく 演習内容とその解法を反復的に復習する	2 2
第6回	構造材料の力学的性質・弾性体の性質・材料の強さと許容応力度 部材の断面に作用する力と変形に関する基本的事項について考察を深めさせ、部材の強さと変形の両面から部材の断面計算を理解させる。	教科書・参考書を一読しておく 演習内容とその解法を反復的に復習する	2 2
第7回	構造材料の力学的性質・弾性体の性質・材料の強さと許容応力度 構造部材の断面に着目し、生じている応力・応力度の基礎概念について、演習を交えて学ぶ。	教科書・参考書を一読しておく 演習内容とその解法を反復的に復習する	2 2
第8回	断面積・図心・断面1次モーメント 構造部材の断面に着目し、断面積・図心・断面1次モー	教科書・参考書を一読しておく 演習内容とその解法を反復的に復習する	2 2
第9回	断面2次モーメント・断面係数・断面2次半径 構造部材の断面に着目し、断面2次モーメント・断面係数・断面2次半径の基礎概念について、演習を交えて学ぶ。	教科書・参考書を一読しておく 演習内容とその解法を反復的に復習する	2 2
第10回	部材に生じる応力度・曲げモーメントを生じる部材 曲げ材の断面に生じる応力度を求められるようにし、そ	教科書・参考書を一読しておく 演習内容とその解法を反復的に復習する	2 2
第11回	部材に生じる応力度・引張力を生じる部材 引張材の断面に生じる応力度を求められるようにし、そ	教科書・参考書を一読しておく 演習内容とその解法を反復的に復習する	2 2
第12回	部材に生じる応力度・圧縮力を生じる部材 圧縮材の断面に生じる応力度を求められるようにし、そ	教科書・参考書を一読しておく 演習内容とその解法を反復的に復習する)	2 2
第13回	梁の変形・たわみとたわみ角・モールの定理 梁の長さや断面、支点の支持条件により、たわみおよびたわみ角の生じ方が変化することを理解し、モールの定理を用いて、たわみとたわみ角を求めることができるようにする。	教科書・参考書を一読しておく 演習内容とその解法を反復的に復習する	2 2
第14回	地震被害と耐震・免震・制振構造の原理 構造設計について 構造力学および耐震・免震・制振構造設計の概要について理解し、構造設計の実際について考察しながら、これまでの学習内容を総括する。	第13回までの学習内容をふりかえっておく 第14回の学習内容をふりかえり、とくに力学問題の解法を反復的に復習する	2 2

27 設計CAD演習Ⅰ		LS-E-313	選択 2単位 2年前期
Architectural Design and CAD Practice I			
授業形態	該当科目	SDGsの取り組み	
単独(1人が全回担当)	○ 教職科目 (工業)	 	
複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)	教職科目 (情報)		
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	教職科目 (商業)		
○ クラス分け(クラス分けて担当する)	地域志向科目		
	○ 実務経験のある教員担当		
	○ アクティブラーニング		
	メディア授業		
クラス・担当教員			
2年1組、2年2組 渡邊 武海 谷本 裕香子			
授業の達成目標			
住宅建築構法の基礎を理解し、平面・断面・立面の各図面や、屋根・開口等が整合した設計図面をまとめることができる。CADの操作方法を習得し、正確な図面を描画できる。3DCGアプリケーションを用いて立体的なモデリングを行えること。図版レイアウトや色調、写真等に美的感性をもち、適切なアプリケーションツールを使用して、美しいプレゼンテーション・ボードを作成することができる。			
授業の概要			
第1部ではCADの操作方法を学び、作図手順や記載内容の正確さを重要視しながら住宅レベルの建築図面をPC上で製図していく。第2部では3DCGの演習を通して、建築内外空間を立体的に捉え表現する手法を学ぶ。また、第3部ではこれらをコンテンツとした図面レイアウトやプレゼンテーション手法を学び、そのセンスを磨く。			
実務経験を活かした教育について			
授業では、建築士・デザイナーら実務経験のある非常勤講師により実践的な授業構成とする。			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
教科書：必要に応じて教員自作資料のプリントを配付する。			
参考書等			
成績評価方法・基準			
複数の課題に対する提出作品の出来映えから総合的に評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
課題については、次回授業時に全体に対しフィードバックを行う。			
備考			

27 設計CAD演習Ⅰ		LS-E-313	選択 2単位 2年前期
Architectural Design and CAD Practice I			
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	CADの基礎操作習得 (1) 画面構成や各ツールの使い方に関するレクチャー	建築図面の作図手順や表現内容を見直す。 基本操作を各自復習し操作に慣れる。	1 1
第2回	CADの基礎操作習得 (2) 簡単な作図課題を通じた基本操作演習	基本操作を確認する。 教員による説明内容をまとめ、操作を確実なものにする。	1 1
第3回	CADを用いた平面図作図 (1) 基準線、柱、壁等の作図	平面図の作図手順や表現内容を見直す。 教員による助言を整理し、不十分な箇所を補う。	1 1
第4回	CADを用いた平面図作図 (2) 建具、設備・家具等の作図	作図に用いるツールや手順を確認する。 作図内容を確認し、間違いを訂正し、不足しているものを補う。	1 1
第5回	CADを用いた平面図作図 (3) 外構、室名等の作図、出力方法レクチャー	作図に用いるツールや手順、作図内容を確認する。 作図内容を確認し、間違いを訂正し、不足しているものを補う。	1 1
第6回	CADを用いた断面図・立面図作図 (1) 基準線、断面線等の作図	断面図・立面図の概念を理解し、作図手順や表現内容を見直す。 教員による助言を整理し、不十分な箇所を補う。	1 1
第7回	CADを用いた断面図・立面図作図 (2) 建具、見えがかり等の作図、文字入力、出力	作図に用いるツールや手順、作図内容を確認する。 作図内容を確認し、間違いを訂正し、不足しているものを補う。	1 1
第8回	3DCGアプリケーションの基礎操作習得	3DCGを用いた表現やプレゼンテーションに関して調べる。 基本操作を各自復習し操作に慣れる。	1 1
第9回	3DCGアプリケーションを用いた住宅のモデリング (1) 躯体のモデリング、マテリアル配置のレクチャー	課題内容を把握し、モデリング内容を整理しておく。 作業内容を振り返り、不十分な箇所を補う。	1 1
第10回	3DCGアプリケーションを用いた住宅のモデリング (2) 建具等のモデリング、家具の配置	求められているモデリング内容を把握し、作業内容を整理しておく。 作業内容を振り返り、不足しているものを補う。	1 1
第11回	3DCGアプリケーションを用いた住宅のモデリング (3) 外構のモデリング	求められているモデリング内容を把握し、作業内容を整理しておく。 作業内容を振り返り、不十分な箇所を補う。	1 1
第12回	3DCGアプリケーションを用いた住宅のモデリング (4) アングルの設定、パース画像としてのエクスポート	課題の完成形を想定し、作業内容をリストアップしておく。 作図内容を確認し、間違いを訂正し、不足しているものを補う。	1 1
第13回	プレゼンテーションシートの作成 (1) Illustratorの基礎操作	作品の特徴やコンセプト等、プレゼンテーションシートにまとめる内容を精査する。Illustrator の操作を予習する。 教員による説明内容をまとめ、不足しているものを補う。	1 1
第14回	プレゼンテーションシートの作成 (2) シートのレイアウト、画像配置、文字入力等	プレゼンテーションシートのリファイン要素、魅力を引き出す表現方法の要点を明確にしておく。 教員の助言や講評等を振り返り、自身の作品をポートフォリオとして整備する。	1 1

28	地域看護論	LS-B-205	選択 2単位 2年後期
	Regional Nursing and Community Support		
授業形態		該当科目	SDGsの取り組み
○	単独(1人が全回担当)	教職科目(工業)	
	複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)	教職科目(情報)	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	教職科目(商業)	
	クラス分け(クラス分けて担当する)	○ 地域志向科目	
		○ 実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
2年全組 伊藤 美由紀			
授業の達成目標			
在宅や地域での子どもや高齢者、療養者や障がい者の生活をデザインするために、その社会的背景を理解し、治療や療養をする方とともに家族全体への援助を対象とした支援方法を理解する。			
授業の概要			
多くの高齢者や療養者が、住み慣れた家庭や地域でできる限り過ごしたいと願っている。介護保健制度も在宅や地域での生活を重視した支援体制の確立を目指している。社会的背景を理解し、在宅や地域での高齢者や療養者の生活を支えるためには、病気や障害を持った方だけに注目するのではなく、一単位としての家族全体を援助の対象としたケアが求められる。また少子化社会にも目を向け、子どもや子育て世帯に対する持続的で包括的なケアも理解する必要がある。この講義では、特に宮城や仙台の方策を事例に挙げ、それらの考え方や技術をわかりやすく話す。授業では、実務経験のある外部講師を招き、より実践的な授業構成とする。			
実務経験を活かした教育について			
総合病院で看護師の実務経験のある教員が、様々な疾病や障害のある個人や家族を支援した経験を活かし、健康寿命を延ばすための支援方法を建築や生活具のデザインにつなげられるよう教授する。			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
自作資料。			
参考書等			
参考書はその都度紹介する。			
成績評価方法・基準			
授業レポート70%、最終レポート30%、評価合計60点以上の得点で合格とする			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
授業課題については、次回授業時に全体に対しフィードバックを行う。			
備考			

28	地域看護論	LS-B-205	選択 2単位 2年後期
	Regional Nursing and Community Support		
授業計画(各回の学習内容等)			
	学習内容(授業方法)	学習課題(上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	家庭や地域で健康に暮らすということ	子どもから高齢者の発達や心身の変化、病気や障害について健康と生活支援で学んだことをふりかえり予習をする。復習として自宅や地域で療養する人についてまとめる。	2 2
第2回	家庭や地域での支援とは何か!?	介護保険制度について予習する。復習として介護保険制度と自分の身の回りの人との関連を整理する。	2 2
第3回	地域で療養する人を支える保健・医療・福祉	医療や福祉について予習する。復習として地域医療や福祉と自分の身の回りの人との関連を整理する。	2 2
第4回	認知症とケア	認知症と社会問題について予習する。復習として認知症の支援や社会問題解決に向けて復習する。	2 2
第5回	認知症を地域で支える	認知症サポーターについて予習する。復習として認知症サポーターについての配付資料を再読する。	2 2
第6回	基本的生活行動とケア(1): 移動の援助	身体機能に障害がある生活について予習する。復習として(1): 移動の援助についての配付資料を再読する。	2 2
第7回	基本的生活行動とケア(2): 清潔の援助	身体機能に障害がある生活について予習する。復習として(2): 清潔の援助についての配付資料を再読する。	2 2
第8回	基本的生活行動とケア(3): 食事と排泄の援助	身体機能に障害がある生活について予習する。復習として(3): 食事と排泄の援助についての配付資料を再読する。	2 2
第9回	リハビリテーションと支援	身体機能に障害がある生活について予習する。復習としてリハビリテーションと看護についての配付資料を再読する。	2 2
第10回	子どもと子育て世帯の支援	子育て世帯の抱える課題について予習する。復習として子育て世帯の抱える課題について整理する。	2 2
第11回	地域介護支援の現状とこれから	地域包括支援センター地域包括ケアシステムについて予習する。復習として地域包括ケアシステムについて整理する。	2 2
第12回	救急や災害時の支援	防災減災と社会問題について予習する。復習として防災減災の支援や社会問題解決に向けて復習する。	2 2
第13回	笑いの効用	笑い与健康について予習する。復習として日常生活の笑いの効果について整理する。	2 2
第14回	心理的危機やストレス状況とケア	心身の病気について予習する。復習として心身の病気と家族支援について整理する。	2 2

29 福祉住環境		LS-A-202	選択 2単位 2年後期
Welfare Housing Design			
授業形態		該当科目	SDGsの取り組み
<input type="radio"/> 単独(1人が全回担当)	<input type="radio"/> 教職科目(工業)		
<input type="radio"/> 複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)	教職科目(情報)		
<input type="radio"/> オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	教職科目(商業)		
<input type="radio"/> クラス分け(クラス分けて担当する)	地域志向科目		
	<input type="radio"/> 実務経験のある教員担当		
	<input type="radio"/> アクティブラーニング		
	メディア授業		
クラス・担当教員			
2年全組 谷本 裕香子			
授業の達成目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな障害の存在とそれに伴う住環境の問題点を理解する ・住環境の改善案を提示できる・高齢者・障害者の地域とのつながりの重要性を理解する ・共生のすまいについて理解を深める 			
授業の概要			
本講義では、生活環境を、住居や公共交通機関、公共施設などに代表される物理的環境のみならず、福祉制度や施策といった制度的環境、あるいは家族や介護者、専門家、当事者等、人的環境の視点からも捉え、障害者や高齢者の自立した生活が保障されるための生活環境整備・改善の支援について学習する。中間・最終回にグループワークを行う。			
実務経験を活かした教育について			
担当者の設計の実務経験を活かし、具体的な改善事例を紹介しながら、企画・設計等の力を養成する。			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
講義の時間に毎回プリントを配付する。			
参考書等			
児玉桂子「超高齢社会の福祉居住環境」、中央法規、2009.11日本建築学会「利用者本位の環境デザイン」、彰国社、2017.2			
成績評価方法・基準			
授業内での小レポート(40%)および、中間・最終回のグループワーク等(60%)により総合的に判断し、評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
レポート・グループワークについては、原則、翌週の授業時にフィードバックを行う。			
備考			

29 福祉住環境		LS-A-202	選択 2単位 2年後期
Welfare Housing Design			
授業計画(各回の学習内容等)			
	学習内容(授業方法)	学習課題(上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	日本社会と福祉住環境	自分の住環境を意識して観察する	2
第2回	居住福祉と環境	日本の福祉住環境について復習する	2
第3回	現代のライフスタイルや家族構成	居住福祉とは何か調べてくる	2
第4回	高齢者の身体的特性と環境	居住福祉の考え方について復習する	2
第5回	住環境整備の基本技術	近年のライフスタイルの変化について予習する	2
第6回	障害者の身体的特性と環境	ライフスタイルや家族構成に合った住まいについて復習する	2
第7回	住宅改修と住まいの安全、福祉用具	高齢者・認知症高齢者の住まいの問題点について予習する	2
第8回	住まいのレポート出題	高齢者向けの住宅改修をした事例を調べる	2
第9回	講評会(住環境整備)	住環境整備のための基本技術について復習する	2
第10回	高齢者施設・障害者施設	障害者の住まいの問題点について予習する	2
第11回	高齢者・障害者・子どもと共生のすまい	障害者のための環境改善について復習する	2
第12回	高齢者・障害者・子どもと地域の居場所	住宅改修について調べる	2
第13回	高齢者・障害者と地域活動	自宅の改善点について考える	2
第14回	まとめレポート	これまでの講義内容を復習する	2
		すべての講義を復習する	2

30 プロジェクトデザイン Project Management		LS-B-302	必修 2単位 2年後期
授業形態		該当科目	
単独(1人が全回担当)	教職科目 (工業)		
複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)	教職科目 (情報)		
○ オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	教職科目 (商業)		
クラス分け(クラス分けて担当する)	○ 地域志向科目		
	○ 実務経験のある教員担当		
	アクティブラーニング		
	メディア授業		
クラス・担当教員			
2年全組 畠山 雄豪 岸本 誠司 大場 真			
授業の達成目標			
プロジェクトのデザインとマネジメントについての基礎的な知識を身につける。プロジェクトの実施に伴う各種の評価手法について理解する。実践例を通して、実行的なプランニングの手法の理解を深める。			
授業の概要			
地域で実践されている各種プロジェクト事例を題材に、プロジェクトの計画、準備、実施、評価の各フェーズにおいて必要な手法や知識を身につける。さらに、プロジェクトを進めるうえで必要な、運営の仕組みや住民参加などのプロジェクト管理や関係者の参加のすすめかたについても学んでいく。また、計画や評価の段階で重要となる各指標の理解やデータ収集分析の方法についても適宜紹介していく。なお、とりあげるプロジェクトには東北や宮城で実施されるものを含む。授業では、実務経験のある外部講師を招き、より実践的な授業構成とする。			
実務経験を活かした教育について			
担当教員は、地域社会の課題を市民協働で取り組む活動や自治体において防災面を含めた地域社会の課題活動に従事しており、その実績と経験を授業に還元して対応力の養成を図る。			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
プリント等参考資料を配付予定。			
参考書等			
成績評価方法・基準			
授業内課題、レポートや試験を用いて評価する。レポートについては次回授業時に全体に対しフィードバックを行う。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
授業内課題、レポートについては次回授業時に全体に対しフィードバックを行う。			
備考			

30 プロジェクトデザイン Project Management		LS-B-302	必修 2単位 2年後期
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	プロジェクトデザインの基本的な段階	プロジェクトと計画との違いを予習する。	2
第2回	プロジェクトに関わる運営組織のネットワーク	プロジェクトを実施するにあたり、各段階の基本的な作業や内容を理解し、復習する。	2
第3回	プロジェクトの目的とプロセスのデザイン	プロジェクトを運営とはどのようなものかを予習する。	2
第4回	プロジェクトの参加のデザイン	運営する各主体のネットワーク化の手法と影響について学び、それを復習する。	2
第5回	プロジェクトの評価およびリスクマネジメント	プロジェクトの目的とはなにかを予習する。	2
第6回	都市におけるプロジェクトの目的とプロセスデザイン	目的の設定と、短期、中期、長期的なタイムスパンごとの目標設定の方法を学び、復習する。	2
第7回	都市におけるプロジェクトの参加とネットワークのデザイン	プロジェクトの参加の代表的な方法を予習する。	2
第8回	都市におけるプロジェクトのリスクマネジメントと評価	関係者や住民を含めたプロジェクトの参加者との協働デザインの手法を学び、復習する。	2
第9回	中山間地域におけるプロジェクトの目的とプロセスデザイン	プロジェクトの具体的な結果、リスクについて予習する。	2
第10回	中山間地域におけるプロジェクトの参加とネットワークのデザイン	結果に関する指標、リスクの評価やそれへの対応の仕方を学び、評価と改善の方法について学び、復習する。	2
第11回	中山間地域におけるプロジェクトのリスクマネジメントと評価	都市部におけるまちづくりプロジェクトの代表例を予習する。	2
第12回	広域的なプロジェクトの目的とプロセスデザイン	目的設定とプロセスのデザインを実践例を通して学び、復習する。	2
第13回	広域的なプロジェクトの参加とネットワークのデザイン	都市部におけるまちづくりプロジェクトにおいてかかわる主体について予習する。	2
第14回	広域的なプロジェクトのリスクマネジメントと評価	参加と協働ネットワークのデザインを実践例を通して学び、復習する。	2

31 ランドスケープデザイン		LS-A-201	必修 2単位 2年後期
Landscape Design			
授業形態		該当科目	SDGsの取り組み
○ 単独(1人が全回担当)		教職科目 (工業)	
複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目 (商業)	
クラス分け(クラス分けて担当する)		○ 地域志向科目	
		○ 実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
2年全組 大沼 正寛			
授業の達成目標			
公共空間などを設計するランドスケープデザインの職能は、欧米では建築と同等に重要とされているが、我が国においては、必ずしも認知度が高いとはいえない現状にある。だが、地域の風景が整えられ、美しくあることは、人間生活の基盤・根拠であり、目標でもある。本科目では、関連分野の導入として、地域の風景のなりたちについて基礎知識を学び、読み解く力を養う。また、造景（造園・景観・環境デザイン）に関わる諸学問に関心を寄せ、風景を構想する力を養うことを目標とする。			
授業の概要			
当学科において共有したい基本的事項として、土地の景、造園の技法、景観計画、まちなみ保全、プレイスデザイン、生活と造景、および造景のこれから、といったトピックが挙げられる。それぞれの項目には相応の情報量があることから、おおむね2回を1セットとして授業を構成する。国内外の多彩な事例を紹介しながらも、東北・宮城・仙台の各種事例や農山漁村の生業景に焦点をあて、身の回りの風景に関心を寄せる。全体を通して、有形・無形の地域資源や構成要素を「見る」力を養うとともに、「創る」力の涵養にも資するよう、造園学・建築学などに関わる技術論を交えていく。			
実務経験を活かした教育について			
建築遺産の保存再生、被災地の復興事業と工作物設計、住宅庭園のデザインなど、測量術・設計術につながる技術的知識、一級建築士として関わった実務経験をもとにした実例紹介を加えていく。			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
指定しない。			
参考書等			
ランドスケープの近代—建築・庭園・都市をつなぐデザイン思考 佐々木葉二、宮城俊作、登坂誠、三谷徹 鹿島出版会 2010 緑のデザイン・住まいと引き立てあう設計手法 園三 学芸出版社 2020 生きている文化遺産と観光 住民によるリビングヘリテージの継承 藤木庸介 学芸出版社 2010			
成績評価方法・基準			
授業中に行う理解度チェックテストにおいて、主に基礎知識（ミニマム・リクワイアメント）の修得度を問い、ゲストスピーカー講義に対するレポート、最終レポート等において、主に考察の深さ（アドバンスト・スキル&ナレッジ）を問う。これらをもとに、総合的に評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
理解度チェックテストは授業中に行い、その後の授業において、正答例を含め解説を行う。レポートについても、その後の授業においてフィードバックを行う。			
備考			

31 ランドスケープデザイン		LS-A-201	必修 2単位 2年後期
Landscape Design			
授業計画（各回の学習内容等）			
	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習・下段復習）	目安時間(時)
第1回	風土・風景・景観（第1部 土地の景 前編） 古今東西の風土・風景・景観に関心をよせ、ランドスケープデザイン	訪れてみたいまち・むらなど、関心ある事例と選択理由を文章化しておく 講義で挙げた紹介事例を復習し、参考図書を試読する	2 2
第2回	地形・水系・植生（第1部 土地の景 後編） 東北地方を主な事例として、風景の基盤となる地形や水系、植	東北の地図、参考図書等を試読して関心を深めておく 講義の紹介事例・都市を検索し、関心を広げる	2 2
第3回	景と庭の歴史（第2部 造園の技法 前編） 世界と日本の庭園史を概括し、景と庭に関する基礎知識を養う	造園史に関わる参考図書等を試読して関心を深めておく 講義の紹介事例・都市を検索し、関心を広げる	2 2
第4回	近代のランドスケープデザイン（第2部 造園の技法 後編） 近代の都市変容と公園・景観デザインに関わる	造園史に関わる参考図書等を試読して関心を深めておく 講義の紹介事例・都市を検索し、関心を広げる	2 2
第5回	地図・測量と土地利用（第3部 景観計画論 前編） 地図・測量に関わる基礎知識を身につけ、土地利用や道	測量技術等に関わる参考図書等を試読して関心を深めておく 講義の紹介事例・都市を検索し、関心を広げる	2 2
第6回	住環境の緑化と公園・植栽（第3部 景観計画論 後編） 地域・都市の住環境とその緑化、公園、植栽に関わ	都市公園・広場等に関わる参考図書等を試読して関心を深めておく 講義の紹介事例・都市を検索し、関心を広げる	2 2
第7回	景観法と歴史まちづくり（第4部 まちなみ保全論 前編） 景観法・歴史まちづくり法など、歴史・環境保全	まちなみ保全等に関わる参考図書等を試読して関心を深めておく 講義の紹介事例を検索し、関心を広げる	2 2
第8回	地域資源の活用保全とリノベーション（第4部 まちなみ保全論 後編） 伝統的建造物群保存地区や文化的景	まちなみ保全等に関わる参考図書等を試読して関心を深めておく 講義の紹介事例を検索し、関心を広げる	2 2
第9回	生業景の東北（第5部 プレイスデザイン論 前編） 環境循環型の生業と地技に着目する「生業景」の諸概念を理解し、東北の豊かな事例について知る（ゲストスピーカー講義）	地域づくり・生業・景観等に関わる参考図書等を試読して関心を深めておく 講義に対するレポートを書き、関心や疑問を深める	2 2
第10回	観光・交流から移住・定住へ（第5部 プレイスデザイン論 後編） 地域の個性や歴史性に触れる観光や交流、新たな関係人口増大に寄与する可能性のある移住・定住について学ぶ	観光・交流・移住定住等に関わる参考図書等を試読して関心を深めておく 講義の紹介事例・都市を検索し、関心を広げる	2 2
第11回	都市・農村とランドスケープの多様（第6部 総論・造景をめざして その1） 前10回までの内容とその理解度をチェックし、とくに都市・農村とランドスケープデザインに関する事項を総括する	これまでの学習内容、ノートを復習しておく 講義の紹介事例・都市を検索し、関心を広げる	2 2
第12回	景観づくりと地域共創（第6部 総論・造景をめざして その2） 景観づくりにおいて重要な市民参加、地域共創の可能性について、事例的に学ぶ（ゲストスピーカー講義）	これまでの学習内容、ノートを復習しておく 講義に対するレポートを書き、関心や疑問を深める	2 2
第13回	人間の活動・営みとランドスケープ（第6部 総論・造景をめざして その3） 理解度チェックの結果をフィードバックし、とくに人間の活動・営みとランドスケープデザインに関する事項を総括する	これまでの学習内容、ノートを復習しておく 講義の紹介事例・都市を検索し、関心を広げる	2 2
第14回	経年醸成価値とランドスケープデザイン（第6部 総論・造景をめざして その4） 建築・工作物・生業場など、時間とともに価値の深まる地域らしい景観デザインの実際について考える	これまでの学習内容、ノートを復習しておく 講義に対するレポートを書き、関心や疑問を深める	2 2

32	住まいの文化史	LS-C-209	選択 2単位 2年後期
	History and Culture of Dwelling Houses		
授業形態		該当科目	SDGsの取り組み
○	単独(1人が全回担当)	○ 教職科目 (工業)	
	複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)	教職科目 (情報)	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	教職科目 (商業)	
	クラス分け(クラス分けて担当する)	○ 地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
2年全組 大沼 正寛			
授業の達成目標			
居住空間を中心とした空間造形及び空間概念の変容について、そのバックグラウンドとともに理解できること。居住空間に関わる諸現象・諸概念を基礎的専門用語を用いて記述できること。			
授業の概要			
日本における住まいの変遷を、遠く古代の竪穴住居に始まり、中世の寝殿造や都市計画、近世の武士住宅や木割、数寄屋、そして民家や街並みについて概説する。人間生活の重要な要素として長い歴史をもつ住空間の歴史的な足取りについて、現存するものは遺構をもとに、現存しないものは資料をもとにしてたどる。そして、住まいの作り手や材料についても学ぶ。また、近代・現代における住まいや住環境の変化について、身近な事例を紹介し、これからの住環境がより豊かになるためのヒントを示す。世界の住まいに関しては、アジアを中心とし、様々な環境に住まう事とそのための空間づくりとの関連性を、気候・風土・習慣・材料などを通して学ぶ。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
コンパクト版 建築史 日本・西洋 「建築史」編集委員会 彰国社 2009			
参考書等			
図説・近代日本住宅史 内田青蔵 他 鹿島出版会 2008			
成績評価方法・基準			
講義の中で行うレポートや小テストと、期末考査等を総合的に評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
講義の中で行うレポートや小テストについて、講義中に解説やディスカッションを行う。			
備考			

32	住まいの文化史	LS-C-209	選択 2単位 2年後期
	History and Culture of Dwelling Houses		
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	第1編 日本の住まいの通史(1) 概説及び縄文・弥生時代 日本の住まいの歴史を体系的に学び、古代について知る。	教科書の日本建築史・古代を通読する。 自宅について調べる。	2 2
第2回	第1編 日本の住まいの通史(2) 奈良・平安時代の都市計画と住まい	教科書の日本建築史・中世を通読する。 講義での絵図を読み込む。	2 2
第3回	第1編 日本の住まいの通史(3) 寝殿造と庶民の住まい	中世と現代の住まい方の違いを列記する。 講義での絵図を読み込む。	2 2
第4回	第1編 日本の住まいの通史(4) 武士の住宅、木割、作り手	教科書の日本建築史・近世を通読する。 講義に通じる身近な事例を検索する。	2 2
第5回	第1編 日本の住まいの通史(5) 数寄屋 数寄屋の多様な事例を紹介し、定義を考える。	身近な数寄屋の事例を探す。 自分が考える数寄屋をまとめる。	2 2
第6回	第1編 日本の住まいの通史(6) 民家と町並み 日本各地の民家や町並みの事例を紹介し、形態を概説する	出身地の民家について検索する。 予習で取り上げた民家についてまとめる。	2 2
第7回	第1編 日本の住まいの通史(7) 江戸の都市、仙台の都市	出身地の江戸期の都市について検索する。 予習で取り上げた都市の特徴をまとめる。	2 2
第8回	第1編 日本の住まいの通史(8) 近代・現代 近現代の住まいについて概説する。	身近な古建築の住まいについて検索する。 取り上げた古建築のまとめを行う。	2 2
第9回	第1編 日本の住まいの通史(9) 見学とまとめ 茂ヶ崎庵の見学会を行う。現場にて日本の住まいの通史の	茂ヶ崎庵の見どころを検索する。 茂ヶ崎庵についてまとめる。	2 2
第10回	第2編 世界の住まい(1) アジア地域の住まい(1) アジア諸国の住まいについて概説する。	興味のある国の住まいについて検索する。 予習で検索した住まいのまとめを行う。	2 2
第11回	第2編 世界の住まい(2) アジア地域の住まい(2) 伝統的建築デザインを踏襲する国の住まいのデザインについて	伝統的なデザインとは何かを考える。 日本の伝統的なデザインとは何かを考える。	2 2
第12回	第2編 世界の住まい(3) ヨーロッパ・アメリカの住まい	興味のある国の住まいについて検索する。 予習で検索した住まいのまとめを行う。	2 2
第13回	第3編 文化としての住まい(1) 文化を継承するために何が 必要か	自宅の変遷について知る。 身近な継承したい建物を見つける。	2 2
第14回	第3編 文化としての住まい(2) 具体的事例に学ぶ 建物を長期的に継承するための具体的な方法を紹介する。	見つけた建物の特徴をみつける。 講義全体を再考する。	2 2

33	住まいの環境工学	LS-C-302	選択 2単位 2年後期
	Engineering of Energy Saving House		
授業形態		該当科目	SDGsの取り組み
○ 単独(1人が全回担当)	○ 教職科目(工業)		
複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)	教職科目(情報)		
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	教職科目(商業)		
クラス分け(クラス分けて担当する)	地域志向科目		
	実務経験のある教員担当		
	アクティブラーニング		
	メディア授業		
クラス・担当教員			
2年全組 高木 理恵			
授業の達成目標			
音、光、色彩の物理量としての表し方とその意味、それらの物理量と人間の感覚量との関係、音環境と光環境のデザインに必要な計算方法(残響計算、照明計算など)について理解する。また、身の周りの空気のきれいな住まい、静かな住まい、明るい住まいを実現するための手法、住まいの色彩計画などを考察する。			
授業の概要			
住まいは過酷な自然環境の中につくられる一種のシェルターと捉えることができ、生活空間に適切な物理的環境をデザインするための学問が「建築環境工学」である。本講では、自然環境の物理的環境要素である空気、音、光をどのように利用または制御して快適で健康的な住まいの環境を作り出すのかを取り上げる。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
教員が作成したプリントを配布する。			
参考書等			
田中俊六ほか：最新建築環境工学 井上書院 乾正男：建築の色彩設計 鹿島出版会			
成績評価方法・基準			
課題レポートの提出と試験で総合的に判断する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
レポートについては、次回授業時に全体に対しフィードバックを行う。			
備考			

33	住まいの環境工学	LS-C-302	選択 2単位 2年後期
	Engineering of Energy Saving House		
授業計画(各回の学習内容等)			
	学習内容(授業方法)	学習課題(上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	空気のきれいな住まい(1) 室内空気汚染とシックハウス	自分の身の周りの空気環境問題について調べる。 授業で配付された資料を再読し、室内空気汚染物質とシックハウス問題についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	2 2
第2回	空気のきれいな住まい(2) 換気計画の重要性	換気の意義について調べる。 授業で配付された資料を再読し、換気の種類と方式についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	2 2
第3回	明るい住まい(1) 光と視環境	自分の身の周りの光環境問題について調べる。 授業で配付された資料を再読し、光の性質、物理量としての表し方とその意味、その物理量と人間の感覚量についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	2 2
第4回	明るい住まい(2) 昼光光源と採光	太陽による昼間の明るさの表し方について調べる。 授業で配付された資料を再読し、昼光率と採光率の計算法についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	2 2
第5回	明るい住まい(3) 人工光源と照明	人工光源の種類と用途について調べる。 授業で配付された資料を再読し、人工光源を用いた照明設計法についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	2 2
第6回	明るい住まい(4) グレアとその防止	快適な光環境について考える。 授業で配付された資料を再読し、グレアとその防止策についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	2 2
第7回	明るい住まい(5) 光環境のデザイン	光環境のデザインについて考える。 授業で配付された資料を再読し、明るい住まいを実現する手法についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	2 2
第8回	住まいの色彩計画	自分の身の周りの色彩の問題について調べる。 授業で配付された資料を再読し、色彩の心理的な効果とデザインについておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	2 2
第9回	静かな住まい(1) 音と聴覚	自分の身の周りの音環境問題について調べる。 授業で配付された資料を再読し、音の性質についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	2 2
第10回	静かな住まい(2) 音の三要素とその表し方	音の三要素について調べる。 授業で配付された資料を再読し、音の物理量としての表し方とその意味、その物理量と人間の感覚量との関係についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	2 2
第11回	静かな住まい(3) 室内音響	室内で正しい音情報を得るための方法について調べる。 授業で配付された資料を再読し、室内音響における残響の重要性と残響計算法についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	2 2
第12回	静かな住まい(4) 騒音の評価	住まいにおける騒音問題について調べる。 授業で配付された資料を再読し、騒音の評価と防止策についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	2 2
第13回	静かな住まい(5) 音環境のデザイン	音環境のデザインについて考える。 授業で配付された資料を再読し、静かな住まいを実現する手法についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	2 2
第14回	まとめと試験	全ての授業内容を整理する。 試験問題をおさらいする。	2 2

34 心理・行動と社会調査		LS-B-305	選択 2単位 3 年前期
Social Research with Psychology and Behavioristics			
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
○ 単独(1人が全回担当)		教職科目 (工業)	 
複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目 (商業)	
クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
3 年全組 中井 周作			
授業の達成目標			
思考力の学習について具体的方法の理解と実習を通して身につけること。社会心理学の知識を学ぶこと。また社会問題の解決に対する調査方法と社会心理学の知見の適用・応用方法を身につけること。社会問題の捉え方を学ぶ。			
授業の概要			
知情意の発達過程を概説し、とくに思考力の発達を実習を通して理解を深める。また心の発達については幼児期から青年期まで発達課題の観点から解説する。個人の発達の観点から心理学を学ぶとともに集団の心理(社会心理学)の知見を解説する。最後に社会に潜在している問題を調査より明らかにし、社会心理学を用いたアプローチよりその問題の解決策を探り、より安全で安心で快適な生活を営める社会のあり方を追求します。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
自作資料。			
参考書等			
成績評価方法・基準			
期末テスト 40%、中間テスト 40%、授業レポート 20%、評価合計 60 点以上で合格とする。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
レポートについては、次回授業時に全体に対しフィードバックを行う。			
備考			

34 心理・行動と社会調査		LS-B-305	選択 2単位 3 年前期
Social Research with Psychology and Behavioristics			
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第 1 回	序章	心の理解とケアの講義ノートをもとに予習を行う。「心の理解とケア」で学んだ心理学の理論や検査を振り返る。講義ノートを作成し復習をする。	2
第 2 回	心の発達	発達心理学について予習を行う。発達心理学の概要を学ぶ。 心の発達について講義ノートを作成し復習をする。	2
第 3 回	幼児期における人格形成	幼児期について予習する。幼児期の課題と自分の生活を当てはめて考える。 幼児期における人格形成について講義ノートを作成し復習をする。	2
第 4 回	児童期における人格形成	児童期について予習する。児童期の課題と自分の生活を当てはめて考える。 児童期における人格形成について講義ノートを作成し復習をする。	2
第 5 回	青年期における人格形成	青年期について予習する。青年期の課題と自分の生活を当てはめて考える。 青年期における人格形成について講義ノートを作成し復習をする。	2
第 6 回	学習理論と行動療法	学習理論と行動療法について予習を行う。学習理論、行動療法について学ぶ。 学習理論と行動療法について講義ノートを作成し復習をする。	2
第 7 回	社会心理学の概要	社会心理学について予習を行う。社会心理学の知識を学ぶ。 社会心理学の概要について講義ノートを作成し復習をする。	2
第 8 回	集団の心理	集団の心理について予習を行う。集団の心理の知識を学ぶ。 集団の心理について講義ノートを作成し復習をする。	2
第 9 回	社会問題 (社会的ジレンマ)	社会的ジレンマについて予習を行う。社会問題の構造を学ぶ。 社会問題 (社会的ジレンマ) について講義ノートを作成し復習を行う。	2
第 10 回	社会調査方法の概要	社会調査について予習を行う。社会調査の概要を学ぶ。 社会調査方法の概要について講義ノートを作成し復習を行う。	2
第 11 回	アンケート調査の概要	アンケートについて予習を行う。アンケート調査方法の概要を学ぶ。 アンケート調査の概要について講義ノートを作成し復習を行う。	2
第 12 回	ヒアリング調査・フィールド調査	ヒアリング調査・フィールド調査について予習を行う。ヒアリング調査・フィールド調査方法の概要を学ぶ。 ヒアリング調査・フィールド調査について講義ノートを作成し復習を行う。	2
第 13 回	調査事例の紹介 (アンケート調査)	調査事例 (アンケート調査) を探し予習を行う。調査事例を学ぶ。 調査事例の紹介 (アンケート調査) について講義ノートを作成し復習を行う。	2
第 14 回	理解のまとめ	講義ノートを用いて予習を行う。 これまで学んだ知識を講義ノートを通して総復習し、理解を深める。	2

35	復旧復興まちづくり	LS-B-303	選択 2単位 3年前期
	Disaster Recovey and Reconstruction		
授業形態		該当科目	SDGsの取り組み
○	単独(1人が全回担当)	○ 教職科目 (工業)	
	複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)	教職科目 (情報)	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	教職科目 (商業)	
	クラス分け(クラス分けて担当する)	地域志向科目	
		○ 実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
3年全組 畠山 雄豪			
授業の達成目標			
災害からの復旧、復興過程で発生すること、留意すべきことを理解し、復旧活動や復興活動に寄与できる知識を得て、災害発生時に地域のまちづくりにおいて実践できる意欲や行動力を身につけることを目標とする。			
授業の概要			
災害からの復旧、復興過程について何が起きるのか、どのようなことに考慮する必要があるのかまちづくりの視点から理解する。近年発生した災害からの復旧、復興に関わるまちづくりの事例についていくつか取り上げることを予定している。特に東日本大震災については、集落移転など現在課題となっている事象を取り上げ、宮城県内で学ぶ大学生として知識を高めるとともに、被災地で自ら貢献できることを考えていく。			
実務経験を活かした教育について			
担当教員は、これまで自治体において防災面を含めた地域社会の課題活動の調査研究に従事していた経験があり、その実績と経験を授業に還元して対応力の養成を図る。			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
必要に応じて授業等で紹介予定。			
参考書等			
成績評価方法・基準			
原則として定期試験により評価する。なお補足的にレポート、ノート提出などを課す場合もある。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
レポートについては、次回授業時に全体に対しフィードバックを行う。			
備考			

35	復旧復興まちづくり	LS-B-303	選択 2単位 3年前期
	Disaster Recovey and Reconstruction		
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	復旧と復興の違い	復旧と復興の違いについて各自の考えをまとめておくこと。 講義終了後は作成したノートを読み返しておくこと。	2 2
第2回	災害復旧事業： 比較的短期間で実施される災害復旧事業の効果と課題に	事前に提示されたキーワードについて調べること 授業で作成したノートを読み返すこと	2 2
第3回	復興感について： 過去の災害事例から人々はどのような事象で復興を認識	事前に提示されたキーワードについて調べること 授業で作成したノートを読み返すこと	2 2
第4回	住宅再建について： 災害からのさまざまな住宅再建の方法について	事前に提示されたキーワードについて調べること 授業で作成したノートを読み返すこと	2 2
第5回	住宅の自力再建について： 自力による住宅再建について	事前に提示されたキーワードについて調べること 授業で作成したノートを読み返すこと	2 2
第6回	基盤整備がともなう住宅再建： 防災集団移転促進事業、小規模住宅地区改良事業など	事前に提示されたキーワードについて調べること 授業で作成したノートを読み返すこと	2 2
第7回	災害公営住宅について： 阪神・淡路大震災、新潟中越地震、東日本大震災などの	事前に提示されたキーワードについて調べること 授業で作成したノートを読み返すこと	2 2
第8回	復興まちづくり(地域としての取り組み)： 地域としての復興へのとりくみ、まちづくり協議会など	事前に提示されたキーワードについて調べること 授業で作成したノートを読み返すこと	2 2
第9回	復興まちづくり(復興人材について)： 地域復興支援員など復興に関わる人材、しくみについて	事前に提示されたキーワードについて調べること 授業で作成したノートを読み返すこと	2 2
第10回	復興基金等財政的支援のしくみ： 復興基金など災害復興のための財政支援制度について	事前に提示されたキーワードについて調べること 授業で作成したノートを読み返すこと	2 2
第11回	復興と地域経済： 過去の事例から地域経済の取り組みについて	事前に提示されたキーワードについて調べること 授業で作成したノートを読み返すこと	2 2
第12回	学生等若者による復興支援・活動について： 学生として復興過程でどのような支援、活動ができるの	事前に提示されたキーワードについて調べること 授業で作成したノートを読み返すこと	2 2
第13回	災害経験の伝承等・事前復興について： 語り部、災害遺構など災害の経験や教訓の発信、伝承に	事前に提示されたキーワードについて調べること 授業で作成したノートを読み返すこと	2 2
第14回	災害復興に関する総括： 一連の復旧や復興に関する概念、事例について振り返る	これまで作成した講義ノートを読み返しておくこと 災害復旧・復興の流れと意味について自身の言葉で説明できるようしておくこと	2 2

36	ユニバーサルデザイン	LS-A-203	必修 2単位 2年後期
	Universal Design		
授業形態		該当科目	SDGsの取り組み
○ 単独(1人が全回担当)		○ 教職科目 (工業)	
複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目 (商業)	
クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目	
		○ 実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
2年全組 谷本 裕香子			
授業の達成目標			
<ul style="list-style-type: none"> ユニバーサルデザインの考え方を理解し、説明できる 製造物責任法について理解する ユニバーサルデザインにおける人的環境の重要性を知る ものやまち、建築物をユニバーサルデザインの視点から評価できる 			
授業の概要			
現代社会では、障害者や高齢者を含めて誰もが安全で快適に利用できる生活環境について考える必要がある。ユニバーサルデザインは、日常生活用具、住居から公共交通機関等、あらゆる場面において障害の有無や年齢にかかわらず誰もが利用しやすい環境を創出することを基本としている。本科目では、障害者や高齢者、そして健常者の特性を理解し、ユニバーサルデザインやバリアフリーの理念を実現するために必要な基礎知識と技術を実践的に学ぶ。			
実務経験を活かした教育について			
担当者の実務経験を活かし、具体的な事例を紹介しながら講義を行う。			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
講義の時間に毎回プリントを配付する。			
参考書等			
高橋儀平「福祉のまちづくり その思想と展開」, 彰国社, 2019.7 川内美彦「ユニバーサルデザインの仕組みをつくる一歩一歩」, 学芸出版社, 2007.8 田中直人「建築・都市のユニバーサルデザイン」, 彰国社, 2012.11 ジュリア・カセム, 平井康之他「インクルーシブデザイン 社会の課題を解決する参加型デザイン」, 学芸出版社, 2014.4			
成績評価方法・基準			
授業内での小レポート(40%)および、中間・最終回のグループワーク等(60%)により総合的に判断し、評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
レポート・グループワークについては、原則、翌週の授業時にフィードバックを行う。			
備考			

36	ユニバーサルデザイン	LS-A-203	必修 2単位 2年後期
	Universal Design		
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	ガイダンス/ユニバーサルデザインの概説	ユニバーサルデザインについて調べる	1
第2回	製造物責任法とユニバーサルデザイン: 製品による事故防止のための消費者のあり方	「PL検定」の予習をする 製品による事故防止のための消費者の対応について復習する	1
第3回	製品とユニバーサルデザイン(1): 日用品のデザイン	製品のユニバーサルデザインを予習する 身の回りの製品を観察する	1
第4回	製品とユニバーサルデザイン(2): 諸外国の取り組み	諸外国のユニバーサルデザインについて調べてくる 興味を持った国のユニバーサルデザインを調べる	1
第5回	人的環境とユニバーサルデザイン(1): インクルーシブデザインと当事者参加	インクルーシブデザインについて調べる 当事者参加の意味について復習する	1
第6回	人的環境とユニバーサルデザイン(2): インクルーシブ教育と合理的配慮	インクルーシブ教育について調べる 合理的配慮について復習する	1
第7回	前半のまとめ	前半に学んだ内容の振り返りをする ユニバーサルデザイン・インクルーシブデザインについて整理する	1
第8回	建築物のユニバーサルデザイン(1): 私的空間のデザイン	私的空間のユニバーサルデザインを予習する 身の回りの私的空間を観察する	1
第9回	建築物のユニバーサルデザイン(2): 公共空間のデザイン	公共空間のユニバーサルデザインを予習する 身の回りの公共空間を観察する	1
第10回	まちのユニバーサルデザイン(1): 歩行空間のデザイン	通学経路におけるユニバーサルデザインを観察する 道路、公園のユニバーサルデザインを復習する	1
第11回	まちのユニバーサルデザイン(2): 交通システムのデザイン	交通システムにおけるユニバーサルデザインを観察する 公共交通機関のユニバーサルデザインを復習する	1
第12回	まちのユニバーサルデザイン(3): サイン、カラーのデザイン	サイン・カラーにおけるユニバーサルデザインを観察する サイン・カラーのユニバーサルデザインの事例を調べる	1
第13回	ユニバーサルデザインの評価	これまでの講義内容を確認する ユニバーサルデザインの評価の視点を復習する	1
第14回	まとめとレポート作成	プレゼンテーションにおけるアイデアの伝え方を予習する プレゼンテーション手法を復習する	1

37 都市計画 City and Regional Planning		LS-C-304	選択 2単位 3 年前期
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
<input type="radio"/> 単独(1人が全回担当)		教職科目 (工業)	
<input type="radio"/> 複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
<input type="radio"/> オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目 (商業)	
<input type="radio"/> クラス分け(クラス分けて担当する)		<input type="radio"/> 地域志向科目	
		<input type="radio"/> 実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
3 年全組 田川 浩司			
授業の達成目標			
人々のくらしを包み込む様々な地域と、より高密度に集合・運動する都市。都市の複雑な事象を把握するには、世界から日本まで、その風土・産業・制度、まちづくり、コミュニティ論に至る広範な知識を必要とする。本講義では、現代の都市計画とその制度を概説しつつ、身近な地方都市・仙台のまちづくり事例を採りあげ、そのかたちとしくみを説明できるようになることを目標とする。			
授業の概要			
序論 2 回、各論 1 0 回、都市計画へのアプローチ (方法論) 2 回及び総集編で構成する。2 回の序論では都市計画の基礎概念、歴史的経緯、代表的思潮を学び、都市計画学の全体像を把握することを目的とする。続く各論では、都市計画を構成する各分野について基礎的内容を学び、これらが身近な街の有り様とどのように影響を与えているか、そして直面している現代的課題について考察を深める。都市計画へのアプローチ (方法論) では、個別分野に通底する都市計画の実践として参加と協働のまちづくりの進め方、そして近年の特徴的な動きである「点」のデザインとマネジメントから都市を変えていこうという試みについて触れる。			
実務経験を活かした教育について			
本授業は、都市・まちづくりコンサルタントの実務経験のある教員による講義として、実例を挙げて解説することがある。			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
テキストは自作のもので対応する。			
参考書等			
参考書はガイダンスで情報提供する。			
成績評価方法・基準			
筆記試験、レポート等を総合的に評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
レポートについては、次回授業時に全体に対しフィードバックを行う。 試験については、問題の趣旨や解答例などを動画で解説し共有する。			
備考			

37 都市計画 City and Regional Planning		LS-C-304	選択 2単位 3 年前期
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第 1 回	都市計画を学ぶ 序論 (1) 都市計画学分野の広がりを理解し、自らのま	何を学ぶか目的意識を持つ 自らの関心と都市計画との接点を考える	2 2
第 2 回	都市計画の理論・思想 序論 (2) 都市のとらえ方、近代以前と近代都市計画の	都市とは何か関連講義資料を通読する 近代都市計画の主な思潮を復習する	2 2
第 3 回	都市の構成と土地利用計画 各論 (1) 日本/仙台の市街地の構成、土地利用計画の	仙台市の人口構成、地図を予習しておく 土地利用計画について復習する	2 2
第 4 回	建築物のコントロール 各論 (2) 市街地の建物のコントロール方法や制度を学	容積率等、基礎用語を予習する 身近な街での建築物のコントロール手法を観察する	2 2
第 5 回	地区スケールの計画・ルール 各論 (3) 都市と建物の中にある「地区」の計画やル	建築協定、地区計画等を予習する 地区スケールの計画の生かされ方を観察する	2 2
第 6 回	都市の再生と交通システム 各論 (4) 交通計画と交通需要、まちづくりとの連関を	仙台市の道路鉄道計画を考察する 身近な街において交通システムがどう生かされているか観察する	2 2
第 7 回	都市と自然 各論 (5) 都市緑地の機能、計画史、パークマネジメン	好きな緑地景観とその理由を考えておく 都市緑地の存在価値や利用価値について復習する	2 2
第 8 回	市街地開発事業と都市再生 各論 (6) 土地区画整理事業、市街地再開発事業、最近	印象に残る都市開発事業を調べておく 身近な都市開発事業例を観察する	2 2
第 9 回	都市防災 各論 (7) 都市災害と現行の制度について学ぶ。	都市災害についての時事を調べておく 身近な防災・減災への都市計画的対応を観察する	2 2
第 10 回	都市防災 (東日本大震災からの復興まちづくり) 各論 (8) 東日本大震災の被害と、復興まちづくりの考	復興過程への疑問を考えておく 復興まちづくりの考え方が身近な街へどう生かされているか観察する	2 2
第 11 回	都市の景観まちづくり 各論 (9) 都市景観の構成要素、景観まちづくりと法制	好きな都市景観とその理由を考えておく 身近な街の景観を観察する	2 2
第 12 回	都市空間のデザインとマネジメント 各論 (10) 都市の魅力を形づくる空間のデザイン、アク	身近にある都市の面白い動きを見つける 現代の生活ニースの視点から身近な都市空間がどのように更新されると良いか考察する	2 2
第 13 回	参加・協働のまちづくり1 都市計画へのアプローチ (1) 行政、市民、民間の協力・	協働事例について調べておく 参加・協働の広げ方を考察する	2 2
第 14 回	参加・協働のまちづくり2 都市計画へのアプローチ (2) 仙台・東北における協働のま	自身の出身都市におけるまちづくりの事例を調べておく 自身の課題認識から、課題解決に向けたまちづくりのアイデアを考察する	2 2

38	住まいの設備計画	LS-C-305	選択 2単位 3 年前期
	House Equipment Design		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
○	単独(1人が全回担当)	教職科目 (工業)	
	複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)	教職科目 (情報)	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	教職科目 (商業)	
	クラス分け(クラス分けて担当する)	地域志向科目	
		○ 実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
3 年全組 栗原 広佑			
授業の達成目標			
空気調和設備、給排水衛生設備の仕組み、設備の省エネルギー計画の必要性を理解し、住まいの設計を行う際に各設備の位置づけを考察できるようになる。			
授業の概要			
「住環境の基礎科学」「住まいの環境工学」で学んだ生活空間の環境デザインと関連づけながら、快適で健康的な住まいの環境を作り出すために必要な空気調和設備、日々の生活に必要な給排水衛生設備について基礎事項を学び、設備の省エネルギー計画の必要性に対する理解を深める。 授業では、実務経験のある外部講師を招き、より実践的な授業構成とする。			
実務経験を活かした教育について			
本科目では、一級建築士ら、実務経験のある外部講師を招き、より実践的な授業構成とする。			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
教員が作成したプリントを配布			
参考書等			
大塚雅之：建築設備(第四版)，市ヶ谷出版社，2020			
成績評価方法・基準			
定期試験及びレポートの内容から判断する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
講義内で適宜小テストを実施し、その結果をフィードバックする。			
備考			

38	住まいの設備計画	LS-C-305	選択 2単位 3 年前期
	House Equipment Design		
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	住まいの設備の概要	予習として、自宅の建築設備について調べる。	2
第2回	空気調和設備(1)伝熱の計算 伝熱の3態について解説を行った上で、熱貫流の概念と	復習として、授業で配付された資料を再読し、講義の目的と設備計画の意義について復習する。 伝熱の3態について復習をする。	2
第3回	空気調和設備(2)湿気(潜熱)の計算 湿り空気と湿度に関する解説を行い、住宅内での結露発	熱貫流率の計算法を復習する。	2
第4回	空気調和設備(3)必要換気量の計算 換気設備の解説を行い、必要換気量の計算法を学習する	湿り空気線図について復習をする。 壁体表面温度の計算法を復習する。	2
第5回	空気調和設備(4)換気設備と各種換気方式 換気設備の種類について解説を行うとともに、各種換気方	室内空気汚染の原因となる汚染物質について復習する。 必要換気量及び必要有効換気量の計算法を復習する。	2
第6回	空気調和設備(5)熱負荷計算1 空調負荷に関する解説を行い、夏季・冬季それぞれの空調負	換気時の室内空気圧力について復習する。 住宅を中心とした各種換気方式について考察する。	2
第7回	空気調和設備(6)熱負荷計算2 空調負荷に応じた各種空調和方式について解説を行うと	冷暖房負荷の概念について復習する。 夏季・冬季それぞれの顕熱負荷と潜熱負荷について復習する。	2
第8回	空気調和設備(7)熱負荷計算3 空気調和設備の総括を行うとともに、都市・地域環境(小気	空調方式について復習する。 空調設備の成績係数の計算法を復習する。	2
第9回	給排水衛生設備(1)給水設備 給排水衛生設備の概要を解説し、給水設備の設計に関連す	ヒートポンプの仕組みについて復習する。 ヒートアイランド現象を中心とした都市気候に関して復習する。	2
第10回	給排水衛生設備(2)排水通気設備 排水の種類と排水方式について解説し、排水通気設備の設	給水方式について予習する。 上水の汚染防止対策について復習する。	2
第11回	建築環境シミュレーション1 戸建住宅を題材とし、コンピューター上で住宅の断熱性	排水方式について予習する。 排水通気設備の適切な設計と衛生環境について考察する。	2
第12回	建築環境シミュレーション2 戸建住宅を題材とし、コンピューター上で熱負荷シミュ	熱貫流率と必要換気量の計算法を復習する。 UA値とQ値の計算法を復習する。	2
第13回	建築環境シミュレーション3 異なる断熱性能や遮熱性能の戸建住宅を対象として、熱負荷シミュレーションを通じた年間の一次エネルギー消費量の比較検討を行う。	空調負荷について復習する。 熱負荷シミュレーションの計算プロセスを復習する。))	2
第14回	まとめ	一次エネルギー消費量について復習する。 住宅の断熱・遮熱性能に関して考察を深める。	2
		これまでの講義資料を復習する。	2
		これまでの講義で学習した内容と今後の課題についてまとめる。	2

39 住まいの材料実験 I Experiments in Building Materials I		LS-C-210	選択 1単位 3 年前期
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
単独(1人が全回担当)	教職科目 (工業)		
○ 複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)	教職科目 (情報)		
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	教職科目 (商業)		
クラス分け(クラス分けて担当する)	地域志向科目		
	実務経験のある教員担当		
	アクティブラーニング		
	メディア授業		
クラス・担当教員			
3年全組 北辻 政文			
授業の達成目標			
建築物の構造材料として用いられるコンクリート・鋼材の基本的な性質を経験的に理解する。また、各材料の試験方法及びデータのまとめ方を習得する。			
授業の概要			
コンクリート、鋼材を対象として、これらに求められている「構造安全性に係わる性質」について、所定の材料試験を実際に行いながら、経験的に学んでゆく。また、実験で得られたデータをもとにして、外力に対する性状を把握するための様々な項目について、計算演習を行いながら、実践的に学ぶ。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
教科書 日本建築学会編「建築材料実験用教材」参考書 「建築材料」 嶋津孝之他 森北出版			
参考書等			
成績評価方法・基準			
演習やレポートの得点などにより、総合的に評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
レポートについては、次回授業時に全体に対しフィードバックを行う。			
備考			

39 住まいの材料実験 I Experiments in Building Materials I		LS-C-210	選択 1単位 3 年前期
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	プロローグ	これまでに学んだ建築構造材料の特質に関する部分について復習しておく。 講義内容を復習する。	0.5
第2回	コンクリート材料および鉄筋コンクリートの特性	「コンクリート材料および鉄筋コンクリート」について参考書をもとに予習する。 講義内容を復習する。	0.5
第3回	コンクリートの調合設計法	教科書の「調合設計」に関する項を参照しながら予習する。 講義の際に記したデータをまとめながら復習する。	0.5
第4回	鋼材の種類と性質	教科書の「鋼材の種類と性質」に関する項を参照しながら予習する。 講義の際に記したデータをまとめながら復習する。	0.5
第5回	鋼材の引張試験① (測定)	教科書の「鋼材の引張試験」に関する項を参照しながら予習する。 講義の際に記したデータをまとめながら復習する。	0.5
第6回	鋼材の引張試験② (測定・計算)	教科書の「鋼材の引張試験」に関する項を参照しながら予習する。 講義の際に記したデータをまとめながら復習する。	0.5
第7回	コンクリートの練り混ぜおよび打設	教科書の「練り混ぜと打設」に関する項を参照しながら予習する。 講義の際に記したデータをまとめながら復習する。	0.5
第8回	フレッシュコンクリートの試験および供試体の作製	教科書の「フレッシュコンクリート」に関する項を参照しながら予習する。 講義の際に記したデータをまとめながら復習する。	0.5
第9回	コンクリートの1週強度試験	教科書の「1週強度試験」に関する項を参照しながら予習する。 講義の際に記したデータをまとめながら復習する。	0.5
第10回	コンクリートの強度とW/C および養生	教科書の「W/C および養生」に関する項を参照しながら予習する。 講義の際に記したデータをまとめながら復習する。	0.5
第11回	コンクリートの4週強度試験 (圧縮強度・引張強度)	教科書の「4週強度試験」に関する項を参照しながら予習する。 講義の際に記したデータをまとめながら復習する。	0.5
第12回	コンクリートの4週強度試験 (静性係数の測定)	教科書の「弾性係数の測定」に関する項を参照しながら予習する。 講義の際に記したデータをまとめながら復習する。	0.5
第13回	鉄筋コンクリートの特徴	鉄筋コンクリートがなぜ万能な材料構法とされているか、参考書をもとに予習する。 講義データをまとめながら復習する。	0.5
第14回	材料実験 I のまとめ	これまでの内容をレビューしながらまとめの予習をする。 これまでの内容をレビューしながら総復習をする。	0.5

40	建築デザイン演習	LS-E-408	選択 2単位 3年前期
Practice of Architectural Design			
授業形態		該当科目	SDGsの取り組み
単独(1人が全回担当)		教職科目(工業)	
複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)		教職科目(情報)	
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目(商業)	
クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目	
		<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員担当	
		<input type="checkbox"/> アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
3年全組 大沼 正寛 亀岡 真彦			
授業の達成目標			
2つの設計課題を通して、身近な空間のスケール感を養うとともに、設計に必要な情報の収集、発想具現化の方法を学ぶ。建物の配置計画、平面計画、立・断面計画、空間に対応する架構方法について適切に判断する方法を学ぶ。敷地環境と建築および地域の関係についても学ぶ。			
授業の概要			
人間生活にとって欠くことのできない居住空間、生産・店舗空間、小規模公共空間などを課題とし、空間構成、集合原理などについて実践的に学ぶ。基本的な設計プロセスである課題分析から、資料収集、構想の具体化、設計図作成、プレゼンテーションまでの一連の作業を体得する。建築構法と内外の空間を連続的に発想できること、それらを設計図面として表現できることを目標とする。			
実務経験を活かした教育について			
担当教員は、建築士としての実績と経験を活かして、企画・設計・デザイン等の建築設計にかかわる実務への対応力を養成する。			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
教科書 「コンパクト・設計資料集」日本建築学会編 丸善 ほか			
参考書等			
成績評価方法・基準			
2つの課題を50%ずつの配分で総合評価し、合計60点以上を合格とする。提出締め切りに遅れた課題は受理しない。2つの課題については、途中のエスキースの進め方、提出課題の完成度、プレゼンテーション技術などにより評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
途中のエスキースの進め方、提出課題の完成度、プレゼンテーション技術などにより評価する。			
備考			

40	建築デザイン演習	LS-E-408	選択 2単位 3年前期
Practice of Architectural Design			
授業計画(各回の学習内容等)			
	学習内容(授業方法)	学習課題(上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	設計課題1 住宅の構法と配置(1) 全体説明と構法分析	前科目の自己作品をもとに構法分析を試行しておく。 指導された内容を復習する。	1 1
第2回	設計課題1 住宅の構法と配置(2) 構法モデルの作成	木構法と矩計図について予習する。 指導された内容を復習する。	1 1
第3回	設計課題1 住宅の構法と配置(3) 伏図の理解	伏図と軸組架構について予習する。 指導された内容を復習する。	1 1
第4回	設計課題1 住宅の構法と配置(4) 矩計図の理解	矩計図について予習する。 指導された内容を復習する。	1 1
第5回	設計課題1 住宅の構法と配置(5) 配置計画の習熟とグループ講評会	集団規定・単体規定・配置・植栽計画について予習し、設計課題1の成果図面をまとめておく。 講評会での反省点を今後活かすため復習する。	1 1
第6回	設計課題2 小規模公共施設(1) 課題解説と事例研究	出題内容に関連する事例を予習しておく。 指導された内容を復習する。	1 1
第7回	設計課題2 小規模公共施設(2) 敷地と環境のサーベイ	現場調査を行い、敷地と環境の特徴を捉えておく。 指導された内容を復習する。	1 1
第8回	設計課題2 小規模公共施設(3) 配置計画とボリュームスタディ	類似事例を予習し、配置計画のエスキースに備える。 指導された内容を復習する。	1 1
第9回	設計課題2 小規模公共施設(4) プランニング	類似事例を予習し、プランニングのエスキースに備える。 指導された内容を復習する。	1 1
第10回	設計課題2 小規模公共施設(5) 断面・立面での検討	類似事例を予習し、断面・立面計画のエスキースに備える。 指導された内容を復習する。	1 1
第11回	設計課題2 小規模公共施設(6) 内部・外部空間と各部詳細設計	類似事例を予習し、内部・外部空間と詳細設計のエスキースに備える。 指導された内容を復習する。	1 1
第12回	設計課題2 小規模公共施設(7) 製図とプレゼンテーション	参考事例を予習し、プレゼンテーションのエスキースに備える。 指導された内容を復習する。	1 1
第13回	設計課題2 小規模公共施設(8) コンセプトと諸元データ	参考事例を予習し、明瞭な図面表現について学んでおく。 指導された内容を復習する。	1 1
第14回	設計課題2 小規模公共施設(9) 講評会	講評会に備え、設計課題2の成果をまとめておく。 指導された内容を復習する。	1 1

41	公衆衛生学	LS-B-306	選択 2単位 3年後期		
	Public Health				
授業形態		該当科目		SDGsの取り組み	
○	単独(1人が全回担当)	教職科目(工業)			
	複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)	教職科目(情報)			
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	教職科目(商業)			
	クラス分け(クラス分けて担当する)	地域志向科目			
		実務経験のある教員担当			
		アクティブラーニング			
		メディア授業			
クラス・担当教員					
3年全組 吉田 裕人					
授業の達成目標					
健康と社会、環境を相互に関連させながら理解できるようになる。具体的には、衣食住、労働環境、家庭、学校、職場、地域、地球全体までの広範囲な「環境」と保健、医療、福祉の「制度とサービス」が相互に関連して成り立っている社会システムが、「健康」とどのような枠組みや組織の中でつながっているのかを理解し、様々な状況変化に対応した評価方法や健康支援が必要な対象者への情報伝達の方法について考えられる基礎的能力を養う。					
授業の概要					
少子・高齢化の進む我が国では、健康をキーワードとした社会のしくみや安全に生活するための環境について、いままで以上に重要視する状況となっている。このような社会情勢の中、人口構造や疾病構造の変化や社会経済システムの変化に伴い、保健医療の内容も生命倫理から健康づくりの方策まで幅広く理解していく必要がある。本講義では、健康の維持と増進を求めて展開される様々な計画や活動の基本となるものの見方や考え方、具体的な方法を基盤として、個々の状況や問題を理解していくための知識を習得する。そのための法律、基準値などその時々々の社会状況により変化する可能性の高い情報や統計数値を外観しながら学習を進めていく。					
実務経験を活かした教育について					
メディア授業の実施形態					
教科書等					
毎回の授業では資料を配付する。					
参考書等					
シンプル衛生公衆衛生学 2019(南江堂) 厚生指標増刊・国民衛生の動向 2018/2019(厚生統計協会)					
成績評価方法・基準					
毎回の授業レポートと最終試験の成績を踏まえて総合的に評価する。					
課題や試験等に対するフィードバック方法					
毎回行う授業の振り返りレポートを次回の授業始まりに解説しフィードバックを行う					
備考					

41	公衆衛生学	LS-B-306	選択 2単位 3年後期
	Public Health		
授業計画(各回の学習内容等)			
	学習内容(授業方法)	学習課題(上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	授業の概要説明	予習として健康の諸問題に対して自身の考えや対策について考えておくこと 配付した資料の内容を復習し、興味を持った点については各自で詳細を調べ整理する。	2
第2回	保健統計、衛生の主要指標	保健統計、衛生の主要指標をキーワードとして情報を収集し予習とする。 配付した資料の内容を復習し、保健統計、衛生の主要指標において興味を持った点については各自で詳細を調べ整理する。	2
第3回	疫学	疫学をキーワードとして情報を収集し予習とする。 配付した資料の内容を復習し、疫学において興味を持った点については各自で詳細を調べ整理する。	2
第4回	疾病予防と健康管理概論	疾病予防と健康管理概論をキーワードとして情報を収集し予習とする。 配付した資料の内容を復習し、疾病予防と健康管理概論において興味を持った点については各自で詳細を調べ整理する。	2
第5回	生活習慣病の予防	生活習慣病の予防をキーワードとして情報を収集し予習とする。 配付した資料の内容を復習し、生活習慣病の予防において興味を持った点については各自で詳細を調べ整理する。	2
第6回	環境保健	環境保健をキーワードとして情報を収集し予習とする。 配付した資料の内容を復習し、環境保健において興味を持った点については各自で詳細を調べ整理する。	2
第7回	地域保健と保健行政	地域保健と保健行政をキーワードとして情報を収集し予習とする。 配付した資料の内容を復習し、地域保健と保健行政において興味を持った点については各自で詳細を調べ整理する。	2
第8回	母子保健	母子保健をキーワードとして情報を収集し予習とする。 配付した資料の内容を復習し、母子保健において興味を持った点については各自で詳細を調べ整理する。	2
第9回	学校保健	学校保健をキーワードとして情報を収集し予習とする。 配付した資料の内容を復習し、学校保健において興味を持った点については各自で詳細を調べ整理する。	2
第10回	労働衛生	労働衛生をキーワードとして情報を収集し予習とする。 配付した資料の内容を復習し、労働衛生において興味を持った点については各自で詳細を調べ整理する。	2
第11回	老人保健・福祉	老人保健・福祉をキーワードとして情報を収集し予習とする。 配付した資料の内容を復習し、老人保健・福祉において興味を持った点については各自で詳細を調べ整理する。	2
第12回	精神保健	精神保健をキーワードとして情報を収集し予習とする。 配付した資料の内容を復習し、精神保健において興味を持った点については各自で詳細を調べ整理する。	2
第13回	保健医療制度と法規	保健医療制度と法規をキーワードとして情報を収集し予習とする。 配付した資料の内容を復習し、保健医療制度と法規において興味を持った点については各自で詳細を調べ整理する。	2
第14回	まとめと試験	これまでに配付した資料の内容すべてを復習し、試験の準備する。 これまでに配付した資料の内容と試験内容について復習をする。	2

42	社会福祉論	LS-A-307	選択 2単位 3年後期
	Social Welfare		
授業形態		該当科目	SDGsの取り組み
単独(1人が全回担当)		教職科目(工業)	
複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)		教職科目(情報)	
○オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目(商業)	
クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目	
		○実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
3年全組 伊藤 美由紀			
授業の達成目標			
日本における社会福祉を理解し、誰もが一住民として地域社会で生活するための課題とその解決の状況や、社会的包摂に向けた現代的意義を学ぶ。また講義全般を通じて、子どもや高齢者、障害や疾病がある生活者なども含めた共生型の地域社会のありかたを考える力を身につける。多様な福祉分野について興味を深め、理解するきっかけとし、将来のそれぞれの学びの意欲につなげられるよう工夫できる。			
授業の概要			
誰もが社会の構成員として、地域で暮らすことは、当然の権利である。しかしながら、歴史的背景や制度の未熟さ、支援体制の不足により、いまだその実現にほど遠いのが、社会の実状である。この現状を変えるには、多様な問題群をまずは認識し、その根本にはいかなる要因があるのかを理解しながら、様々な視点に立って考える力が求められる。本講義では、社会福祉に関して多様な角度から理解を進めると共に、地域社会での暮らし方をテーマごとに論じていく。授業では、実務経験のある外部講師を招き、より実践的な授業構成とする。基礎知識の学習、ゲストスピーカーの講義、振り返りを通し、理解を深め、友人との意見の交換や共有を通して知識の幅を広げる授業とする。担当教員は、福祉団体において長きに渡り障害者の支援・指導に従事した実績と経験を活かし、授業に還元する。			
実務経験を活かした教育について			
担当教員は、社会福祉士として、障害者の支援・指導に従事した実績と経験を活かし、より実践的な授業構成とする。			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
大曾根寛、小澤温(2005)『障害者福祉論』放送大学出版			
参考書等			
成績評価方法・基準			
授業中に実施する小レポートと、まとめの試験で評価する。 非常勤講師の担当回50%、常勤講師の担当するゲストスピーカー回50%とする。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
次回授業時に全体に対して、提出課題に対しての見解やよくある誤り等について、学生が提出した課題を紹介するなどして解説し、フィードバックを行う。			
備考			

42	社会福祉論	LS-A-307	選択 2単位 3年後期
	Social Welfare		
授業計画(各回の学習内容等)			
	学習内容(授業方法)	学習課題(上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	ガイダンス：福祉について	福祉について予習する。シラバスを読んで授業の目的を理解する。	2
第2回	社会保障制度概要と社会福祉制度概要	福祉について復習として、配布資料を読む。 社会保障制度と社会福祉制度を予習する。 社会福祉における制度について学び、配布資料を読み復習する。	2 2
第3回	子どもと福祉	子どもと福祉について予習する。 日本の子どもを取りまく環境を福祉の視点で学び、配布資料を読み復習する。	2 2
第4回	貧困を考える	貧困について予習する。 日本の取り組みについて法の目的と概要を学び、復習する。	2 2
第5回	障がい者と福祉	障がい者差別の具体的な事例を予習する。 差別解消法制定の背景を学び、重要概念である合理的配慮について理解し、復習する。	2 2
第6回	地域共生社会	行政の障害者福祉担当部局の仕事を予習する。 障害者福祉を提供する様々な事業主体やその体系について学ぶとともに、当事者組織の意義と役割について理解し、復習する。	2 2
第7回	ゲストスピーカーの講演：障がい者の福祉	身体、知的、精神の3障害のおおまかな区別を予習する。 障害の特徴と、そのほかの種類障害について学び、復習する。	2 2
第8回	ゲストスピーカーの講演：障がい者の就労	障害者の雇用の実態について予習する。 障害者の雇用の実態について知識を深め、就労へ向けた企業や地域の取り組みについて復習する。	2 2
第9回	ゲストスピーカーの講演：障がい者とスポーツ	障がい者スポーツについて予習する。 障害者の生活におけるスポーツの役割と意義について学び、復習する。	2 2
第10回	ゲストスピーカーの講演：福祉機器	バリアフリーとは何かを簡単に予習する。 新バリアフリー法の概要について学び、移動の自由を保障するバリアフリーの取り組みについて学び復習する。	2 2
第11回	ゲストスピーカーの講演：心の障害と福祉	心の障害について予習する。 心の障害への支援に向けた取り組みについて学び、復習する。	2 2
第12回	ゲストスピーカーの講演：高齢者の福祉	高齢者のくらしの課題について予習する。 支援の内容を理解し、居住を支援する取り組みについて学び、復習する。	2 2
第13回	福祉のまちづくりを考える	地域における福祉的な取り組みについて予習する。 地域社会での福祉的な取り組みの実態について理解し復習する。	2 2
第14回	日本における社会福祉についてまとめ	これまでの講義内容を予習する。 日本における社会福祉の現状と課題をまとめ、今後の社会福祉の姿について考えて、復習する。	2 2

43 公民と自治		LS-A-308	選択 2単位 3年後期
Civics and Community Governance			
授業形態		該当科目	SDGsの取り組み
○ 単独(1人が全回担当)		教職科目 (工業)	
複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目 (商業)	
クラス分け(クラス分けて担当する)		○ 地域志向科目	
		○ 実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
3年全組 田川 浩司			
授業の達成目標			
地方自治という身近な社会・政治システムの意義と目的、機能を理解し、地域社会の一員としてその社会的役割が担える力を身に着けられるようにする。			
授業の概要			
日々の平和で豊かな生産と暮らしを支えるための重要な社会基盤のひとつに民主的な制度によって運営される地方自治制度がある。その制度の原理や具体的運用の実態について知識を深めた上で、これからの地域社会のあり方を考察する。また東日本大震災の復興の取組をはじめ、身近な都市・まちの事例を取り上げ、地方の地域性にも目を向ける授業とする。授業は実務経験のある外部講師を招き、概論・各論・総集編から構成する。			
実務経験を活かした教育について			
仙台における住民主体/官民連携のまちづくりの実務経験と、「市民社会」をテーマにした全国事例の調査研究事業の知見に基づき、身近な都市・まちの事例や、全国の先進的な事例を解説しながら講義を展開する。			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
地方自治の原理原則や運用に関し、文献や自治体のHP等で情報収集に努め講義に臨むこと。テキストは自作のもので対応する。			
参考書等			
参考書はガイダンスで情報提供する。			
成績評価方法・基準			
課題レポートを総合的に評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
レポートについては、次回授業時に全体に対しフィードバックを行う。			
備考			

43 公民と自治		LS-A-308	選択 2単位 3年後期
Civics and Community Governance			
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	ガイダンス：日々の生活と公民・自治について	授業を通じて何を学ぶか目的意識を持つ。	2
第2回	欧米と日本の公民・自治	自らの日々の生活と公民・自治との接点を考える。	2
第3回	中央と地方都市	近年の欧米における公民・自治に関する話題について情報収集を行う。	2
第4回	地方公共団体の役割について	欧米と日本での共通点や相違点について考察する。	2
第5回	地方財政について	自身の暮らしの中で「地方都市ならではの」と感じる事象について整理する。	2
第6回	地方の「衰退」とは何か？	地方における都市のあり方について考察する。	2
第7回	地域コミュニティと自治について1 ー身近な社会課題と自治活動	地方自治体の存立目的について情報収集を行う。	2
第8回	地域コミュニティと自治について2 ー協働による地域コミュニティのアップグレード	地方自治対の役割について整理確認する。	2
第9回	社会における住民・企業・行政・大学	地方自治体の福祉政策と財政制度について情報収集を行う。	2
第10回	これからの市民社会と、その主体について1 ー仙台における市民社会の歩みとこれから	地方財政の意義と実態について整理確認する。	2
第11回	これからの市民社会と、その主体について2 ー複雑化する課題への応答 全国的事例から	自身が地方の「衰退」だと考える事象とその要因について、情報収集や考察を行う。	2
第12回	これからの市民社会と、その主体について3 ー共創プラットフォームをつくらう	地方の「衰退」とその対策の考え方について整理確認する。	2
第13回	東日本大震災復興への取組	身近な社会課題と、課題解決に向けた地域コミュニティのあり方について情報収集を行う。	2
第14回	総集編 これまでの講義の振り返り	地域コミュニティが担う役割について整理確認する。	2
		企業や行政、大学の協働によるプロジェクトについて情報収集を行う。	2
		地域社会における企業や行政、大学の役割と可能性について考察する。	2
		社会課題解決に向けたNPOや企業等による取り組みについて情報収集を行う。	2
		これからの市民社会のあり方や仕組みについて考察する。	2
		社会課題解決に向けたNPOや企業等による取り組みについて情報収集を行う。	2
		これからの市民社会のあり方や仕組みについて考察する。	2
		住民自治を切り口に、震災復興の事例について情報収集を行う。	2
		震災復興の事例から、平時の自治の参考とすべき点について考察する。	2
		講義を通じて自身が関心を持ったテーマについて、情報収集を行う。	2
		地域社会の一員として、社会課題解決に向けた施策を考察する。	2

44	地域産業論	LS-A-309	必修 2単位 3年後期
	Regional Works and Industry		
授業形態		該当科目	SDGsの取り組み
○	単独(1人が全回担当)	○ 教職科目 (工業)	
	複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)	教職科目 (情報)	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	教職科目 (商業)	
	クラス分け(クラス分けて担当する)	○ 地域志向科目	
		○ 実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
3年全組 岸本 誠司			
授業の達成目標			
地域風土にねざしたくらしと、これを支える生産の意味を理解するとともに、有形無形の地域資源を評価することができる。また、その資源を活用した実践的事例についての知識を深め、とくに仙台・宮城・東北における活用展開を構想することができる。			
授業の概要			
現代の地域社会では、地域内外の人々がくらしや生産の場面で協働しながら、豊かなコミュニティを形成することが求められており、とりわけ、少子高齢化・人口減少が課題となっている地域においては、周囲の自然環境までを含めた持続可能性が喫緊の課題となっている。本講義では、国内外における有形無形の地域資源の活用事例を紹介し、主に農山漁村のくらしの実像、その可能性と課題について、基礎知識を養う。事例は、主に仙台・宮城・東北の各地から求め、今後の地域資源活用方法についても考察を深めていく。			
実務経験を活かした教育について			
担当者は民間団体、NPOなどで活動し、若者の起業等にも関わってきたことから、そうした経験をふまえて解説する。			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
毎回の講義において次週以降の講義に関する資料および文献検索等の指示を行う。			
参考書等			
成績評価方法・基準			
講義で行うミニレポートと期末試験等により総合的に評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
レポートについては、授業時に全体に対しフィードバックを行う。			
備考			

44	地域産業論	LS-A-309	必修 2単位 3年後期
	Regional Works and Industry		
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	持続可能な地域社会における生産・生業・産業講義の導入として、生産・生業・産業を複眼的に学ぶ意	くらしと生産とは何かを考察しておく 講義をもとに対象地域を地図等で確認する	2 2
第2回	有形無形の地域資源とその活用実践 くらしと生産を構築するための有形無形の地域資源につ	地域資源として考えられるものを列挙する 講義をもとに地元の有形無形資源を情報整理する	2 2
第3回	山林・中山間地域ー地域資源と活用実践の事例的学習(1) 山林・中山間地域の資源と活用実践について事例的に学習する	山林・中山間地域とは何かを調べておく 講義内容を確認し参考図書山林・中山間地域についてを一読する	2 2
第4回	里山地域ー地域資源と活用実践の事例的学習(2) 里山地域の資源と活用実践について事例的に学習する	里山地域とは何かを調べておく 講義内容を確認し参考図書の里山地域についてを一読する	2 2
第5回	田園地域ー地域資源と活用実践の事例的学習(3) 田園地域の資源と活用実践について事例的に学習する	田園地域とは何かを調べておく 講義内容を確認し参考図書の田園地域についてを一読する	2 2
第6回	漁村地域ー地域資源と活用実践の事例的学習(4) 漁村地域の資源と活用実践について事例的に学習する	漁村地域とは何かを調べておく 講義内容を確認し参考図書の漁村地域についてを一読する	2 2
第7回	中心市街地ー地域資源と活用実践の事例的学習(5) 中心市街地の資源と活用実践について事例的に学習する	中心市街地とは何かを調べておく 講義内容を確認し参考図書の中心市街地についてを一読する	2 2
第8回	歴史的まちなみー地域資源と活用実践の事例的学習(6) 歴史的まちなみの資源と活用実践について事例的に学習する	歴史的まちなみとは何かを調べておく 講義内容を確認し参考図書の歴史的まちなみについてを一読する	2 2
第9回	海外の市街地ー地域資源と活用実践の事例的学習(7) 海外の市街地における資源と活用実践について事例的に学	海外の市街地について関心を広げておく 講義内容を確認し参考図書の海外の市街地についてを一読する	2 2
第10回	海外の農山漁村ー地域資源と活用実践の事例的学習(8) 海外の農山漁村における資源と活用実践について事例的に	海外の農山漁村について関心を広げておく 講義内容を確認し参考図書の海外の農山漁村についてを一読する	2 2
第11回	仙台・宮城・東北ー地域資源と活用実践の事例的学習(9) 仙台・宮城・東北における資源と活用実践について事例的に学習する	仙台・宮城・東北について関心を広げておく 講義内容を確認し参考図書の仙台・宮城・東北についてを一読する	2 2
第12回	地域資源の活用方法 これまでの事例的学習をもとに、地域資源の活用方法に	これまでの学習事例を列挙整理しておく 定性的データの比較法について復習する	2 2
第13回	地域のソフト的価値と「見える化」 これまでの事例的学習をもとに、地域のソフト的価値を	各事例のソフト的データを整理しておく 演習したソフト的データの視覚的表現を改善する	2 2
第14回	地域のハード的価値と「見える化」 これまでの事例的学習をもとに、地域のハード的価値を	各事例のハード的データを整理しておく 演習したハード的データの視覚的表現を改善する	2 2

45 都市と住宅の法制度		LS-C-310	選択 2単位 3年後期
Law Systems for Housing and City Planning			
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
○ 単独(1人が全回担当)		教職科目 (工業)	
複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目 (商業)	
クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目	
		○ 実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
3年全組 佐藤 睦子			
授業の達成目標			
建築関連法規を読んで理解する基本的読解力の養成。建築に関わる主要な法令概要の理解。簡単な具体例に対して一定の判断を下すことのできる能力の養成。			
授業の概要			
建築物の設計において不可欠である法規についての講義である。主に、建築基準法、建築士法を扱うが、関連する諸法についても触れる。自らが構想する建築を具体的に設計するにあたって、必ず守るべき最低限のルールについて理解できることを目指す。講義においては、より深い理解が得られることを目指し、諸法規の成立から変遷過程なども織り込みながら、また具体的な適用事例とも照らし合わせ、社会における実態とも関連づけながら丁寧に解説する。			
実務経験を活かした教育について			
担当教員は、建築設計事務所における設計実務に従事した実績と経験を活かして、授業において実務への対応力を養成する。			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
教科書 1 図説 / やさしい建築法規 学芸出版社 (2020 年版以降のもの) 教科書 2 建築関連法令集 (2020 年版以降のもの) 法改正に対応している最新のものを購入する事。その他 授業中に配付する資料			
参考書等			
成績評価方法・基準			
定期試験、毎回の予復習課題レポートに基づき成績評価する。必要最低限の内容を理解していることを合格基準とする。内容理解の程度、応用力の程度により成績評価する。レポートについては、次回授業時に全体に対しフィードバックを行う。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
毎講義、授業の最後に演習問題を実施している。次回講義で演習問題の解答解説を実施するので、よく復習して理解しておくこと。試験については、原則再試は実施していない。但し、最終成績の受講平均点が75点に届かない場合、特別に実施することがある。			
備考			


45 都市と住宅の法制度		LS-C-310	選択 2単位 3年後期
Law Systems for Housing and City Planning			
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	「建築法規」授業ガイダンスと法令集の使い方	予習・復習とも教科書を基に行うこと。必要な事項を教科書内に書き込み独自のノートを兼ねる。	2
第2回	建築関係法令に関する基本用語/用語に関する演習	予習・復習とも教科書を基に行うこと。必要な事項を教科書内に書き込み独自のノートを兼ねる。 前回の講義内容や予習課題を理解しておく。	2
第3回	建築基準法 一般構造規定1 (敷地、面積、居室の環境等の規定) / 一般構造規定に関する演習	前回の講義内容や予習課題を理解しておく。 予習課題の解説を確認し理解を深める。	2
第4回	同法 一般構造規定2 (各種構造、建築設備等の規定) / 一般構造規定に関する演習	前回の講義内容や予習課題を理解しておく。 予習課題の解説を確認し理解を深める。	2
第5回	同法 集団規定1 (用途地域、道路、建蔽率、容積率等の規定) / 集団規定に関する演習	前回の講義内容や予習課題を理解しておく。 予習課題の解説を確認し理解を深める。	2
第6回	同法 集団規定2 (高さ、日影の規定) / 集団規定に関する演習	前回の講義内容や予習課題を理解しておく。 予習課題の解説を確認し理解を深める。	2
第7回	同法 集団規定3 (防火・準防火地域等の規定) / 集団規定に関する演習	前回の講義内容や予習課題を理解しておく。 予習課題の解説を確認し理解を深める。	2
第8回	同法 防火の規定1 (用語、耐火性能、特殊建築物等の規定) / 防火の規定に関する演習	前回の講義内容や予習課題を理解しておく。 予習課題の解説を確認し理解を深める。	2
第9回	同法 防火の規定2 (法 22 条区域、防火区画、内装制限等の規定) / 防火の規定に関する演習	前回の講義内容や予習課題を理解しておく。 予習課題の解説を確認し理解を深める。	2
第10回	同法 避難の規定1 (用語、避難経路等の規定) / 避難の規定に関する演習	前回の講義内容や予習課題を理解しておく。 予習課題の解説を確認し理解を深める。	2
第11回	同法 避難の規定2 (非常用の避難設備等の規定) / 避難の規定に関する演習	前回の講義内容や予習課題を理解しておく。 予習課題の解説を確認し理解を深める。	2
第12回	同法 構造強度規定 (構造総則、構造規定) / 構造関連規定に関する演習	前回の講義内容や予習課題を理解しておく。 予習課題の解説を確認し理解を深める。	2
第13回	建築士法ほか (建設業法、消防法、都市計画法等の規定)	前回の講義内容や予習課題を理解しておく。 予習課題の解説を確認し理解を深める。	2
第14回	消防法ほか (品確法、バリアフリー法、耐震改修促進法の規定)	前回の講義内容や予習課題を理解しておく。 予習課題の解説を確認し理解を深める。	2

46 地域環境の保全とエネルギー		LS-C-409	選択 2単位 3年後期
Energy and Ecology of Regional Environment			
授業形態		該当科目	
単独(1人が全回担当)	○	教職科目 (工業)	
複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
○ オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目 (商業)	
クラス分け(クラス分けて担当する)	○	地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
3年全組 大場 真			
授業の達成目標			
自然生態系を含む周辺環境と調和した地域づくりをデザインするため、幅広い知識体系を理解することと、それらを通じて地域へ適用する能力の育成を目的とする。講義後半では、自然生態系や地域環境創生に関する特論を構成してより専門性を高める。また、専門性のない第三者にわかりやすく伝達する能力を育成することを主眼にレポート課題を課す。			
授業の概要			
本講義ではなるべく専門性・厳密性を損なわないように配慮しつつ、幅広い分野の環境に関する観測、技術、制度について俯瞰的に解説する。前半では環境を理解するための、環境概念、物質循環、自然・人工生態系、エネルギー、企業における環境問題と環境活動、環境に関わる経済学、動物愛護や生物多様性保全などの倫理学を取り上げる。後半は具体的な地域における生態系・環境創生に焦点を当てて事例紹介を行い、合わせて受講者のプレゼンテーションを行い、議論を深める。			
実務経験を活かした教育について			
主担当は長らく環境研究・行政に関わっており、観念としてではなく、具体的な取り組みとして環境活動を実施してきた。その際にトップダウン的な行政からのアプローチ、ボトムアップ的な地域住民とのコミュニケーションの双方を行い、環境に関する合意形成についても実務として当たってきた。2名の非常勤講師は、それぞれ分野において研究者の立場から地域環境活動を行っており、生の地域課題と取り組みについて題材とすることができる。			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
参考書等			
その都度紹介する。			
成績評価方法・基準			
課題レポートの提出で判断する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
レポートについては、次回授業時に全体に対しフィードバックを行う。			
備考			

46 地域環境の保全とエネルギー		LS-C-409	選択 2単位 3年後期
Energy and Ecology of Regional Environment			
授業計画 (各回の学習内容等)			
学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)	
第1回 「環境の捉え方」 人間の技術・エネルギー開発の歴史などを通じて様々な公害が生じた。そして、何か一つの事柄に集中するだけでなく、周囲を配慮する環境の考え方が徐々に形成された。なぜ、将来の地域社会において環境の考え方が必要なのか、講義の概要を紹介して説明する。	今まで漠然と考えてきたであろう「環境」について、自分なりの考え方をまとめる。 講義全体を通じて、学ぶべきポイントと、得られる視野をチェックし、次回に備える。	2	
第2回 「環境の指標」 環境への負荷、あるいは保全についての配慮、性能を示すラベルや指標が数多くあることを説明し、環境問題の可視化に役立つことを解説する。	エコマークやリサイクルマークなど、何気なく見ている環境に関するラベルに注目する。 環境ラベルを意識的に見だし、個人と社会にどのような効果があるのか考察する。	2	
第3回 「環境と社会経済」 産業革命後の工業化が公害問題を引き起こした歴史を振り返りながら、経済学の視点からの環境問題について解説する。	公害問題について復習する。	2	
第4回 「環境と倫理」 環境問題を端とした先進国での環境・エコロジー運動について概説し、将来社会を考えるための価値基準について論じる。	未だに深刻な問題である公害について、調べ、解決策を探る。	2	
第5回 「環境の歴史」 環境の考え方は古くて新しく、現代的な環境概念はつい最近見つかったと言ってよい。環境の考え方の歴史について解説する。	これまでどのような環境運動があり、環境活動家がいたのか調べる	2	
第6回 「環境と物質循環」 主に炭素に着目した物質循環について解説し、エネルギー問題と密接に関連する気候変動、脱炭素などの話題を論じる。	外的モチベーションの変化だけでは環境問題が解決せず、持続可能な社会へも転換できないことを事例を通じて考える。	2	
第7回 「環境と生物・生態系」 生物学、生態学の基礎的な概念に触れた上で、物質循環に生物が深く関わることを示す。生態系サービス、生物多様性についても簡単に紹介する。	過去に環境問題はあったかを考え、その際に「環境」という概念がそもそもあったかを考える	2	
第8回 「地域生態系特論(1)」 地域生態系について説明する。	ある言葉が存在しないとしたり、それが指す対象を考えることすらできないか、「環境」概念をもとに論理的に考える	2	
第9回 「地域生態系特論(2)」 地域生態系について説明する。	ヒトの身体を始めてとして、様々な生物が炭素から生じているという事と、食物連鎖を通じて循環していることを考える。	2	
第10回 「地域生態系特論(3)」 地域生態系について説明する。	植物が存在しなかった時代は、炭素という物質は生物にとってどのような価値を持っていたのかを考える。	2	
第11回 「地域生態系特論(4)」 地域生態系について説明する。	中学生科や高校基礎生物で学んだ生物の概念を復習する。	2	
第12回 「地域環境創生特論(1)」 地域環境創生について説明する。	生物種における共通な事項と、多様な事項を整理する。	2	
第13回 「地域環境創生特論(2)」 地域環境創生について説明する。	身近な生態系について考える。	2	
第14回 「地域環境デザイン」 環境行政の仕組みを解説しつつ、地域社会がSDGsや再生可能エネルギーを通じて脱炭素に取り組むための、道筋をともに考える。	講義で得た生態系に関する知識を整理する。	2	
	前回の講義で得られた生態系に関する知識と、今回講義の接続を整理する。	2	
	前回の講義で得られた生態系に関する知識と、今回講義の接続を整理する。	2	
	前回の講義で得られた生態系に関する知識と、今回講義の接続を整理する。	2	
	前回の講義で得られた生態系に関する知識と、今回講義の接続を整理する。	2	
	なじみのある具体的な地域における特徴的な環境について考える。	2	
	地域環境という視野、捉え方を身近な地域に適用し、得られた知見を深める。	2	
	なじみのある具体的な地域における、再生可能エネルギー事業など環境への取り組みを調べる。	2	
	講義で得られた地域環境プロジェクトが、身近な地域で取り組まれた場合の、好影響や悪影響などを考察する。	2	
	日々の生活における、SDGsや再生可能エネルギー、ゼロエミッションへの具体的な取り組みについて考える。	2	
	将来、環境問題が解決し、快適な環境が創生され、地域社会が持続可能や社会へと変容されるには、どのような取り組みや意識が必要かを考察する。	2	

47 住まいの材料実験 II Experiments in Building Materials II		LS-C-211	選択 1単位 3年後期
授業形態		該当科目	SDGsの取り組み
単独(1人が全回担当)	教職科目(工業)		
○ 複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)	教職科目(情報)		
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	教職科目(商業)		
クラス分け(クラス分けて担当する)	地域志向科目		
	実務経験のある教員担当		
	アクティブラーニング		
	メディア授業		
クラス・担当教員			
3年全組 北辻 政文			
授業の達成目標			
建築物の構造材料および仕上材料に用いる木材の特質を学ぶ。また、仕上材料として用いられているボード類の基本的な性質を経験的に理解する。さらに、各ボードの試験方法及びデータのまとめ方を習得する。			
授業の概要			
主に住宅の構造材料および仕上材料に用いる木材の特質を学ぶため、曲げ試験などを通してその性状を実験にて確かめる。また、仕上材料として用いられているボード類を対象として、「曲げ強度」、「耐水性」、「難燃性」などの試験を行い、それらのデータのまとめ方や計算演習を通して、各性質のとらえ方や解釈の仕方を経験的に学ぶ。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
教科書 日本建築学会編「建築材料実験用教材」参考書 「建築材料」 嶋津孝之他 森北出版			
参考書等			
成績評価方法・基準			
演習やレポートの得点などにより、総合的に評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
レポートについては、次回授業時に全体に対しフィードバックを行う。			
備考			

47 住まいの材料実験 II Experiments in Building Materials II		LS-C-211	選択 1単位 3年後期
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容(授業方法)	学習課題(上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	プロローグ	これまでに学んだ木材および建築仕上材料の特質に関する部分について復習しておく。 講義内容を復習する。	0.5
第2回	実験の用具と環境	実験に必要な用具について参考書をもとに予習する。 講義の際に記したスケッチなどをまとめながら復習する。	0.5
第3回	木材の曲げ試験①(測定)	教科書の「木材の曲げ試験」に関する項を参照しながら予習する。 講義の際に記した講義ノートをもとめながら復習する。	0.5
第4回	木材の曲げ試験②(測定)	教科書の「木材の曲げ試験」に関する項を参照しながら予習する。 講義の際に記した講義ノートをもとめながら復習する。	0.5
第5回	木材の曲げ試験③(計算)	教科書の「木材の曲げ試験」に関する項を参照しながら予習する。 講義の際に記した講義ノートをもとめながら復習する。	0.5
第6回	木材の曲げ試験④(計算)	教科書の「木材の曲げ試験」に関する項を参照しながら予習する。 講義の際に記した講義ノートをもとめながら復習する。	0.5
第7回	ボード類の曲げ試験①(測定)	教科書の「ボードの曲げ試験」に関する項を参照しながら予習する。 講義の際に記した講義ノートをもとめながら復習する。	0.5
第8回	ボード類の曲げ試験②(測定)	教科書の「ボードの曲げ試験」に関する項を参照しながら予習する。 講義の際に記した講義ノートをもとめながら復習する。	0.5
第9回	ボード類の曲げ試験③(観察)	教科書の「ボードの曲げ試験」に関する項を参照しながら予習する。 講義の際に記した講義ノートをもとめながら復習する。	0.5
第10回	ボード類の曲げ試験④(観察)	教科書の「ボードの曲げ試験」に関する項を参照しながら予習する。 講義の際に記した講義ノートをもとめながら復習する。	0.5
第11回	ボード類の難燃性試験①(測定)	教科書の「ボードの難燃性」に関する項を参照しながら予習する。 講義の際に記した講義ノートをもとめながら復習する。	0.5
第12回	ボード類の難燃性試験②(観察)	教科書の「ボードの難燃性」に関する項を参照しながら予習する。 講義の際に記した講義ノートをもとめながら復習する。	0.5
第13回	ボード類の耐水試験①(測定)(観察)	教科書の「ボードの耐水性」に関する項を参照しながら予習する。 講義の際に記した講義ノートをもとめながら復習する。	0.5
第14回	まとめ	これまでの内容をレビューしながら、まとめのための予習をする。 これまでの内容をレビューしながら総復習をする。	0.5

48 設計CAD演習II		LS-E-410	選択 2単位 3年後期
Architectural Design and CAD Practice II			
授業形態		該当科目	SDGsの取り組み
単独(1人が全回担当)	<input type="radio"/>	教職科目(工業)	
<input type="radio"/> 複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)	<input type="radio"/>	教職科目(情報)	
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	<input type="radio"/>	教職科目(商業)	
クラス分け(クラス分けて担当する)	<input type="radio"/>	地域志向科目	
	<input type="radio"/>	実務経験のある教員担当	
	<input type="radio"/>	アクティブラーニング	
	<input type="radio"/>	メディア授業	
クラス・担当教員			
3年全組 大沼 正寛 渡邊 武海			
授業の達成目標			
地域・都市計画的観点に配慮し、短時間に諸条件を満たした空間設計をまとめ、各種図面を作成することができる。現代および近未来の住宅・建築・地域像を学術的に構想し、独創的で魅力的な空間提案表現をまとめることができる。			
授業の概要			
仙台・宮城・東北の諸課題や地域性を念頭におきながらも、国内外に通じる社会的課題をまじえ、有意義な課題を設定して設計及びプレゼンテーション表現にとりくむ。状況によっては、対外的な発表やデザイン競技にも参画し、能力向上につとめる。			
実務経験を活かした教育について			
当科目は、一級建築士としての建築設計に携わった教員が担当する。すなわち、計画、構法から構成材料まで、設計に関わる実際的な知見・技術を含めながら、創作性の高い提案をまとめることができるよう指導する。			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
増田奏「住まいの解剖図鑑」エクスナレッジ、2009 松下希和「住宅・インテリアの解剖図鑑」エクスナレッジ、2011 日本建築学会編「第2版コンパクト建築設計資料集成 <住居>」丸善、2006			
参考書等			
成績評価方法・基準			
各回の提出作品のポイントを総合的に評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
毎回のエスキースがフィードバックであると同時に、課題毎の講評会が重要なフィードバックとなる。			
備考			

48 設計CAD演習II		LS-E-410	選択 2単位 3年後期
Architectural Design and CAD Practice II			
授業計画(各回の学習内容等)			
	学習内容(授業方法)	学習課題(上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	設計課題1 Creative Facilities (1) ガイダンス・社会・都市・建築	類似事例の調査と作品研究を行い、グループディスカッションに備える エスキースを参考に、設計内容を改善する	1
第2回	設計課題1 Creative Facilities (2) 敷地・環境と配置計画	敷地環境に照らして空間ボリュームスタディ、配置計画の試案を作成する エスキースを参考に、設計内容を改善する	1
第3回	設計課題1 Creative Facilities (3) 平面・断面・立面・外構などの設計	前回のエスキースに照らして平面・断面・立面・外構設計などの試案を作成する エスキースを参考に、設計内容を改善する	1
第4回	設計課題1 Creative Facilities (4) 設計の解像度向上	前回のエスキースに照らして設計の解像度を上げておき、どこに力点を置くかを試案しておく。 エスキースを参考に、設計内容を改善する	1
第5回	設計課題1 Creative Facilities (5) 伝えるプレゼンテーション	前回のエスキースに照らして伝えるプレゼンテーションを試案しておく エスキースを参考に、設計内容を改善する	1
第6回	設計課題1 Creative Facilities (6) 表現技法の探求	前回のエスキースに照らして伝えるプレゼンテーションを試案しておく エスキースを参考に、設計内容を改善する	1
第7回	設計課題1 Creative Facilities (7) 講評会	講評会に資する表現パネル等を作成しておく 講評を参考に、パネルを修正し提出する	1
第8回	設計課題2 Welfare Town (1) ガイダンス・社会・都市・建築	類似事例の調査と作品研究を行い、グループディスカッションに備える 授業をもとに建築企画書の制作を行う	1
第9回	設計課題2 Welfare Town (2) 建築企画書のグループ討議と空間デザイン	自己の企画書を修正し、グループディスカッションに備える 問題解決に資する空間デザイン案を構想する	1
第10回	設計課題2 Welfare Town (3) 空間デザインと設計表現	構想とドローイングを試作しておく エスキースを参考に、設計内容を改善する	1
第11回	設計課題2 Welfare Town (4) モデリング/レンダリング	モデリングやレンダリングを探求し試作しておく エスキースを参考に、表現技法を改善する	1
第12回	設計課題2 Welfare Town (5) 表現技法の探求	表現技法を探求し試作しておく エスキースを参考に、表現技法を改善する	1
第13回	設計課題2 Welfare Town (6) 建築企画書の修正	これまでの経過から建築企画書を修正しておく エスキースを参考に、表現技法を改善する	1
第14回	設計課題2 Welfare Town (7) 講評会 図面を掲示して、学科外の教員・学生らに解説し講評を受ける	講評会の発表内容を練る 発表における反省点をみつけ改善する	1

49 NPO論 Non-Profit Organization		LS-A-311	選択 2単位 4年前期
授業形態		該当科目	
単独(1人が全回担当)	<input type="radio"/>	教職科目 (工業)	
<input type="radio"/> 複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目 (商業)	
クラス分け(クラス分けて担当する)	<input type="radio"/>	地域志向科目	
	<input type="radio"/>	実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
4年全組 岸本 誠司			
授業の達成目標			
<p>昨今、民間と行政の垣根を越えて公益的な活動を行う団体の活躍が目覚ましい。とくに、多様な人々の安全安心な生活を維持向上させ、地域社会を円滑に運営していくうえで、もはや非営利団体の活用は不可欠の存在となっている。本講義では、この観点にたち、主に東北・宮城・仙台等で実践を重ねている非営利活用の多様に触れ、向き合っている社会的課題、解決のための方法論、官民含めた協力関係、マネジメント手法などの実際を学び、多様な立場の人々が社会を運営していく意義と手法を体得することを目標とする。</p>			
授業の概要			
<p>地域の価値を高める地域振興系の活動、誰一人取り残さないための地域福祉系活動、環境問題やSDGsに照らした環境保全系の活動など、NPOの活動フィールドは多岐にわたる。これらを総覧しつつ、実際の課題にフォーカスし、相互に考察を行っていく。講義では東北、仙台のNPOで活動する複数のゲストスピーカーを招き、各々が取り組んでいる社会的課題について学生とともに議論を深める。</p>			
実務経験を活かした教育について			
<p>担当者は民間団体、NPOなどで活動し、若者の起業等にも関わってきたことから、そうした経験をふまえて解説する。</p>			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
教科書：自作製作もので対応する。参考書：その都度対応する。			
参考書等			
成績評価方法・基準			
レポートを総合的に評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
レポートについては、授業時に全体に対しフィードバックを行う。			
備考			

49 NPO論 Non-Profit Organization		LS-A-311	選択 2単位 4年前期
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	ガイダンス (公民とNPO・NGOの概要)	NPOとは何かを調べておく	2
第2回	NPOとボランティア	国際NGOについて調べる	2
第3回	震災復興とNPO	ボランティアの多様性について調べておく	2
第4回	地域福祉とNPO	NPOとボランティアの相違性について再考する	2
第5回	多様な人々の参画とNPO	震災復興における市民活動を調べておく	2
第6回	セクターステークホルダー	東日本大震災におけるNPO活動を総括する	2
第7回	地域環境の保全とNPO	地域福祉における市民活動を調べておく	2
第8回	地域の価値向上とNPO	福祉の現場におけるNPO活動を総括する	2
第9回	企業CSRとNPO	弱者支援に関する市民活動を調べておく	2
第10回	考察・NPOによる地域振興論	障がい者支援等のNPO活動を総括する	2
第11回	NPOをとりまく諸制度	これまでの各種事例をふりかえっておく	2
第12回	社会システム・制度と地域固有の課題	講義・ディスカッション内容を総括する	2
第13回	地域コミュニティの再構築	SDGsに関わる市民活動を調べておく	2
第14回	NPO論のまとめ	環境保全系のNPO活動を総括する	2
		地域活性化における市民活動を調べておく	2
		価値共創におけるNPO活動を総括する	2
		企業CSRについて調べておく	2
		企業の各種活動とNPOとの関係等を総括する	2
		これまでの各種事例をふりかえっておく	2
		講義・ディスカッション内容を総括する	2
		NPOにかかる法制度を調べておく	2
		諸制度の活用法について再考する	2
		市民活動の功罪について多様な記事を調べておく	2
		総論と個別解について総括する	2
		コミュニティやネットワークについて調べておく	2
		地域コミュニティの基礎論を総括する	2
		これまでの各種事例をふりかえっておく	2
		講義・ディスカッション内容を総括する	2

50 住まいの施工と積算		LS-C-312	選択 2単位 4 年前期
Building Construction and Estimation			
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
<input type="radio"/> 単独(1人が全回担当)	<input type="radio"/> 教職科目 (工業)		
<input type="radio"/> 複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)	教職科目 (情報)		
<input type="radio"/> オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	教職科目 (商業)		
<input type="radio"/> クラス分け(クラス分けて担当する)	地域志向科目		
	<input type="radio"/> 実務経験のある教員担当		
	アクティブラーニング		
	メディア授業		
クラス・担当教員			
4 年全組 檜山 和宏			
授業の達成目標			
住宅・建築を具現化するための建築施工・建築施工管理および建築積算について、その考え方と基礎知識・技術を修得し、当該関連分野における探求力を涵養するとともに、実務遂行力の素地を形成する。			
授業の概要			
建築施工の概要、管理の実際、工種と職種、契約と見積および積算手法について、具体的な資料や施工写真を見ながら学習する。授業では、実務経験のある外部講師を招き、より実践的な授業構成とする。			
実務経験を活かした教育について			
担当教員は、建築士として、また建築設計事務所における設計実務に従事した実績と経験を活かして、授業において企画・設計・デザイン等の建築設計にかかわる実務への対応力を養成する。			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
「建築構法」市ヶ谷出版 内田祥哉・他「建築施工」彰国社 建築施工教科書研究会			
参考書等			
成績評価方法・基準			
授業中に出題する課題レポートをもとに、総合的に評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
レポートについては、次回授業時に全体に対しフィードバックを行う。			
備考			

50 住まいの施工と積算		LS-C-312	選択 2単位 4 年前期
Building Construction and Estimation			
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	建築施工・建築施工管理・建築積算 住宅を含む建築物の施工と管理および積算に関する基礎	シラバスおよび教科書・参考書等を一読しておく 講義をもとに基礎用語を整理し復習する	2 2
第2回	工種と職種 建築施工における工種と職種に関する基礎概念、建築技	教科書・参考書等を一読し、建築職人について事前に考察しておく 講義をもとに工種と職種について復習する	2 2
第3回	建設事業における契約・見積 建設事業のしくみ、ステークホルダーと、これを取り結	教科書・参考書等を一読しておく 講義をもとに契約と見積について復習する	2 2
第4回	建築施工の計画と管理/監理 建築施工における計画と管理/監理に関する基礎概念に	教科書・参考書等を一読し、建築職人について事前に考察しておく 講義をもとに工種と職種について復習する	2 2
第5回	各種工事 (1) 仮設工事 建築施工における各種工事のうち、仮設工事の実際について	教科書・参考書等を一読しておく 講義をもとに今回の学習内容について復習する	2 2
第6回	各種工事 (2) 土工事・地業工事 建築施工における各種工事のうち、土工事・地業工事の実際	教科書・参考書等を一読しておく 講義をもとに今回の学習内容について復習する	2 2
第7回	各種工事 (3) 鉄筋コンクリート工事・鉄骨工事 建築施工における各種工事のうち、鉄筋コンクリート工事・	教科書・参考書等を一読しておく 講義をもとに今回の学習内容について復習する	2 2
第8回	各種工事 (4) 木工事・木質系・内外装工事・仕上工事 建築施工における各種工事のうち、木工事・木質系・内外装	教科書・参考書等を一読しておく 講義をもとに今回の学習内容について復習する	2 2
第9回	各種工事 (5) リニューアル・リノベーション 建築施工における各種工事のうち、耐震改修、リノベシヨ	教科書・参考書等を一読しておく 講義をもとに今回の学習内容について復習する	2 2
第10回	各種工事 (6) 設備その他附帯工事 建築施工における各種工事のうち、設備その他附帯工事の実際	教科書・参考書等を一読しておく 講義をもとに今回の学習内容について復習する	2 2
第11回	積算の基礎(1) 建築工事のマネジメントと人件費の考え方 建築工事の全体的なマネジメントについて考察し、とくに人工と人件費の考え方について学ぶ。	教科書・参考書等を一読しておく 講義をもとに今回の学習内容について復習する	2 2
第12回	積算の基礎(2) 鉄筋コンクリート工事における部材の数量化 建築積算の具体例として、とくに鉄筋コンクリート工事における部材の数量化を題材として、その拾いと概算を体験的に学ぶ。	教科書・参考書等を一読しておく 講義をもとに今回の学習内容について復習する	2 2
第13回	積算の基礎(3) 木造住宅における部材の数量化 建築積算の具体例として、とくに木造住宅における部材の数量化を題材として、木拾いと材積および工事費の関係を体験的に学ぶ。	教科書・参考書等を一読しておく 講義をもとに今回の学習内容について復習する	2 2
第14回	積算の基礎(4) 仕上工事における材料の数量化施工と積算のまとめ。 建築積算の具体例として、とくに仕上工事における材料の数量化を題材として、工事面積の拾いや人工数の計算を体験的に学ぶ。施工と積算のまとめ。	教科書・参考書等を一読しておく 講義をもとに今回の学習内容について復習する	2 2

51	基礎セミナー I	LS-F-001	必修 1単位 1 年前期
	Home Seminar I		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
単独(1人が全回担当)		教職科目 (工業)	
○ 複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目 (商業)	
クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
1年全組 大沼 正寛 伊藤 美由紀 中井 周作 高木 理恵 畠山 雄豪 谷本 裕香子 岸本 誠司 栗原 広佑 大場 真			
授業の達成目標			
資料を収集・整理し、ゼミのグループでその結果をまとめ、学年全員の前で発表するための作業を行う。その過程を通して、大学における主体的な学習の仕方、生活デザインの基本的課題について認識できるようになることを目標とする。			
授業の概要			
各教員がそれぞれ数人の学生を担当する少人数セミナーである。学生は、週一度のセミナーに出席して、担当教員から、大学における主体的な学習の仕方や自律的な生活の仕方をはじめとするキャンパスライフ全般についてアドバイスを受けるとともに、担当教員の専門に応じて、安心で安全な生活デザインの入門的な課題について学習する。その上で、学科共通の課題および個々の教員の課題に沿った生活デザインツアーを実施するために、グループでディスカッションやプレゼンテーションを行い、企画を練り上げ、実行する。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
教科書なし、参考書は自作資料とする。			
参考書等			
成績評価方法・基準			
グループ課題、個人課題の内容、理解度や達成度を総合して可否を評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
課題については、授業時に全体に対しフィードバックを行う。			
備考			

51	基礎セミナー I	LS-F-001	必修 1単位 1 年前期
	Home Seminar I		
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	全体セミナー (ガイダンス)	これからの大学生活について、キャンパスライフやシラバスを読んで予習する。	0.5
第2回	全体セミナー (学生生活)	これからの大学生活について、キャンパスライフやシラバスを読んで予習する。	0.5
第3回	全体セミナー (教務関係)	履修登録や教務関係について、キャンパスライフやシラバスを読んで予習する。	0.5
第4回	全体セミナー (適正検査の解説)	適正検査について予習を行う。適正検査の結果を受け、自己分析を行う。	0.5
第5回	全体セミナー (振り返り)	これまでのセミナーをまとめることで予習を行う。	0.5
第6回	キャリア教育 (ガイダンスの確認)	取得できる資格や進路を確認する。進路について自分で調べ、予習を行う。	0.5
第7回	個別セミナー (文献調査)	新聞や日頃の関心を持つ文献を予習する。	0.5
第8回	個別セミナー (フィールド調査計画)	調査の進め方を自分なりに考え準備・予習をする。	0.5
第9回	個別セミナー (フィールド調査)	計画に沿って実施できるように振り返り予習を行う。	0.5
第10回	個別セミナー (振り返り)	実施結果やグループ (他学生) の意見をまとめる。フィールド調査結果をもとに復習を行う。	0.5
第11回	全体セミナー (聞き取る力を養う)	反省点や課題を整理する。個別セミナー全体をとおして振り返り、整理した資料をもとに復習を行う。	0.5
第12回	全体セミナー (まとめる力を養う)	新聞や日頃の生活に関心をもつことで予習を行う。	0.5
第13回	全体セミナー (話す力を養う)	聞いたことを整理する。全体セミナー (聞き取る力を養う) について整理した資料をもとに復習を行う。	0.5
第14回	全体セミナー (伝える力を養う)	新聞や日頃の生活に関心をもち予習を行う。	0.5
第15回	全体セミナー (伝える力を養う)	聞いたこと読んだことを言葉にする。まとめた資料をもとに復習を行う。	0.5
第16回	全体セミナー (伝える力を養う)	これまでにまとめた資料をもとに予習を行う。	0.5
第17回	全体セミナー (伝える力を養う)	新聞や日頃の生活に関心をもち読んだことを誰かに伝える。伝えた結果をもとに復習を行う。	0.5

52	基礎セミナー II	LS-F-002	必修 1単位 1年後期
	Home Seminar II		
授業形態		該当科目	SDGsの取り組み
単独(1人が全回担当)		教職科目(工業)	
○ 複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)		教職科目(情報)	
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目(商業)	
クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
1年全組 大沼 正寛 伊藤 美由紀 中井 周作 高木 理恵 畠山 雄豪 谷本 裕香子 岸本 誠司 栗原 広佑 大場 真			
授業の達成目標			
資料を収集・整理し、ゼミのグループでその結果をまとめ、学年全員の前で発表する。その過程を通して、大学における主体的な学習の仕方、生活デザインの基本的課題について認識できるようになることを目標とする。併せて、学生は、それぞれ自己の将来の進路を考える。			
授業の概要			
少人数ゼミナールである基礎セミナーIに引き続き、ここでは、学科共通の課題および個々の教員の課題に沿った生活デザインツアーの結果について、グループでディスカッションやプレゼンテーションを行いながら、安全で安心な生活デザインのさまざまな課題に対する眼を養う。また、学生は、検査結果の分析と学生自身の将来像に関するレポート作成を行う。これらを通して、分析力と構想力を養うことを狙いとする。そして、今後の学習の方法と内容および将来の進路や職業を展望する。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
教科書なし、参考書は自作資料とする。			
参考書等			
成績評価方法・基準			
グループ課題、個人課題の内容、理解度や達成度を総合して可否を評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
課題については、授業時に全体に対しフィードバックを行う。			
備考			

52	基礎セミナー II	LS-F-002	必修 1単位 1年後期
	Home Seminar II		
授業計画(各回の学習内容等)			
	学習内容(授業方法)	学習課題(上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	全体セミナー(ガイダンス)	これからの学生生活について、キャンパスライフやシラバスを読んで予習する。	0.5
第2回	全体セミナー(学生生活・教務)	これからの学生生活について、キャンパスライフやシラバスを読んで復習する。	0.5
第3回	個別セミナー(フィールドワークの結果のまとめ)	学生生活・教務関係について、キャンパスライフやシラバスを読んで予習する。	0.5
第4回	個別セミナー(発表資料作成)	学生生活・教務関係について、キャンパスライフやシラバスを読んで復習する。	0.5
第5回	個別セミナー(発表練習)	基礎セミナーIでのフィールドワークの結果を振り返り予習を行う。	0.5
第6回	全体セミナー(フィールドワークの発表)	まとめた結果をもとに復習を行う。	0.5
第7回	全体セミナー(発表の評価)	基礎セミナーIでのフィールドワークの結果をもとに予習を行う。	0.5
第8回	学外活動	作成した発表資料をもとに復習を行う。	0.5
第9回	全体セミナー(自己分析)	発表資料をもとに予習を行う。	0.5
第10回	全体セミナー(社会人としての心構え)	基礎セミナーIでのフィールドワークの発表練習の結果をもとに復習を行う。	0.5
第11回	全体セミナー(自己紹介・他者紹介)	発表練習をもとに予習を行う。	0.5
第12回	SPI 適正検査対策(言語分野)	基礎セミナーIでのフィールドワークの発表を行った結果をもとに復習を行う。	0.5
第13回	SPI 適正検査対策(非言語分野)	発表結果をもとに予習を行う。	0.5
第14回	全体セミナー(振り返り)	他グループとともに行った発表内容の評価結果をもとに復習を行う。	0.5
		学外での活動内容について事前に調べ予習を行う。	0.5
		参加した学外活動の結果をまとめ復習を行う。	0.5
		自己分析について予習を行う。	0.5
		自己分析を行い、今後の進路についての展望をもとに復習を行う。	0.5
		社会人になることを考え社会人生活について予習を行う。	0.5
		確認した社会人としての心構えを復習する。	0.5
		自己分析の結果をもとに予習を行う。	0.5
		自己紹介と他者紹介からの得た自己評価を復習する。	0.5
		言語能力について課題に目を通し予習を行う。	0.5
		言語分野についての講座の内容を整理・理解し復習を行う。	0.5
		非言語能力について課題に目を通し予習を行う。	0.5
		非言語分野についての講座の内容を整理・理解し復習を行う。	0.5
		基礎セミナーII全体を振り返り予習を行う。	0.5
		まとめた振り返り結果をもとに復習を行う。	0.5

53	基礎セミナーⅢ	LS-F-003	必修 1単位 2 年前期
	Home Seminar III		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
単独(1人が全回担当)		教職科目 (工業)	
○ 複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目 (商業)	
クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
2年全組 大沼 正寛 伊藤 美由紀 中井 周作 高木 理恵 畠山 雄豪 谷本 裕香子 岸本 誠司 栗原 広佑 大場 真			
授業の達成目標			
適性検査による自己分析より進路を考える。インターシップに関する情報やこれらを通して、「実践するための方法」と内容の把握や「自らの専門性の適性判断」などを、自ら実践出来る様になることを目指す。			
授業の概要			
適性検査は1年間の学生生活を踏まえた「自己プログレスレポート」とし、自己の成長度合いや今後の適正な進路を、ある程度確認できるものである。更に、進路を考えるために、インターシップの実習やグループディスカッションを実践する。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
教科書なし、参考書は自作資料とする。			
参考書等			
成績評価方法・基準			
グループ課題、個人課題の内容、理解度や達成度から可否を評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
課題については、授業時に全体に対しフィードバックを行う。			
備考			

53	基礎セミナーⅢ	LS-F-003	必修 1単位 2 年前期
	Home Seminar III		
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	全体セミナー (ガイダンス)	大学生活について、キャンパスライフやシラバスを読んで予習する。	0.5
第2回	全体セミナー (学生生活・教務)	大学生活について、キャンパスライフやシラバスを読んで復習する。	0.5
第3回	全体セミナー (学生生活・教務)	学生生活や教務関係について、キャンパスライフやシラバスを読んで予習する。	0.5
第4回	全体セミナー (学生生活・教務)	学生生活や教務関係について、キャンパスライフやシラバスを読んで復習する。	0.5
第5回	本学が行う適性検査「自己プログレスレポート」を受検する。	適性検査について予習を行う。適性検査を受け、自己分析を行う。	0.5
第6回	学外活動	自己分析結果をもとに復習を行う。	0.5
第7回	学外活動	学外での活動内容について事前に調べ予習を行う。	0.5
第8回	学外活動	学外活動に参加する。参加した活動内容をまとめ復習を行う。	0.5
第9回	適性検査の解説	適性検査について予習を行う。適性検査の解説を受け、自己分析を行い将来を展望する。	0.5
第10回	適性検査の解説	展望をもとに復習を行う。	0.5
第11回	インターシップの紹介	インターシップについて情報を集め予習を行う。インターシップについて学び、進路先を展望する。	0.5
第12回	インターシップの紹介	展望をもとに復習を行う。	0.5
第13回	インターシップ実習先の選択	自己分析をもとに予習を行う。インターシップの実習先をこれまでの自己分析を踏まえ選択する。	0.5
第14回	インターシップ実習先の選択	選択した結果をもとに復習を行う。	0.5
第15回	インターシップに向けての準備	インターシップについて予習を行う。インターシップの実習に向けての準備を行う。	0.5
第16回	インターシップに向けての準備	準備をもとに復習を行う。	0.5
第17回	全体セミナー (聞き取る力を養う)	将来の進路を見据え予習を行う。新聞や日頃の生活に関心をもち聞いたことを整理する。	0.5
第18回	全体セミナー (聞き取る力を養う)	整理した資料をもとに復習を行う。	0.5
第19回	全体セミナー (まとめる力を養う)	将来の進路を見据え予習を行う。新聞や日頃の生活に関心をもち聞いたことと読んだことをまとめる。	0.5
第20回	全体セミナー (まとめる力を養う)	まとめた資料をもとに復習を行う。	0.5
第21回	全体セミナー (話す力を養う)	将来の進路を見据えた予習を行う。新聞や日頃の生活に関心をもち聞いたことと読んだことを言葉にする。	0.5
第22回	全体セミナー (話す力を養う)	言葉にしたものをもとに復習を行う。	0.5
第23回	全体セミナー (伝える力を養う)	将来の進路を見据え予習を行う。新聞や日頃の生活に関心をもち読んだことを誰かに伝える。	0.5
第24回	全体セミナー (伝える力を養う)	伝えた結果をもとに復習を行う。	0.5
第25回	グループディスカッション	グループディスカッションについて予習をする。グループディスカッションの方法を学び、新たな考え方を身につける。	0.5
第26回	グループディスカッション	ディスカッションの内容をもとに復習を行う。	0.5
第27回	個別セミナー (進路相談・振り返り)	セミナー全体を振り返り進路先について予習を行う。進路相談を個別で行う。	0.5
第28回	個別セミナー (進路相談・振り返り)	相談の内容をもとに復習を行う。	0.5

54	キャリアセミナーⅠ Carrier Seminar I	LS-F-004	必修 1単位 2年後期
授業形態		該当科目	
単独(1人が全回担当)	教職科目(工業)	SDGsの取り組み	
○複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)	教職科目(情報)		
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	教職科目(商業)		
クラス分け(クラス分けて担当する)	地域志向科目		
	実務経験のある教員担当		
	アクティブラーニング		
	メディア授業		
クラス・担当教員			
2年全組 大沼 正寛 伊藤 美由紀 中井 周作 高木 理恵 畠山 雄豪 谷本 裕香子 岸本 誠司 栗原 広佑 大場 真			
授業の達成目標			
自分に相応しい業種・職種の分析を踏まえ、その上でキャリアビジョンシートが作成できること。			
授業の概要			
地域福祉系・住まい系・暮らし系の分野に関わって活動する実践者からの講話を通して、各自の進路の方向性を見極めることを目指す。具体的には、キャリアビジョンシートを作成し各セミナー担当教員からの指導・助言を受ける。また、適性検査としてSPI検査を実施し、その結果からキャリアビジョンシートに反映できるようにする。これらを通して、社会が求める人物像や将来の姿を思考する力を身につけることを目指す。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
SPI適性検査解説書 講話者の概要書			
参考書等			
成績評価方法・基準			
SPI対策講座の小テスト、各講話のレポートとキャリアビジョンシートによって合否を評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
レポートについては、授業時に全体に対しフィードバックを行う。			
備考			

54	キャリアセミナーⅠ Carrier Seminar I	LS-F-004	必修 1単位 2年後期
授業計画(各回の学習内容等)			
	学習内容(授業方法)	学習課題(上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	ガイダンス(授業の全体の流れを解説)	シラバスの学習目標や学習内容の予習	0.5
第2回	SPI適性検査対策講座1(言語能力 語句の関係と熟語)	言語能力についての課題の予習 講座の内容(言語能力 語句の関係と熟語)を復習	0.5 0.5
第3回	SPI適性検査対策講座2(言語能力 長文読解)	言語能力についての予習 講座の内容(言語能力 長文読解)を復習	0.5 0.5
第4回	SPI適性検査対策講座3(非言語能力 表・資料の読み取り)	非言語能力についての課題の予習 講座の内容(非言語能力 表・資料の読み取り)を復習	0.5 0.5
第5回	SPI適性検査対策講座4(非言語能力 数的推理)	非言語能力についての課題の予習 講座の内容(非言語能力 数的推理)を復習	0.5 0.5
第6回	SPI適性検査を受検する	SPI適性検査を受検するために前回までの講座の予習 適性検査の内容を復習	0.5 0.5
第7回	「くらし分野」：地方自治体の方の講話を聞きレポートにまとめる	地方自治体についての予習 地方自治体の方の講話の内容を復習	0.5 0.5
第8回	「くらし分野」：地場産業の企業家の講話を聞きレポートにまとめる。	地場産業についての予習 地場産業の企業家の方の講話の内容を復習	0.5 0.5
第9回	「住まい分野」：住宅産業界の方の講話を聞きレポートにまとめる。	住宅産業界についての予習 住宅産業界の方の講話の内容を復習	0.5 0.5
第10回	「住まい分野」：不動産業界の方の講話を聞きレポートにまとめる。	不動産業界についての予習 不動産業界の方の講話の内容を復習	0.5 0.5
第11回	「地域福祉分野」：介護事業の実践者の講話を聞きレポートにまとめる。	介護事業についての予習 介護事業の実践者の講話の内容を復習	0.5 0.5
第12回	「地域福祉分野」：介護機器製作の実践者の講話を聞きレポートにまとめる。	介護機器についての予習 介護機器製作の実践者の講話の内容を復習	0.5 0.5
第13回	SPI適性検査結果の解説を受ける	SPIの事前調査と予習 解説を受けて自己分析や進路について復習	0.5 0.5
第14回	キャリアビジョンシートの作成を行い、発表会を実施する	キャリアビジョンシートを作成し、発表の準備を行う 講座の内容や他の人の発表内容を復習	0.5 0.5

55 キャリアセミナーⅡ Carrier Seminar II		LS-F-005	必修 1単位 3 年前期
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
単独(1人が全回担当)	教職科目 (工業)		
○ 複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)	教職科目 (情報)		
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	教職科目 (商業)		
クラス分け(クラス分けて担当する)	地域志向科目		
	実務経験のある教員担当		
	アクティブラーニング		
	メディア授業		
クラス・担当教員			
3年全組 大沼 正寛 伊藤 美由紀 中井 周作 高木 理恵 畠山 雄豪 谷本 裕香子 栗原 広佑 大場 真 田中 望			
授業の達成目標			
キャリア形成支援科目の最終年科目(前期)として、進路開拓に必要なスタディ・スキルとキャリアアップ・レクチャを織り交ぜながら、日常の修学の補完と人間力形成を図る。			
授業の概要			
ホームルーム/ インターンシップ/ キャリアアップ・レクチャ/ スタディ・スキルの4カテゴリーから、様々な内容の修得をする。生活文化ユニット、生活福祉ユニット、生活環境ユニットに関わって活動する実践者からの講話を通して、各自の進路の方向性を見きぎことを目指す。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
指定しない。必要な情報は適宜配付・周知する。			
参考書等			
成績評価方法・基準			
授業の目的に照らし、その取り組み状況と達成度合いから可否を評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
レポートについては、授業時に全体に対しフィードバックを行う。			
備考			

55 キャリアセミナーⅡ Carrier Seminar II		LS-F-005	必修 1単位 3 年前期
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	ホームルーム 01: 進路とコース選択	自分の進路についての構想とその予習 自分の興味関心のある研究分野や職種の内容について復習	0.5 0.5
第2回	スタディ・スキル 01: 言語系	言語系の課題の予習 スタディ・スキル言語系の内容の復習	0.5 0.5
第3回	スタディ・スキル 02: 非言語系	非言語系の課題の予習 スタディ・スキル非言語系の内容の復習	0.5 0.5
第4回	ホームルーム 02: インターンシップの紹介	自分の興味のある職種や企業についての予習 インターンシップの内容について復習	0.5 0.5
第5回	ホームルーム 03: キャリア・アプローチ試験	キャリア・アプローチ試験のための予習 試験の内容の復習	0.5 0.5
第6回	キャリアアップ・レクチャ 01: 業界研究 建築系	業界研究の建築について事前に提示されたキーワードについて予習 配付された業界研究についての資料を復習	0.5 0.5
第7回	キャリアアップ・レクチャ 02: 業界研究 建設系	業界研究の建設について事前に提示されたキーワードについて予習 配付された業界研究についての資料を復習	0.5 0.5
第8回	キャリアアップ・レクチャ 03: 業界研究 製造	業界研究の製造について事前に提示されたキーワードについて予習 配付された業界研究についての資料を復習	0.5 0.5
第9回	ホームルーム 04: 研究分野と進路の紹介	自分の興味関心のある研究テーマや進路についての予習/ 研究分野の内容について復習 配付された業界研究についての資料を復習	0.5 0.5
第10回	ホームルーム 05: キャリア・アプローチ解答と解説	キャリア・アプローチについて事前に提示されたキーワードについて予習 配付されたキャリア・アプローチについての資料を復習	0.5 0.5
第11回	キャリアアップ・レクチャ 04: 業界研究 行政	業界研究の行政について事前に提示されたキーワードについて予習 配付された業界研究についての資料を復習	0.5 0.5
第12回	キャリアアップ・レクチャ 05: 業界研究 サービス	業界研究のサービスについて事前に提示されたキーワードについて予習 配付された業界研究についての資料を復習	0.5 0.5
第13回	キャリアアップ・レクチャ 06: 業界研究 医療福祉	業界研究の医療福祉について事前に提示されたキーワードについて予習 配付された業界研究についての資料を復習	0.5 0.5
第14回	ホームルーム 06: 進路開拓を考える	進路開拓について事前に提示されたキーワードについて予習 配付された進路開拓についての資料を復習	0.5 0.5

56	キャリアセミナーⅢ	LS-F-006	必修 1単位 3年後期
	Carrier Seminar III		
授業形態		該当科目	SDGsの取り組み
単独(1人が全回担当)		教職科目(工業)	
○複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)		教職科目(情報)	
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目(商業)	
クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
3年全組 大沼 正寛 伊藤 美由紀 中井 周作 高木 理恵 畠山 雄豪 谷本 裕香子 栗原 広佑 大場 真 田中 望			
授業の達成目標			
前期に引き続き、進路開拓に必要なスタディ・スキル、キャリアアップ・レクチャを織り交ぜつつ、キャリア形成支援科目の最終段階として、社会人を身につける。			
授業の概要			
ホームルーム/ インターンシップ/ キャリアアップ・レクチャ/ スタディ・スキルの4カテゴリーから、様々な内容の修得をする。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
指定しない。必要な情報は適宜配付・周知する。			
参考書等			
成績評価方法・基準			
授業の目的に照らし、その取り組み状況と達成度合いから可否を評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
レポートについては、授業時に全体に対しフィードバックを行う。			
備考			

56	キャリアセミナーⅢ	LS-F-006	必修 1単位 3年後期
	Carrier Seminar III		
授業計画(各回の学習内容等)			
	学習内容(授業方法)	学習課題(上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	ホームルーム 01: 就職とは何か	自分の興味のある職種について予習 自分の興味のある職種について復習	0.5 0.5
第2回	スタディ・スキル 01: 言語系	言語系の課題の予習 スタディ・スキル言語系の復習	0.5 0.5
第3回	スタディ・スキル 02: 非言語系	非言語系の課題の予習 スタディ・スキル非言語系の復習	0.5 0.5
第4回	スタディ・スキル 03: 総合系	総合系の課題の予習 スタディ・スキル総合系の復習	0.5 0.5
第5回	キャリアアップ・レクチャ 01: 進路と履歴	進路と履歴について事前に提示されたキーワードについての予習 配付された進路と履歴についての資料の復習	0.5 0.5
第6回	キャリアアップ・レクチャ 02: 就活支援講座1	就活支援講座1について事前に提示されたキーワードについての予習 配付された就活支援講座1についての資料の復習	0.5 0.5
第7回	キャリアアップ・レクチャ 03: 就活支援講座2	就活支援講座2について事前に提示されたキーワードについての予習 配付された就活支援講座2についての資料の復習	0.5 0.5
第8回	キャリアアップ・レクチャ 04: 就活支援講座3	就活支援講座3について事前に提示されたキーワードについての予習 配付された就活支援講座3についての資料の復習	0.5 0.5
第9回	キャリアアップ・レクチャ 05: 就活支援講座4	就活支援講座4について事前に提示されたキーワードについての予習 配付された就活支援講座4についての資料の復習	0.5 0.5
第10回	キャリアアップ・レクチャ 06: 就活支援講座5	就活支援講座5について事前に提示されたキーワードについての予習 配付された就活支援講座5についての資料の復習	0.5 0.5
第11回	キャリアアップ・レクチャ 07: 履歴書作成とマナー	履歴書作成とマナーについて事前に提示されたキーワードについての予習 配付された履歴書作成とマナーについての資料の復習	0.5 0.5
第12回	ホームルーム 02: 冬季インターンシップ1	冬季インターンシップ1について事前に提示されたキーワードについての予習 配付された冬季インターンシップ1についての資料の復習	0.5 0.5
第13回	ホームルーム 03: 冬季インターンシップ2	冬季インターンシップ2について事前に提示されたキーワードについての予習 配付された冬季インターンシップ2についての資料の復習	0.5 0.5
第14回	ホームルーム 04: 進路個別相談	個別面談に向けて自分の進路のまとめとその予習 個別面談に向けて自分の進路のまとめとその復習	0.5 0.5

57

生活デザイン特別課外活動Ⅰ LS-D-007

選択 1単位 1年前期～4年後期

Extracurricular Activities in Design for Social System and Living Environment Ⅱ

全学年全組 学科長 大沼 正寛

●授業の達成目標

正規授業内では得られない経験や知識を課外で修得し、本学科の理念や目的をより広く、より深く達成させる。
本学科の専門に関連深い資格取得、検定等の合格、及び学科が指定する課外活動（教育的な意味、効果が得られるもの）、各種デザインコンペ等への応募に対して本人が単位申請を行った場合、学科で審査の上、上限4単位で専門科目としての単位認定を行う。

●授業の概要

単位認定を希望する学生は、教務学生課又は長町キャンパス事務室に申し出て「生活デザイン特別課外活動単位認定申請書」を受け取り、必要事項を記入の上、以下に示す1から3それぞれの単位認定の方法に応じて必要となる申請書類とともに、教務学生課又は長町キャンパス事務室に提出すること。提出の締切は、学期末の7月末日と1月末日とする。

1. 資格取得による単位認定

本学科の専門に関連のある資格を取得した場合、あるいは検定に合格した場合は、専門教育科目に申請できる。どのような資格や検定が「生活デザイン特別課外活動」の対象となるか、また、それら資格や検定の評価については、下記の認定例を参考とされたい。また前期および後期のオリエンテーション等で説明する。

<申請書類>

- ・生活デザイン特別課外活動単位認定申請書：取得した資格または合格した検定の名称、及び取得年月日を記入すること
- ・資格の取得や検定の合格を証明する書類のコピー（合格証や資格証明書）

2. 学科が指定する課外活動による単位認定

学科が指定する課外活動は、以下の（1）から（4）の4項目である。

- （1）学科内の各研究室が単独または合同で実施する調査研究・各種ゼミへの参加。
- （2）企業実習などへの参加。
- （3）自主的に行う国内・国外の生活デザイン見聞旅行の計画・実施。
- （4）その他、学科で認めた活動。

これらの活動を5日間以上行うこと。評価は、「活動における自主性、能動性の度合い」「活動内容の充実度」「活動の成果の大きさ」の3つの観点から行う。

<申請書類>

- ・生活デザイン特別課外活動単位認定申請書：課外活動を行った場所、期間、内容等について記入すること
- ・活動報告書：A4用紙で10枚程度。企業実習の場合は大学所定の「実習報告書」が良い。
- ・参加を証明する資料：企業実習の場合は大学所定のインターンシップ「評価票」が良い。

3. 各種デザインコンペ・学会発表等への応募による単位認定

各種デザインコンペ・学会発表等の応募に対する評価は、顕彰の程度を適正に考慮し行う。申請方法については、ゼミの指導教員と相談の上決定する。

4. 認定の方法

単位認定の審査は、生活デザイン学科の学科会議で行い、学科長が単位認定する。

資格取得または検定等の主な認定例

資格等名称	単位
福祉住環境コーディネーター検定2級	2
商業施設士補	2
PL検定3級	2
インテリアコーディネーター	
カラーコーディネーター検定3級	
色彩検定3級	

※認定希望者は事前に教務学生課又は長町キャンパス事務室に問合せること。

58

生活デザイン特別課外活動Ⅱ

LS-D-008

選択 1単位 1年前期～4年後期

Extracurricular Activities in Design for Social System and Living Environment Ⅱ

全学年全組 学科長 大沼 正寛

●授業の達成目標

正規授業内では得られない経験や知識を課外で修得し、本学科の理念や目的をより広く、より深く達成させる。
本学科の専門に関連深い資格取得、検定等の合格、及び学科が指定する課外活動（教育的な意味、効果が得られるもの）、各種デザインコンペ等への応募に対して本人が単位申請を行った場合、学科で審査の上、上限4単位で専門科目としての単位認定を行う。

●授業の概要

単位認定を希望する学生は、教務学生課又は長町キャンパス事務室に申し出て「生活デザイン特別課外活動単位認定申請書」を受け取り、必要事項を記入の上、以下に示す1から3それぞれの単位認定の方法に応じて必要となる申請書類とともに、教務学生課又は長町キャンパス事務室に提出すること。提出の締切は、学期末の7月末日と1月末日とする。

1. 資格取得による単位認定

本学科の専門に関連のある資格を取得した場合、あるいは検定に合格した場合は、専門教育科目に申請できる。どのような資格や検定が「生活デザイン特別課外活動」の対象となるか、また、それら資格や検定の評価については、下記の認定例を参考とされたい。また前期および後期のオリエンテーション等で説明する。

<申請書類>

- ・生活デザイン特別課外活動単位認定申請書：取得した資格または合格した検定の名称、及び取得年月日を記入すること
- ・資格の取得や検定の合格を証明する書類のコピー（合格証や資格証明書）

2. 学科が指定する課外活動による単位認定

学科が指定する課外活動は、以下の（1）から（4）の4項目である。

- （1）学科内の各研究室が単独または合同で実施する調査研究・各種ゼミへの参加。
- （2）企業実習などへの参加。
- （3）自主的に行う国内・国外の生活デザイン見聞旅行の計画・実施。
- （4）その他、学科で認めた活動。

これらの活動を5日間以上行うこと。評価は、「活動における自主性、能動性の度合い」「活動内容の充実度」「活動の成果の大きさ」の3つの観点から行う。

<申請書類>

- ・生活デザイン特別課外活動単位認定申請書：課外活動を行った場所、期間、内容等について記入すること
- ・活動報告書：A4用紙で10枚程度。企業実習の場合は大学所定の「実習報告書」が良い。
- ・参加を証明する資料：企業実習の場合は大学所定のインターンシップ「評価票」が良い。

3. 各種デザインコンペ・学会発表等への応募による単位認定

各種デザインコンペ・学会発表等の応募に対する評価は、顕彰の程度を適正に考慮し行う。申請方法については、ゼミの指導教員と相談の上決定する。

4. 認定の方法

単位認定の審査は、生活デザイン学科の学科会議で行い、学科長が単位認定する。

資格取得または検定等の主な認定例

資格等名称	単位
福祉住環境コーディネーター検定2級	2
商業施設士補	2
PL検定3級	2
インテリアコーディネーター	
カラーコーディネーター検定3級	
色彩検定3級	

※認定希望者は事前に教務学生課又は長町キャンパス事務室に問合せること。

59

生活デザイン特別課外活動Ⅲ LS-D-009

選択 2単位 1年前期～4年後期

Extracurricular Activities in Design for Social System and Living Environment Ⅲ

全学年全組 学科長 大沼 正寛

●授業の達成目標

正規授業内では得られない経験や知識を課外で修得し、本学科の理念や目的をより広く、より深く達成させる。
本学科の専門に関連深い資格取得、検定等の合格、及び学科が指定する課外活動（教育的な意味、効果が得られるもの）、各種デザインコンペ等への応募に対して本人が単位申請を行った場合、学科で審査の上、上限4単位で専門科目としての単位認定を行う。

●授業の概要

単位認定を希望する学生は、教務学生課又は長町キャンパス事務室に申し出て「生活デザイン特別課外活動単位認定申請書」を受け取り、必要事項を記入の上、以下に示す1から3それぞれの単位認定の方法に応じて必要となる申請書類とともに、教務学生課又は長町キャンパス事務室に提出すること。提出の締切は、学期末の7月末日と1月末日とする。

1. 資格取得による単位認定

本学科の専門に関連のある資格を取得した場合、あるいは検定に合格した場合は、専門教育科目に申請できる。どのような資格や検定が「生活デザイン特別課外活動」の対象となるか、また、それら資格や検定の評価については、下記の認定例を参考とされたい。また前期および後期のオリエンテーション等で説明する。

<申請書類>

- ・生活デザイン特別課外活動単位認定申請書：取得した資格または合格した検定の名称、及び取得年月日を記入すること
- ・資格の取得や検定の合格を証明する書類のコピー（合格証や資格証明書）

2. 学科が指定する課外活動による単位認定

学科が指定する課外活動は、以下の（1）から（4）の4項目である。

- （1）学科内の各研究室が単独または合同で実施する調査研究・各種ゼミへの参加。
- （2）企業実習などへの参加。
- （3）自主的に行う国内・国外の生活デザイン見聞旅行の計画・実施。
- （4）その他、学科で認めた活動。

これらの活動を10日間以上行うこと。評価は、「活動における自主性、能動性の度合い」「活動内容の充実度」「活動の成果の大きさ」の3つの観点から行う。

<申請書類>

- ・生活デザイン特別課外活動単位認定申請書：課外活動を行った場所、期間、内容等について記入すること
- ・活動報告書：A4用紙で10枚程度。企業実習の場合は大学所定の「実習報告書」が良い。
- ・参加を証明する資料：企業実習の場合は大学所定のインターンシップ「評価票」が良い。

3. 各種デザインコンペ・学会発表等への応募による単位認定

各種デザインコンペ・学会発表等の応募に対する評価は、顕彰の程度を適正に考慮し行う。申請方法については、ゼミの指導教員と相談の上決定する。

4. 認定の方法

単位認定の審査は、生活デザイン学科の学科会議で行い、学科長が単位認定する。

資格取得または検定等の主な認定例

資格等名称	単位
福祉住環境コーディネーター検定2級	2
商業施設士補	2
PL検定3級	2
インテリアコーディネーター	
カラーコーディネーター検定3級	
色彩検定3級	

※認定希望者は事前に教務学生課又は長町キャンパス事務室に問合せること

60

生活デザイン特別課外活動Ⅳ

LS-D-010

選択 2単位 1年前期～4年後期

Extracurricular Activities in Design for Social System and Living Environment Ⅳ

全学年全組 学科長 大沼 正寛

●授業の達成目標

正規授業内では得られない経験や知識を課外で修得し、本学科の理念や目的をより広く、より深く達成させる。
本学科の専門に関連深い資格取得、検定等の合格、及び学科が指定する課外活動（教育的な意味、効果が得られるもの）、各種デザインコンペ等への応募に対して本人が単位申請を行った場合、学科で審査の上、上限4単位で専門科目としての単位認定を行う。

●授業の概要

単位認定を希望する学生は、教務学生課又は長町キャンパス事務室に申し出て「生活デザイン特別課外活動単位認定申請書」を受け取り、必要事項を記入の上、以下に示す1から3それぞれの単位認定の方法に応じて必要となる申請書類とともに、教務学生課又は長町キャンパス事務室に提出すること。提出の締切は、学期末の7月末日と1月末日とする。

1. 資格取得による単位認定

本学科の専門に関連のある資格を取得した場合、あるいは検定に合格した場合は、専門教育科目に申請できる。どのような資格や検定が「生活デザイン特別課外活動」の対象となるか、また、それら資格や検定の評価については、下記の認定例を参考とされたい。また前期および後期のオリエンテーション等で説明する。

<申請書類>

- ・生活デザイン特別課外活動単位認定申請書：取得した資格または合格した検定の名称、及び取得年月日を記入すること
- ・資格の取得や検定の合格を証明する書類のコピー（合格証や資格証明書）

2. 学科が指定する課外活動による単位認定

学科が指定する課外活動は、以下の（1）から（4）の4項目である。

- （1）学科内の各研究室が単独または合同で実施する調査研究・各種ゼミへの参加。
- （2）企業実習などへの参加。
- （3）自主的に行う国内・国外の生活デザイン見聞旅行の計画・実施。
- （4）その他、学科で認めた活動。

これらの活動を10日間以上行うこと。評価は、「活動における自主性、能動性の度合い」「活動内容の充実度」「活動の成果の大きさ」の3つの観点から行う。

<申請書類>

- ・生活デザイン特別課外活動単位認定申請書：課外活動を行った場所、期間、内容等について記入すること
- ・活動報告書：A4用紙で10枚程度。企業実習の場合は大学所定の「実習報告書」が良い。
- ・参加を証明する資料：企業実習の場合は大学所定のインターンシップ「評価票」が良い。

3. 各種デザインコンペ・学会発表等への応募による単位認定

各種デザインコンペ・学会発表等の応募に対する評価は、顕彰の程度を適正に考慮し行う。申請方法については、ゼミの指導教員と相談の上決定する。

4. 認定の方法

単位認定の審査は、生活デザイン学科の学科会議で行い、学科長が単位認定する。

資格取得または検定等の主な認定例

資格等名称	単位
福祉住環境コーディネーター検定2級	2
商業施設士補	2
PL 検定3級	2
インテリアコーディネーター	
カラーコーディネーター検定3級	
色彩検定3級	

※認定希望者は事前に教務学生課又は長町キャンパス事務室に問合せること。

61	他学科開講科目群 LS-D-011	選択 6単位 1年後期～4年後期
Subjects offered by other departments		
<p>●授業の達成目標 選択する科目により異なる。</p> <p>●授業の概要 学生が本学科における専門知識をより深く理解するため、他学科の開講科目を履修する機会を設けている。他学科の専門科目として開講されている講義等を履修することにより、単位が認定される。受講に際しては、長町キャンパス事務室（八木山キャンパス・学生サポートオフィス）から、専用の申込用紙を受け取ること。先ず、科目担当教員の了解を得て、本学科教務委員に提出すること。詳細は、当該科目のシラバスを参照のこと。</p> <p>●成績評価方法・基準 それぞれ当該科目における方法、基準による。（当該科目のシラバス参照）</p>		

62	他大学開講科目群 LS-D-012	選択 4単位 1年後期～4年前期
Subjects offered by other departments		
<p>●授業の達成目標 履修する科目により異なる。</p> <p>●授業の概要 詳細については学生便覧の「他大学開講科目」、キャンパスライフの「学都仙台単位互換ネットワーク協定および国内外の大学等との単位互換に関する協定に基づく東北工業大学特別聴講学生取扱要項」などを参照のこと。</p>		